

MITSUBISHI

三菱デジタルレコーダー

形名

DX-TL5500

取扱説明書

工事業者向け



Digital Recorder

このたびは三菱デジタルレコーダーをお買い上げいただきありがとうございました。

- ・ ご使用になる前に、正しく安全にお使いいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保存し、必要なときにお読みください。
- ・ 保証書は必ず「お買い上げ日」「販売店名」などの記入をお確かめの上、販売店からお受取りください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。記録したデータを個人的に楽しむほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

はじめに

接続・基本操作

メニュー一覧

運用

基本機能

通信

記録時間表

故障かな？

設定リスト

用語集・仕様

デジタルレコーダーを正しく安全にご使用いただくために、ご使用になる前に必ず7～12ページをお読みください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

本機の主な特長

本機は、メインメモリーとしてのHDD及び16入力チャンネルマルチプレクサ機能を内蔵しています。また、高度な映像信号とデータ処理技術で、高画質、安定した運用、信頼性を実現します。グラフィカルなユーザーインターフェースや外部機器の設定を、簡単に操作することができ、快適にライブ映像の監視や記録したデータの書き出しなどのデータの取り扱いをすることができます。本機は、優れた性能と、あらゆる映像監視用途に対応することができる機能を備えています。

960pps*の更新速度

新開発のマルチプレクサ回路により、16分割画面で全カメラを60ppsの速度で更新することができます。

pps* : picture per second

トリプレックス

記録を中断させることなく、1台のモニターで全画面を表示しながらライブ映像と再生映像を見ることができます。

マルチプレクサ2系統

2台のモニターを接続し、それぞれのモニター上で1画表示、4・9・10・13・16分割画表示、カメラ番号の切り換え、アラーム表示設定ができるよう、映像出力を2系統備えました(出力A/B)。メニュー画面は、出力Aのモニターにのみ表示されます。また、2つの映像出力を使って、違うカメラの再生映像を同時に見ることが可能です。

カメラ表示設定

慎重な扱いを要する場所に設置されたカメラの映像を隠し、許可された人のみが見ることができるように設定することができます。この設定は、メニューの<マルチプレクサの設定をする>にて行います。

GUI

設定メニューを見やすく、また早く操作設定できるように、メニュー、GUI(Graphical User Interface)を搭載しています。また、ヘルプボタンを押すだけで、メニュー操作についての詳しい情報を画面に表示することができます。メニュー画面は、日本語及び英語に対応しています。メニュー操作は、本機前面部の操作ボタンまたはUSBマウスを使用して行います。

最大240ppsの記録コマ数

新記録回路及び圧縮チップの採用により、最大で合計240ppsの速度で記録することができます。つまり、16チャンネル全てで最大15ppsの速度で記録することが可能です。この速度で記録された映像は、リアルタイムで見える映像と同じ感覚で見ることができます。

JPEG2000

本機は、JPEG2000圧縮方式を採用しています。JPEG2000は、静止画像に標準的かつ理想的な圧縮方式です。ユーザーが定義したファイルサイズに1つずつ圧縮するため、記録可能な記録時間の見積もりを、比較的正確に求めることができます。また、このJPEG2000の特長を利用して、再生検索機能やネットワークでの送信も可能です。各記録画質のファイル容量は、従来の機種に比べて記録が効率的に行われるよう、小さくなっています。

独立した記録設定

記録コマ数及び画質(画像容量)を、各カメラごとに個別に設定することができます。また、通常記録設定に加えて、アラーム記録も同様に設定することができます。記録コマ数と画質を調整することにより、HDDの記録容量を効率的に使用することができます。

音声記録機能

4チャンネルのPCM音声記録が可能です。店舗のレジスタ操作音や接客中の会話などを監視映像と共にクリアな音質で記録することができます。

コピー

記録された画像のコピーを最も簡単に行うには、内蔵のCD/DVDドライブを使用します。また、シリアルバスインターフェースを使用して、HDD、DVD(-R/RW)、CD-R/RW、USBメモリーなどの、他のデジタルメディアにも記録画像をコピーすることができます。また、SCSI機器を、オプションのSCSIインターフェースに接続したり、ネットワークを使って、NAS(Network Attached Storage)を接続したりすることができます。

カスケード接続

カスケード接続をすることにより、マスターレコーダーまたはオプションのキーボードDX-KB5を操作するだけで、複数のDX-TL5500からの映像を見たり音声を聞いたりすることができます。

Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

もくじ

はじめに お使いになる前に知っておいていただきたい情報です。

安全のために必ずお守りください	7-12
ご注意	13
フローチャート	14,15
接続・設定運用例フローチャート	14,15
各部のなまえとはたらき	16-20
本体前面部	16,17
DVD/CDの挿入・排出方法	17
本体前面部（ドア内部）	18
本体後面部	19,20

接続・基本操作編 本機の接続方法と基本的なメニュー操作を説明しています。

接続のしかた	21-29
CCTVカメラ、モニター、センサーとの接続	21
アラーム記録の接続	22
カスケード接続	23
HDDの取り付け、取りはずしのしかた	24-27
HDD取り付け・取りはずし時の注意	24
HDDの取りはずしかた	25
HDDの取り付けかた	26,27
ケーブルのクランプのしかた	28
アナログビデオの接続	28
オプション品	29
推奨品	29
オプションボードの取り付けのしかた	29
メニューの設定方法	30-33
メニューの設定	30-33
マウスを使ってメニューを設定する方法	30
本機のボタンを使ってメニューを設定する方法	30
メニュー画面を表示する	31
メニュー画面を閉じる	31
項目を選択する	31
数値を入力する	32
パラメータを設定する	32
メニュー画面中の記号	33

自動設定	34,35
セットアップウィザード	34,35

メニュー一覧 メニューに関して説明しています。

メニュー一覧	36-45
メニュー一覧	36-45
ユーザーメニュー	36,37
設定メニュー	38-42
システムメニュー	43-45

運用編 システムとしてお使いになるときの設定のしかたです。

<ユーザーメニュー>	
検索	46,47
検索機能の選択	46
再生／検索デバイスの設定をする	46
日付と時刻を指定して検索する	46
アラームリストから検索をする	46
映像が記録されたデバイスを特定する	46
ブックマークから検索をする	46
動きを検出して検索をする	47
コピー	48-51
コピー1 デバイ스에記録映像をコピーする ／コピー1 デバイスを設定する	48
コピー2 デバイ스에記録映像をコピーする ／コピー2 デバイスを設定する	48,49
本機からビデオテープにコピーする	49
再生ソフトウェア	50,51
動作環境	50
アプリケーションの起動	50
操作パネル	50
ファイルメニュー	51
検索メニュー	51
操作メニュー	51
ブックマークメニュー	51
表示メニュー	51
グルーピングメニュー	51
右クリックで表示されるメニュー	51
情報/音声切換	52
情報	52
音声切換	52
データ保護	53
データ保護	53
PTZ制御	54
メニューを使ってカメラを制御する	54
本体ボタンを使ってカメラを制御する	54
<設定メニュー>	
記録設定	55-59
通常記録、アラーム記録に関する設定	55
プリアラーム記録	55
記録パターンA（通常記録）～Dの設定をする	55-57
アラーム入力	57
エマージェンシー記録の設定をする	58
エマージェンシー記録	58
ロングプリアラーム記録	58
音声記録の設定をする	59
タイマー設定	60,61
予約時刻が重なってしまった場合	61

動き検知設定 62,63

動き検知記録のパターン A 設定をする / 動き検知記録の
パターン B 設定をする 62,63

システム設定 64-74

日付と時刻の調整をする 64
 使用言語の選択をする 64
 背面端子の設定をする 64,65
 モードアウト設定 64,65
 コールアウト設定 65
 ボタン音 65
 ブザー 65
 パスワードの設定をする 66,67
 簡易ロック 66
 パスワードロック 66
 パスワードの登録 66
 パスワードロックをかける 67
 パスワードロックの解除 67
 パスワードの変更 67
 ロックモードの変更 67
 マルチプレクサ機能関連ボタンの動作 / 動作表 68,69
 カメラ番号ボタンの動作 68
 分割ボタンの動作 68
 シーケンスボタンの動作 68
 電子ズームボタンの動作 68
 分割ボタン、シーケンスボタン、電子ズームボタン、
カメラ番号ボタンの動作表 69
 マルチプレクサの設定をする 70-72
 出力 A 設定 70
 出力 B 設定 71
 アラームディスプレイ表示設定 72
 カメラ表示設定 72
 画面に表示する情報を設定する 72,73
 画面表示 72,73
 カメラタイトル設定 73
 レコーダータイトル設定 73
 モニター出力調整 73
 音声切換えの設定をする 74
 工場出荷設定に戻す 74

クイック設定 75

保存したメニュー設定情報を読み込む 75
 メニュー設定情報をデバイスに保存する 75

オプション設定 76

XGA 出力の画面設定 76

<システムメニュー>**通信設定** 77-79

RS-232C 通信の設定をする 77
 RS-485 カスケード接続の設定をする 77
 LAN B Web / 専用アプリケーションの通信設定をする
..... 78
 LAN A NAS ハードディスクの通信設定をする 79

PTZ設定 80

PTZ カメラの設定をする 80
 設定した PTZ カメラの一覧を表示する 80

システム情報 81

システムのログを表示する 81
 使用積算時間を表示する 81
 デバイスの記録情報を表示する 81

リストア 82

記録映像をコピー 1/2 からコピーする / コピーデバイス
1/2 の設定をする 82

デバイス登録 83-86

HDD の追加 / 削除する 83,84
 DVD / CD デバイスの追加 / 削除をする 84
 メインデバイスの記録設定をする 85
 再生の設定をする 86

記録映像消去 87

メインデバイスの記録映像を消去する 87
 コピー 1 デバイスの記録映像を消去する / コピー 2
デバイスの記録映像を消去する 87

その他の便利な機能 88-91

カスケード 88
 いろいろな再生 89,90
 静止画再生 89
 シャトル再生 / ダイレクトシャトル再生 89
 シャトルホールド 89
 コマ送り 89
 逆再生 89
 高速早送り / 早戻し再生 89
 再生コマ数の変更 89
 記録中の同時再生 90
 最新映像の再生 90
 ライブ中再生 90
 画像の登録 91
 ブックマークの登録 91
 ピクチャーコピー 91
 停電時の機能 91
 停電補償回路 91
 停電復帰記録 91
 後面部 MAIN スイッチ OFF 操作時の履歴の記録
..... 91
 RESET ボタン 91

運用例 92-97

運用例 1 92
 運用例 2 93
 運用例 3 94,95
 運用例 4 96,97

もくじ(つづき)

基本機能編 基本的な機能について説明しています。

基本機能	98-101
マルチプレクサ機能	98
マルチプレクサボタン	98
基本的なマニュアル記録のしかた	99
通常記録のための記録コマ数と 記録画質を設定する	99
基本的な再生のしかた	100
基本的なサーチのしかた	101
日付と時刻を指定して検索する	101
アラームリストから検索をする	101

通信編 パーソナルコンピューターとの通信について説明しています。

Webブラウザによる通信	102-109
Webブラウザによる通信	102
パーソナルコンピューターの動作環境	102
接続について	102
ログイン	102,103
メインメニュー	103-109
ライブ	104
再生	105
時刻検索	105
アラームリスト検索	105
画像検索	105
設定メニュー	106-109
利用者登録	106,107
レコーダータイトルとカメラタイトルの設定	108
メール設定	108
NAS設定	109
時計設定	109
ログアウト	109
ログインユーザーを変更	109

記録時間表

記録時間表	110,111
連続記録可能時間表	110,111

故障かな? 故障かなと思うとき参考にできます。

「故障かな」と思う前に	112,113
-------------	---------

警告表示と

CALL OUT信号の出力	114,115
---------------	---------

設定リスト 設定したメニューの項目を記録するためのリストです。

設定リスト	116-135
設定メニュー	116-131
システムメニュー	131-135

用語集・仕様

用語集/設定カメラ数・

記録コマ数設定と記録動作の関係	136
-----------------	-----

用語集	136
設定カメラ数・記録コマ数設定と記録動作の関係	136

仕様	137
----	-----

この取扱説明書の読み方

● マークの見かた



(操作上、参考にしてください)

操作上、参考にさせていただきたい情報を記載しています。



(お気をつけください)

操作上、気をつけていただきたい情報を記載しています。



(参照ページをごらんください)

参照項目とページ数を記載しています。

● 見たい項目の探しかた

右ページにインデックスを配置しています。また、取扱説明書の前半部分には「もくじ」が記載されています。そのほか本文中にも参照ページが記載されています。

● 困ったときは

「故障かな」と思う前に(112、113ページ)を読み適切な処置をお取りください。

● メニュー設定

設定できる設定項目については、「設定リスト」(116-135ページ)をごらんください。

安全のために必ずお守りください

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

<p>警告  誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの</p>	<p>注意  誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの</p>
--	--

■ 図記号の意味は次のとおりです。

<p> 絶対に行わないでください</p>	<p> 絶対に分解・修理はしないでください</p>	<p> 絶対に触れないでください</p>
<p> 絶対に水にぬらさないでください</p>	<p> 絶対にぬれた手で触れないでください</p>	
<p> 必ず指示に従い、行ってください</p>	<p> 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください</p>	

警告

万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く!!

異常のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。



プラグを抜く

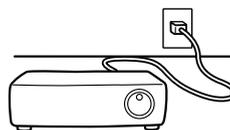
煙が出ている、変なにおいがするなど、異常なときは、電源プラグをすぐ抜く!!



使用禁止

異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。

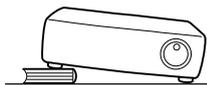
電源プラグを、コンセントからすぐに抜くことができる場所に設置する



電源プラグがすぐ抜ける場所

異常発生時、電源プラグをコンセントからすぐに抜くことができないと、火災の原因となります。

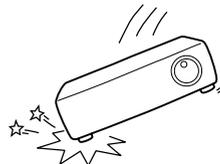
不安定な場所には置かない



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。

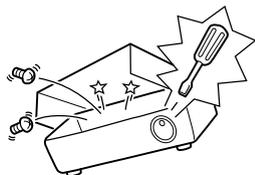
落としたり、キャビネットを破損した場合は使わない



使用禁止

火災や感電の原因となります。

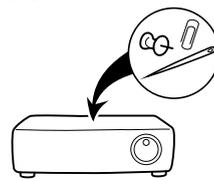
キャビネット(天板)をはずしたり、改造しない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、さわると感電の原因となります。また、改造すると、ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。

異物を入れない



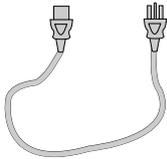
禁止

トレイ開閉口、通風孔や排気口から金属類や燃えやすいものなどが入ると、火災や感電の原因となります。

安全のために必ずお守りください(つづき)

警告

付属の電源コードを使用する

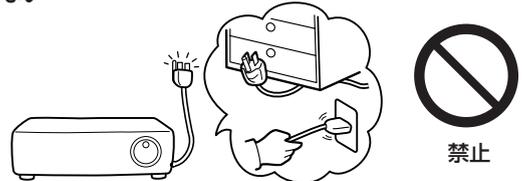


付属の電源コード

これ以外の電源コードを使うと、外部からの耐ノイズ入力性能が低下したり、火災の原因となります。アース端子は安全のための接地アースです。コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください(有料)。電源プラグのアース端子をガス管・水道管・避雷針などへ絶対に取り付けしないでください。

電源コードを傷つけない

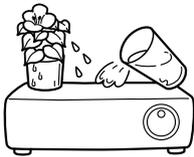
- 重いものをのせない
- 無理に曲げない
- 束ねない
- 引っ張らない
- 加熱しない
- ねじらない
- 加工しない



禁止

コードに傷がつくと、火災や感電、故障の原因となります。電源コードの芯線が露出したり断線するなど、コードが傷んだときは、すぐに販売店に修理をご依頼ください。

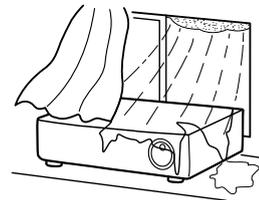
花瓶やコップ、植木鉢、小さな金属物などを上に置かない



水ぬれ禁止

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。

水でぬらさない

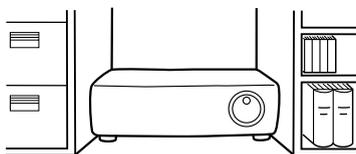


水ぬれ禁止

火災や感電の原因となります。雨天、降雪中、水辺、窓辺での使用は、特にご注意ください。

通風口、排気口をふさがない

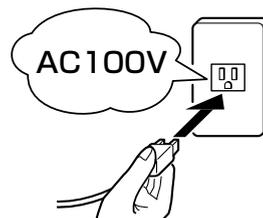
- 風通しの悪い狭い場所に置かない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- テーブルクロスなどをかけない



禁止

通風口、排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

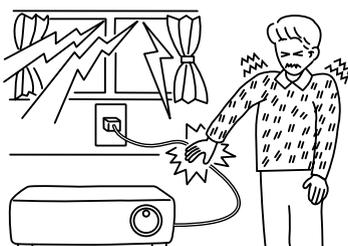
正しい電源電圧(交流100V)で使う、また配線器具の定格電流をこえない



交流100V

交流100V以外の電圧で使用した場合や配線器具の定格電流をこえて使用すると、火災や感電の原因となります。また、たこ足配線はしないでください。

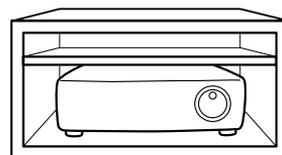
雷が鳴り出したら本体および電源プラグには触れない



接触禁止

感電の原因となります。

まわりに15cm以上すきまをあける(特に後面)



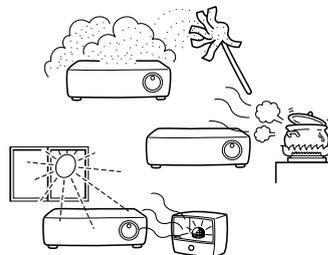
すきまをあける

内部に熱がこもり、火災の原因となります。放熱をよくするために、他の機器から離して設置してください。

⚠ 注意

設置時は、次のような場所には置かない

- 湿気やほこりの多い場所
- 油煙や湯気が当たる場所
- 直射日光の当たる場所
- 熱器具の近く
- 閉めきった自動車内など、高温になる場所
- 製氷倉庫など、低温になる場所
- 自動車内など、振動が多い場所
- 温泉地など、硫化水素などのガスが発生する場所
- 海岸近くなど、塩分の多い場所



設置禁止

このような場所に置くと、ショートや発熱、電源コードの被膜が溶ける、記録ドライブ等の劣化を早めるなどにより、火災や感電、故障、変形の原因となることがあります。

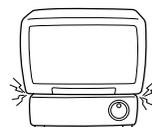
接続したまま本機を
移動させない



禁止

電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源が入った状態で移動させると内蔵HDDを破損させる恐れがあります。電源コードや接続コードをはずしたことを確認し、1分以上たったあとで移動させてください。また、ディスクを取り出し、トレイ開閉口は閉じておいてください。

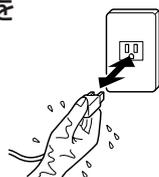
本機の上に重いものを置かない
本機の上へのらない
トレイ開閉口の前に物を置かない



禁止

バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがや故障の原因となることがあります。

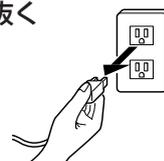
ぬれた手で電源プラグを
抜き差ししない



ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

電源プラグを持って抜く



プラグを持つ

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り、差し込みの
具合を点検する



ほこりを取る

ほこりなどがついたり、コンセントへの差し込みが不完全な場合は、火災や感電の原因となることがあります。1年に1回はプラグとコンセントの定期的な清掃をし、最後までしっかり差し込まれているか点検してください。

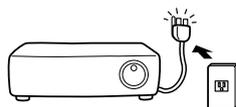
5年に一度は内部の掃除を依頼する



内部掃除

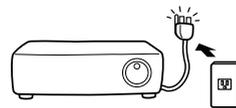
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うのが効果的です。内部掃除費用については、販売店にご相談ください。

長時間使用しないときは、ディスクを取り出して、
電源プラグをコンセントから抜いておく



プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて
行う



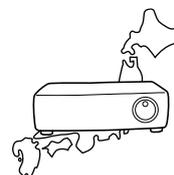
プラグを抜く

感電の原因となることがあります。

本機は日本国内専用です

放送方式、電源電圧の異なる海外では使用できません。また、海外でのアフターサービスもできません。

This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.



日本専用

安全のために必ずお守りください(つづき)

使用上のお願い

ハードディスク(HDD)について

- ・本機は、精密機器であるハードディスクを搭載しております。本機取扱いには、十分ご注意ください。
- ・本機に振動や衝撃を与えないでください。特に通電中やハードディスクへのアクセス中は、故障の原因となりますので十分ご注意ください。
- ・記録・再生の動作中または通電中に、電源プラグを抜かないでください。
- ・本機は、記録運用中にハードディスク等に軽微な障害が発生した場合、自動復帰にて記録運用を継続するシステムを搭載しておりますが、故障の早期発見のため、1年ごとに点検を依頼されることをおすすめします。
- ・本体の電源を切ってから少なくとも1分間は移動させないでください。

設置場所と取扱い

- ・はじめてご使用になるときは、本機内蔵の停電補償回路を動作させるために、48時間以上連続通電を行って充電してください。
- ・使用電源は、消費電力の大きな機器(コピー機、空調機器など)と同じコンセントからとらないでください。
- ・本機は水平で安定した場所に置いて使用してください。不安定な場所に置いて使用すると、DVD/CDディスクがはずれるなどの故障の原因となります。
- ・他の機器とあまり近づけないでください。機器がお互いに悪影響を与えて、映像や音声が乱れる可能性があります。
- ・本機とモニターを上下に重ねて置くと、映像が乱れたり、DVD/CDディスクが出ないなどの故障の原因となります。
- ・強い磁気をもっているものを近づけないでください。映像が悪影響を与えたり、記録が損なわれることがあります。
- ・殺虫剤など揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- ・ワックスのかかった床などに直接置くと、本機底面のすべり止め用ゴムと床材の密着性が上がり、床材のはがれや着色の原因となることがあります。
- ・この製品は、クラスA情報技術装置です。住宅環境で使用する場合、電波妨害を発生させる恐れがあります。その際、この製品の利用者は、適切な手段を講ずることが必要とされることがあります。
- ・ハードディスクと冷却用ファンは消耗品です。周囲温度25℃でのご使用時に、ハードディスク、冷却用ファンともに3万時間を目安に交換してください。(ただし、この時間は、あくまでも目安であり、部品を保証するものではありません。システムメニュー→システム情報→<使用積算時間を表示する>の「使用時間」を、点検の目安にすると便利です。)
- ・許容周囲温度を必ずお守りください。低温でご使用になる場合は、10分以上通電を行ったのち、ご使用ください。
- ・トレイ開閉口に手を入れないでください。手をはさまれ、けがの原因となることがあります。万一、手をはさまれたときは、無理に引き抜かず、電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

設置場所の移動

- ・移動させるときは、必ずMAINスイッチをOFFにし、完全に停止したのを確認したあと、電源プラグをコンセントから抜いてください。通電中に過度な衝撃を与えられると、機器内部の電子部品やハードディスクをいためることがあります。特に、電源インジケータまたはアクセスインジケータの点滅中は、ご注意ください。
- ・内部に衝撃を与えないように緩衝材などで包んでください。

お手入れ

- ・キャビネットの汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- ・汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよくしぼって汚れをふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- ・化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ・ベンジンやシンナーなどの溶剤は、使わないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

大切な記録の場合

- ・必ず事前に記録を行い、正常に記録されていることを確認してください。
- ・本機を使用中、本体もしくは接続機器等の不具合により、記録されなかったり正常に再生できなくなった場合、その内容の補償についてはご容赦ください。
- ・万一の故障や事故に備えて、大切な記録の場合は定期的にバックアップをとられることをおすすめします。

著作権について

- ・本機はデジタル方式で記録を行うため、著作権を有する映像などを記録するには注意が必要です。

本機を使用した監視システム構築上の注意

- ・本機は外部端子、RS-232C端子、LAN端子により外部機器から制御が可能です。また外部端子、RS422/485、RS-232C端子により外部機器の制御も可能です。これらの機能により、高度なセキュリティシステムにも柔軟に対応可能ですが、本機の設定内容や外部機器との接続や組合せによっては、本機または外部機器の誤動作が原因となり、監視システム全体に影響を及ぼす恐れがあります。
- ・本機を使用して監視システムを構築される際には、事前に他の機器との接続や組合せによる動作確認を行った上で、ご使用になることをおすすめします。
- ・大切な記録の場合は、必ず定期的にコピー/バックアップをとられることをおすすめします。
- ・万一、本機の不具合により発生した監視システムの動作エラー、記録データの消失、その他のあらゆる損失について、当社はその補償や一切の責任を負いかねますので、あらかじめご容赦ください。
- ・本機の発報機能を、重大な判断に使用したり人命に関わる用途などに使用しないでください。

ネットワークについて

- ・ネットワークの設定については、必ずネットワーク管理者の確認を事前にとられることをおすすめします。

記録時間と製品保証

- ・連続記録可能時間とメニュー画面に表示される見積り時間は、機能動作上の連続記録可能時間であり、製品保証期間ではありません。また、使用部品の動作信頼性を保証する期間でもありません。

動き検知機能について

- ・本機に内蔵されている動き検知機能は、入力される映像信号の状態などにより、誤動作する場合があります。本機の検出機能を用いて発報するシステムなどに接続している場合は、誤動作にご注意ください。また、誤動作が問題となる場合は、別のセンサーを取り付けて後面部のアラーム入力端子を使用してください。

DVD/CDディスクについて

- ・ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。飛び散ってけがの原因となることがあります。
- ・再生面に触れないように持ってください。
- ・ディスクが結露している場合は、ディスクの表面の水滴をよくふき取ってからお使いください。
- ・指紋やほこりなどによるディスクの汚れは、画質や音質の低下の原因となります。柔らかい布で、DVD/CDディスクの中心から外側に向かって軽くふき取ってください。
- ・汚れがひどいときは、柔らかい布を水にひたしてよくしぼり、汚れを軽くふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- ・ベンジンやシンナーなどの溶剤、レコードクリーナー、静電気防止剤などは使わないでください。ディスクを傷める原因となります。
- ・次のようなディスクは使わないでください。ディスク自体の破損や本体の故障の原因となります。
 - ・紙やシールなどを貼ったり、傷がついたディスク
 - ・ラベルがはがれていたり、のりがはみ出ているディスク
 - ・ひび割れ、変形、接着剤などで補修したディスク
- ・使用後は、所定のケースに入れて保管してください。次のような場所を避けて、保管してください。
 - ・直射日光の当たるところ
 - ・ちりやほこりの多いところ
 - ・高温や多湿のところ
- ・市販の映画ソフトや、家庭で記録された映像は再生できません。本機で記録したデータのみ再生できます。
- ・パーソナルコンピューターで使用したディスクや、コピーに失敗したり停電でコピーが中断されたディスクは、誤動作の原因になりますので、使用しないでください。
- ・本機でDVDやCDにコピーしたデータを、付属のソフトウェアを使用してパーソナルコンピューターで再生することができますが、すべてのパーソナルコンピューターまたはDVD/CDドライブでの再生を保証するものではありません。

録画/再生用レンズ(レーザーピックアップ)のお手入れ

- ・録画/再生用レンズにごみやほこりがつくと、映像の乱れや音飛びなどが発生し、正常に録画や再生ができなくなります。清掃は販売店にご相談ください。
- ・市販のレンズクリーニングディスクは、レンズを破損する恐れがあるため、使用しないでください。

安全のために必ずお守りください(つづき)

付属の電源コードについて

- ・付属の電源コードは、本製品専用です。決して他の製品には使用しないでください。

免責について

- ・弊社は如何なる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
 - ① お客様ならびに工事業者様により本商品の分解、修理または改造が行われた場合
 - ② お客様ならびに工事業者様の誤使用や不注意により生じた本商品の故障、破損あるいは損害
 - ③ 本商品の故障・不具合以外の理由または原因により生じた、映像が表示・記録等できないことによる不便・損害・被害
 - ④ 第三者が製造した機器等との組み合わせによる不具合、あるいはその結果により被る不便・損害・被害
 - ⑤ 内蔵のHDDをお客様自身ならびに工事業者様が交換した場合の、本商品の故障ならびに映像データの消滅による不便・損害・被害ならびにクレーム等
 - ⑥ 地震・台風等を含む自然災害による本商品の故障ならびに映像が表示・記録等できないことによる不便・損害・被害
 - ⑦ 内蔵のHDDの振動や衝撃、または温度など設置場所の環境に起因する故障ならびに映像データの消滅による不便・損害・被害ならびにクレーム等
 - ⑧ お客様により監視もしくは記録された映像が、理由の如何を問わず公となりまたは監視目的外に使用されたことによる、プライバシー侵害等を理由とする賠償請求やクレーム等

外付け機器について

- ・本機は、さまざまな外付けHDDを接続し、メモリー拡張やコピー機器として使用することができますが、本機を使用して高レートで記録・再生・コピーを行うと、接続する機器によっては、データ転送や応答が遅いことにより、記録や再生での画像抜けなどが発生することがあります。実際の運用前に必ず確認してご使用いただくようお願いします。
- ・本機のバスパワーを使用した外部機器の電源制御機能は使用しないでください。
- ・ご使用になりたい外付け機器が運用方法に適さない場合があります。販売店にお問い合わせいただくことをおすすめします。

NASについて

- ・本機では、NFSv3*に準拠したNAS*を使用することができますが、市場にあるすべてのNFSv3に準拠したNASとの接続を保証するものではありません。
データ転送速度の目安は、約1~2Mbpsとなっておりますが、本体の動作状況、NASサーバー性能やネットワーク性能に大きく左右されるため、運用される前にあらかじめ十分な事前確認をされることを強くお勧めいたします。
尚、NASサーバー側の設定、ネットワークの設定につきましては、NASサーバー管理者、ネットワーク管理者にご相談ください。
また、ご使用の際には、NAS本体の取扱説明書をご覧ください。
最新のNASの動作確認状況につきましては、販売店にお問い合わせください。

NAS* : Network Attached Storage

NFSv3* : Network File System version 3

ご注意

このたびは、三菱デジタルレコーダー DX-TL5500(以下、本機という)をお買上げいただきありがとうございます。本機のご使用を開始される前に必ず、本機に含まれるソフトウェア(以下、許諾ソフトウェアという)につきまして、ユーザー向け取扱説明書9ページの「ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みください。**お客様による本機のご使用開始をもって、ソフトウェア使用許諾契約書にご同意いただいたものとします。**

なお、本機には GNU General Public License または GNU Lesser General Public License の適用を受けるソフトウェアが含まれております。かかるソフトウェアは「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですのでご注意ください。GNU General Public License または GNU Lesser General Public License が適用されるソフトウェアの使用許諾条件については、「GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ」^{注)} をご覧ください。

また、同様に、本機には「Apache」ならびに「OpenSSL(「Original SSLeay」ライブラリを含む)」が含まれていますが、かかるソフトウェアも「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですのでご注意ください。当該ソフトウェアの使用許諾条件については、「Apacheソフトウェアに関するお知らせ」^{注)} ならびに、「OpenSSLソフトウェアに関するお知らせ」^{注)} をご覧ください。

さらに、本機に含まれる「Berkeley Database」、「agetty」、「expat」ならびに「zlib」の各ソフトウェアは、その他のオープンソースソフトウェアであり、「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですのでご注意ください。当該ソフトウェアの使用許諾条件については、「その他のオープンソースソフトウェアに関するお知らせ」^{注)} をご覧ください。

注) 「GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ」、「Apacheソフトウェアに関するお知らせ」、「OpenSSLソフトウェアに関するお知らせ」ならびに「その他のオープンソースソフトウェアに関するお知らせ」は、同梱のDX-TL5500 Accessory CDのフォルダ「OpenSoft_License」内に、電子文書(電子ファイル notice_GPL_LGPL_ja.pdf、notice_Apache_ja.pdf、notice_OpenSSL_ja.pdf、notice_other_ja.pdf)として保存しておりますので、こちらをご覧ください。

フローチャート

■ 接続・設定運用例フローチャート

後面端子の接続、メインデバイスにアラームエリアを設定し、初期設定を行う。次にタイマー運用を用いてアラーム記録をし、アラームリストサーチを使ってその記録データを検索、再生し、コピーデバイスへコピーする運用例を説明します。

後面部の接続・配線

- ・後面部各端子の接続 (■ CCTVカメラ、モニター、センサーとの接続 ㊦21ページ)
- ・アラーム記録の接続 (■ アラーム記録の接続 ㊦22ページ、 ■ 本体後面部 ㊦19,20ページ)



本機を起動する



自動設定

(■ セットアップウィザード ㊦34,35ページ)

❗ 本機をはじめて起動させたときのみ、<自動設定>画面は自動的に表示されます。次回以降は、表示されません。

「セットアップウィザードを使用してレコーダーの設定をしますか」が表示され、「実行」を選択した場合

▶メニューにしたがって、言語選択、現時刻設定、ハードディスク運用設定、記録運用設定を設定してください。

「セットアップウィザードを使用してレコーダーの設定をしますか」が表示され、「中止」を選択した場合

▶現時刻設定、ハードディスク運用設定を、各メニューで行ってください。
(■ 日付と時刻の調整をする ㊦64ページ、 ■ メインデバイスの記録設定をする ㊦85ページ→アラーム記録エリアを設定する)



メニュー初期設定の変更

- ・画面表示の設定
表示形式の設定 (◆ 画面表示 ㊦72,73ページ)
- ・音声記録の設定 (■ 音声切換えの設定をする ㊦74ページ、記録時間表 ㊦110,111ページ)



HDDに関する設定

- ・リピート記録の設定 (■ メインデバイスの記録設定をする ㊦85ページ)
- ・HDDの残量の設定 (残量設定 ㊦64,65ページ)
- ・CALL OUTの設定 (◆ コールアウト設定 ㊦65ページ)
- ・ブザーの設定 (◆ ブザー ㊦65ページ)



マルチプレクサに関する設定

- ・分割表示位置の設定 (■ マルチプレクサの設定をする ㊦70,71ページ)
- ・シーケンス表示の設定 (■ マルチプレクサの設定をする ㊦70,71ページ)



その他の便利な設定

- ・画面表示の設定変更 (◆ 画面表示 ㊦72,73ページ)
- ・カメラタイトル・レコーダータイトルの設定 (◆ カメラタイトル設定 ㊦73ページ、 ◆ レコーダータイトル設定 ㊦73ページ)
- ・本機の動作状態を出力する設定 (◆ モードアウト設定 ㊦64,65ページ)



▼
動き検知の設定

(■ 動き検知記録のパターンA/B設定をする ㊦62,63ページ)

- ・カメラの選択
- ・検知エリアの設定
- ・検知感度の設定
- ・記録開始最小エリア数の設定
- ・検知インターバルの設定

▼
タイマー記録の設定

- ・通常・アラーム記録/プリアラーム記録に関する設定

通常記録のコマ数/画質の設定、アラーム記録のコマ数/画質の設定

(■ 記録パターンA(通常記録)～Dの設定をする ㊦55-57ページ)

動き検知記録の設定

(■ 動き検知記録のパターンA/B設定をする ㊦62,63ページ、

■ 記録パターンA(通常記録)～Dの設定をする ㊦55-57ページ)

アラーム記録時のカメラ選択項目とアラーム記録させるためのアラーム入力の設定

(■ 記録パターンA(通常記録)～Dの設定をする ㊦55-57ページ)

プリアラーム記録時間の設定

(◆ プリアラーム記録 ㊦55ページ、■ 記録パターンA(通常記録)～Dの設定をする ㊦55-57ページ)

アラーム記録時間の設定

(■ 記録パターンA(通常記録)～Dの設定をする ㊦55-57ページ)

PTZカメラプリセットの設定

(■ 記録パターンA(通常記録)～Dの設定をする ㊦55-57ページ)

- ・タイマー運用に関する設定

(タイマー設定 ㊦60,61ページ)

休日の設定

プログラム番号の選択

タイマー設定

曜日の選択・開始時刻の選択・終了時刻の選択・運用の選択・動き検知の運用選択・(指定曜日の選択)

▼
タイマー記録実施/完了

(警告表示とCALL OUT信号の出力 ㊦114,115ページ)

▼
記録の検索

- ・検索するデバイスの設定

(■ 再生/検索デバイスの設定をする ㊦46ページ)

- ・アラームリストサーチの設定

(◆ アラームリストから検索をする ㊦101ページ)

▼
検索完了/検索結果表示▼
検索結果の再生

- ・再生するカメラの選択

(■ マルチプレクサの設定をする ㊦70,71ページ)

- ・分割/シーケンス画面の選択

(■ マルチプレクサの設定をする ㊦70,71ページ)

- ・再生する

(■ 基本的な再生のしかた ㊦100ページ)

- ・再生速度の選択

(■ いろいろな再生 ㊦89,90ページ)

▼
記録のコピー

- ・コピーデバイスの設定

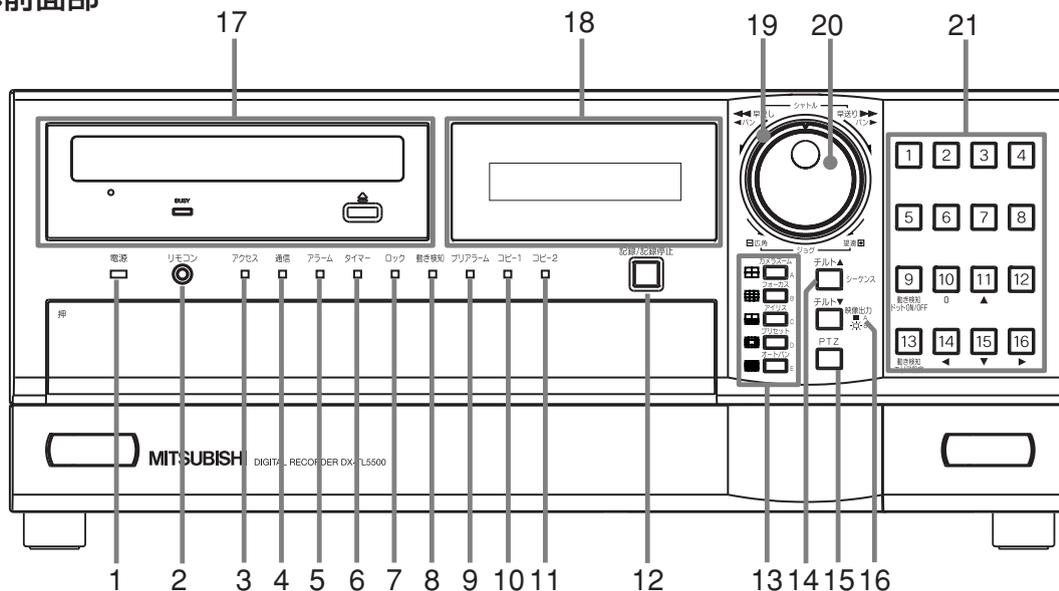
(■ HDDの追加/削除する ㊦83,84ページ、■ DVD/CDデバイスの追加/削除をする ㊦84ページ)

- ・コピーの設定

(■ コピー1デバイスに記録映像をコピーする ㊦48ページ、■ コピー2デバイスに記録映像をコピーする ㊦48,49ページ)

各部のなまえとはたらき

■ 本体前面部



1 電源インジケータ

後面部のMAINスイッチがONのときに電源ボタンを押すと、点灯します。待機状態や後面のMAINスイッチがOFFのときは消灯します。電源ボタンを押してから本機の操作が可能になるまで、約1～2分かかります。起動時など動作の移行中は、点滅し、他の動作を受け付けません。

2 リモコンジャック

リモートコントロールユニット用の端子です。(オプション)

3 アクセスインジケータ

内蔵ハードディスクや外部接続機器にアクセスしているときに点灯します。インジケータが消灯し、LCDに「POWER OFF」が表示されてから電源ボタンを押してください。

4 通信インジケータ

パーソナルコンピュータと通信を始めると点灯します。

5 アラームインジケータ

アラーム記録中に点灯します。

6 タイマーインジケータ

タイマー記録動作中/記録待機中に点灯します。

7 ロックインジケータ

簡易ロックまたはパスワードロック中に点灯します。

8 動き検知インジケータ

動き検知機能が動作中に点灯します。動き検知記録中に点滅します。

9 プリアラームインジケータ

プリアラーム記録中に点灯します。またプリアラーム記録を設定しても点灯します。

10 コピー1インジケータ

コピー1動作中に点灯します。コピー1動作の開始時と終了時に点滅します。

11 コピー2インジケータ

コピー2動作中に点灯します。コピー2動作の開始時と終了時に点滅します。

12 記録/記録停止ボタン

押すと、記録を開始し、ボタンが点灯します。2秒以上押し続けると、記録を停止し、消灯します。アラーム記録中に2秒以上押し続けると、記録を停止します。タイマー記録動作中は、押しても記録は停止しません。

13 分割ボタン(田、田、田、田、田)

押すと、選択された分割表示に切り換わります。メニューの設定にも使用します。

14 シーケンスボタン

押すと、シーケンス画面が表示されます。

チルト▲ボタン

PTZモード中に押すと、カメラの角度が上方向に動きません。

15 PTZ(パン、チルト、ズーム)ボタン

本機を、接続したPTZカメラを制御するためのPTZモードに切り換えます。

カメラコントロールボタン

1画面表示中のPTZモードのとき、下記のボタンを押してカメラをコントロールします。PTZボタンを押してから、下記のボタンを押してください。

カメラズームボタン

カメラのズームを調節します。このボタンを押してからジョグを左(広角)または右(望遠)に回して調節してください。

フォーカスボタン

カメラのフォーカスを調節します。このボタンを押してからジョグを左(遠)または右(近)に回して調節してください。

アイリスボタン

カメラのアイリスを調節します。このボタンを押してからジョグを左(閉じる)または右(開く)に回して調節してください。

プリセットボタン

16ヶ所までの監視ポイントをプリセットします。プリセットポイントを設定するには、このボタンを押してから3秒以内にカメラ番号ボタンを押してください。

オートパンボタン

カメラのオートパン機能が動作します。

16 映像出力A/Bボタン

押すと、マルチプレクサ出力をAとBで切り換えます。Aを選択しているときボタンが消灯し、Bを選択しているとき点灯します。再生やサーチ機能も、出力AとBで切り換わります。このボタンの点灯中は、メニューを表示することはできません。

チルト▼ボタン

PTZモード中に押すと、カメラの角度が下方向に動きません。

17 ディスクトレイ

記録データのコピー／バックアップをとるためのDVDやCDを挿入します。
対応ディスクは、DVD-RW、DVD-R、CD-R、CD-RWです。

開閉△ボタン

ディスクトレイを開閉するときに押します。

BUSYインジケーター

記録中または再生中に、点灯または点滅します。

18 LCD

現在時刻や本機の状態を表示します。

19 シャトル

再生時のスピード調整、早送り、早戻しなどをするときに使います。
カメラをパンするときにも使います。

20 ジョグ

コマ送り再生をするときに使います。PTZカメラをコントロールするときにも使います。

21 カメラ番号ボタン(1~16)

押すと、本機に接続されたカメラの映像を画面に表示します。ボタンの番号は、本機後面のCAMERA IN端子の番号に対応しています。映像が表示されているカメラ番号のボタンが点灯します。
PTZカメラコントロールのためのプリセット機能の設定にも使用します。また、メニューの設定にも使用しません。

動き検知ドットON/OFF／動き検知エリア設定ボタン(カメラ番号ボタン9、13)

動き検知機能の検知エリアを設定するときに使います。

■ DVD/CDの挿入・排出方法

- ❗ ディスクをご使用になる前に、ディスクの取扱説明書で使用上の注意などを確認してください。

1 開閉ボタンを押す。

- ・ ディスクトレイが開きます。

【ディスクを挿入する場合は・・・】**2-1 ディスクをトレイにのせます。**

- ・ ディスクはラベル面を上にして、正しい位置に置いてください。

【ディスクを排出する場合は・・・】**2-2 ディスクを取り出す。****3 もう一度開閉ボタンを押す。**

- ・ ディスクトレイが閉じます。

- ❗ コピー／リストア中、メニューの保存／読み出し中、およびディスクの挿入直後は、ディスクを取り出さないでください。ディスクやデータが破損する恐れがあります。

- ❗ 当社が推奨するディスクをご使用ください。当社が推奨していないディスクを使用した場合、データの読み書きが正しくできない場合があります。使用できるディスクについては、販売店にご確認ください。

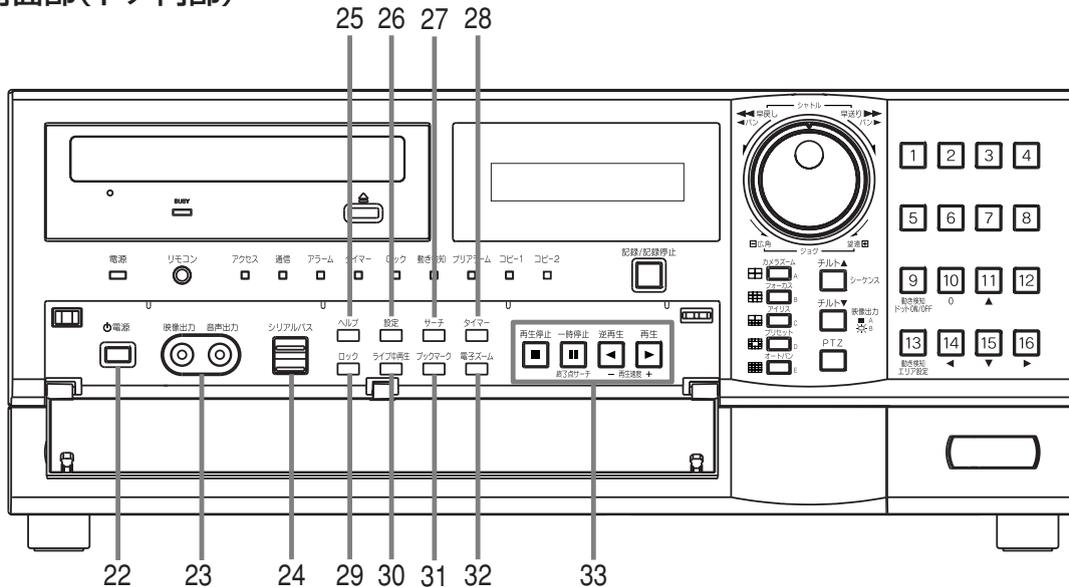
- ❗ DVD-RWまたはCD-RWをご使用になるときは、ご使用前の＜記録映像消去＞メニューで初期化を行ってください。

- ❗ 本機でDVDやCDにコピーしたデータを、付属のソフトウェアを使用してパーソナルコンピュータで再生することができますが、すべてのパーソナルコンピュータまたはDVD/CDドライブでの再生を保証するものではありません。

- ❗ DVDドライブが、ご使用のメディアに対応しているかを確認の上ご使用ください。パーソナルコンピュータで再生する場合は、DVD-Multiドライブを使用されることをおすすめします。

各部のなまえとはたらき(つづき)

■ 本体前面部(ドア内部)



22 電源ボタン

後面部のMAINスイッチがONのときに押すと、電源が入ります。もう一度押すと、待機状態となります。起動時など動作の移行中は、電源インジケータが点滅し、他の動作を受け付けません。

23 アナログ出力端子

映像出力端子

RCAピンの映像出力端子です。

音声出力端子

RCAピンの音声出力端子です。

24 シリアルバスポート

シリアルバス端子を持つ機器と接続するための入出力端子です。バスパワーは使用できません。

25 ヘルプボタン

押すと、使用上の注意、操作方法、機能説明などのヘルプメニューが表示されます。ワーニングメッセージが表示されたときにも使います。メニュー表示中でも使うことができます。

26 設定ボタン

押すと、<ユーザーメニュー>が表示されます。

27 サーチボタン

押すと、<ユーザーメニュー>中の検索メニューが開いた状態で表示されます。

28 タイマーボタン

押すと、タイマー記録/待機状態になり、タイマーインジケータが点灯します。2秒以上押し続けると、タイマー記録/待機状態が解除され、タイマーインジケータが消灯します。

29 ロックボタン

本体後面部のMAINスイッチ(主電源)がONのときに押すと、簡易ロックまたはパスワードロックになります。ロック中は、インジケータが点灯します。パスワードは、<パスワードの設定をする>で設定することができます。(設定メニュー→システム設定→パスワードの設定をする)

30 ライブ中再生ボタン

カメラからの映像を分割画面で表示中に、希望のカメラ番号の再生映像を挿入します。

31 ブックマークボタン

1画面の静止画像を再生中にこのボタンを押すと、選択画面が表示され、ブックマークの登録または表示されている映像のコピーをすることができます。

32 電子ズームボタン

1画面を表示中または再生中にこのボタンを押すと、映像を拡大します。拡大中心点を動かすには、カメラ番号ボタン(11、14、15、16)を押してください。

33 操作ボタン

再生停止ボタン

押すと、再生を停止します。

一時停止/終了点サーチボタン

再生中に押すと、静止画再生になり、ボタンが点灯します。もう一度押すと、再び再生を開始し、消灯します。シャトル再生中に押すと、シャトルから手を離しても任意の再生速度を保持します。(シャトルホールド)再生停止中に押すと、最新の記録部分の終端付近で静止画再生となります。(終了点サーチ)

逆再生ボタン

押すと、逆再生を始め、ボタンが点灯します。

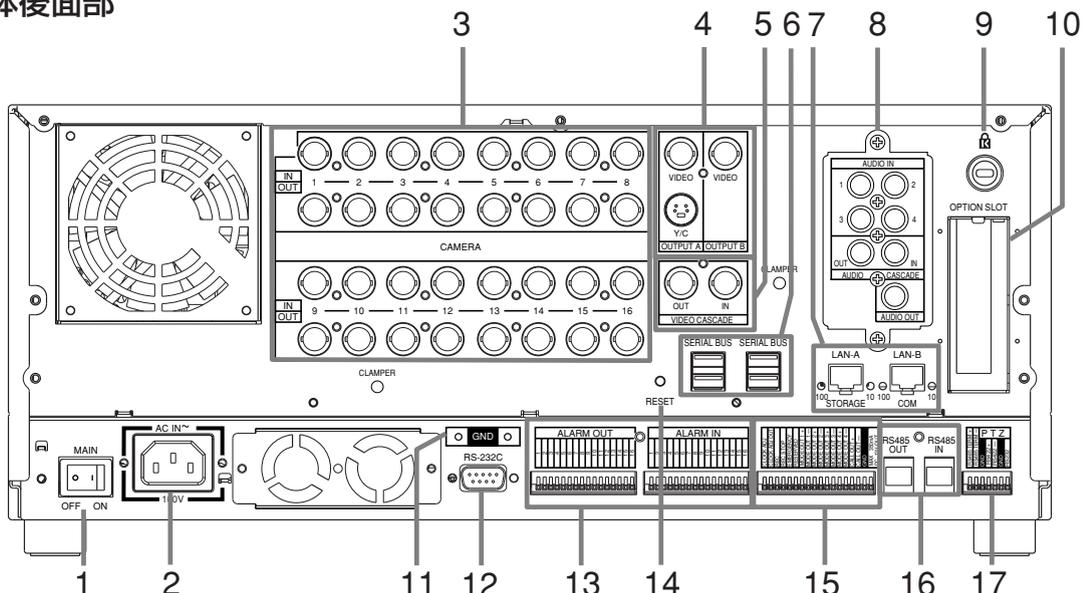
再生ボタン

押すと、再生を始め、ボタンが点灯します。

再生速度ボタン(+、-)

再生中または、逆再生中に再生(+)、逆再生(-)のボタンを押すことにより、再生コマ数を切り換えることができます。

■ 本体後面部



1 MAINスイッチ

主電源スイッチです。本機を使用する場合は、ONにします。ONにしないと、前面部の電源ボタンで電源の入/切ができません。

2 電源コード差込口

付属の電源コードを差し込みます。アース端子は、安全のための接地アースです。本機の電源コードは、必ずアース付きの交流100Vのコンセントに差し込んでください。

❗ コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください(有料)。電源プラグのアース端子を、ガス管・水道管・避雷針などへ絶対に取り付けしないでください。

❗ 付属品の電源コードをご使用ください。

3 CAMERA端子

❗ 電源重畳タイプのカメラは、故障の原因となるため、接続しないでください。

CAMERA IN端子

BNCコネクタのカメラ映像入力端子です。

CAMERA OUT端子

BNCコネクタのカメラ映像出力端子です。MAINスイッチがONならば、それぞれのCAMERA IN端子に入力されたカメラ映像は、スルー出力が可能です。

4 VIDEO OUTPUT端子

OUTPUT A VIDEO端子

BNCコネクタのモニター映像出力端子です。

OUTPUT A S(Y/C)端子

輝度信号と色信号に分割された映像信号の出力端子で、より高画質な映像表示が可能になります。OUTPUT A VIDEO端子との同時出力が可能です。

OUTPUT B VIDEO端子

BNCコネクタのセカンド(B)モニター映像出力端子です。(P.21ページ)

5 VIDEO CASCADE端子

VIDEO CASCADE IN端子

本機をカスケード接続するための映像入力端子です。

VIDEO CASCADE OUT端子

本機をカスケード接続するための映像出力端子です。

6 SERIAL BUSポート

シリアルバス端子を持つ機器と接続するための入出力端子です。本機のバスパワーを使用した外部機器の電源制御機能は、使用しないでください。バスパワーは使用できません。

本機は、さまざまな外付けHDDを接続し、メモリー拡張やコピー機器として使用することができますが、本機を使用して高レートで記録・再生・コピーを行うと、接続する機器によっては、データ転送や応答が遅いことにより、記録や再生での画像抜けなどが発生することがあります。実際の運用前に必ず確認してご使用いただくようお願いいたします。

7 LAN-A端子

記録データのバックアップをとるためのNASハードディスクに接続するための端子です。

本端子をご使用になる際、コピーの転送速度がメイン記録の記録速度より遅い場合、転送前のデータがメイン記録で上書きされることにより、コピー障害が発生する場合があります。ご使用前に十分に確認されることをおすすめします。

LAN-B端子

Webブラウザを使用して通信を行うための端子です。

8 AUDIO端子

AUDIO IN端子

RCAピンの音声入力端子です。

AUDIO CASCADE IN端子

本機をカスケード接続するための音声入力端子です。

AUDIO CASCADE OUT端子

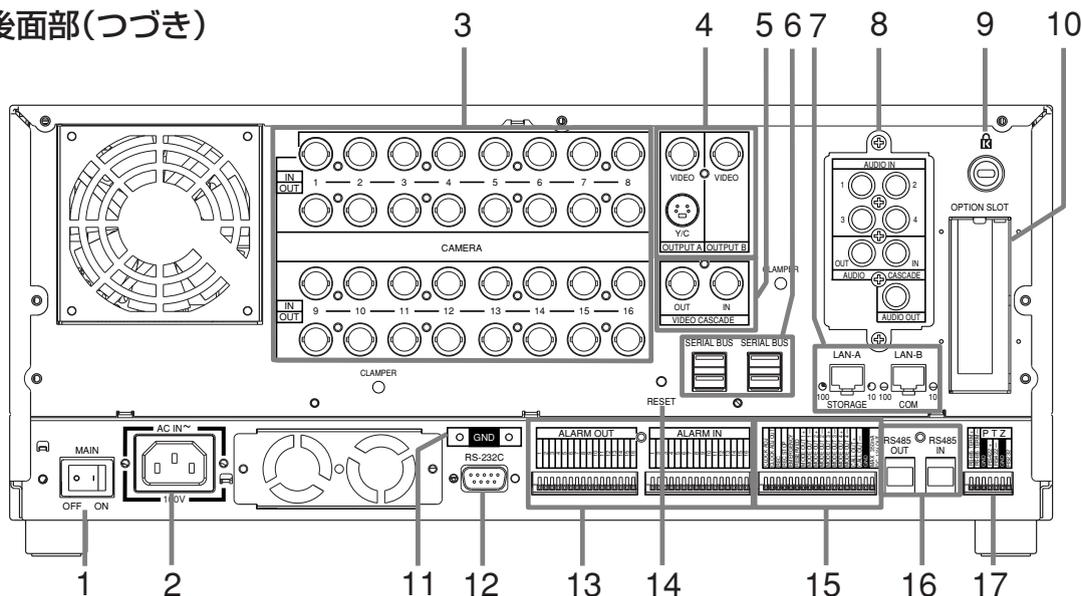
本機をカスケード接続するための音声出力端子です。

AUDIO OUT端子

RCAピンの音声出力端子です。

各部のなまえとはたらき(つづき)

■ 本体後面部(つづき)



9 盗難防止用ロック穴

市販の盗難防止用ケーブル(Kensington社製)などを接続するためのかぎ穴です。

10 オプションスロット

オプションボードを取り付けるときに使用します。

11 GND端子

共用のグラウンド端子です。

12 RS-232C端子

RS-232C端子付きのHOST機器(パーソナルコンピューターなど)と接続するための端子です。この端子を使って、他の機器から本機を操作することができます。

13 ALARM IN端子

アラーム信号を入力するための端子です。アラーム信号の入力は毎秒1回受け付けることができます。ただし、複数の入力と同時に発生した場合、すべての入力を受け付けることができない場合があります。

ALARM OUT端子

アラーム信号を出力するための端子です。各センサーにアラーム入力や動き検知の入力があつたときに、約2秒間出力します。

14 RESETボタン

押すと初期状態となり、電源が切れます。この場合、映像データ、メニュー設定や現在時刻は取り消されずそのまま保持されます。

15 I/O端子

CLOCK ADJ端子

時刻表示の時刻を合わせるための入力端子です。この端子にCLOCK ADJ信号が入力されると、時刻が最も近い正時(00分00秒)に設定/変更されます。



後面部のCLOCK ADJ端子が接地すると、日付・時刻表示が最も近い正時(00分)に設定されます。たとえば、表示時刻が11時29分59秒のときは、11時00分00秒に設定され、11時30分00秒のときは、12時00分00秒に設定されます。

CLOCK ADJ OUT端子

本機に接続されたレコーダーの時刻を最も近い正時(00分00秒)に設定するための信号を出力する端子です。

REC端子

記録を開始させるための入力端子です。タイマー記録中には、はたらきません。

REC STOP端子

記録を停止させるための入力端子です。タイマー記録中には、はたらきません。

EMERGENCY端子

強制的にエマージェンシー記録モードへ移行させるための入力端子です。

MODE OUT端子(1~4)

本機の状態を外部に伝えるための出力端子です。本機の状態の選択は、<モードアウト設定>(設定メニュー→システム設定→背面端子の設定をする→モードアウト設定)で行います。

CALL OUT端子/CALL OUT GND端子

本機の障害を外部に知らせるための端子とその専用GND端子です(アイソレーション端子)。外部に伝える情報表示の選択は、<コールアウト設定>(設定メニュー→システム設定→背面端子の設定をする→コールアウト設定)で行う項目と、メニュー設定に関わらず出力される項目があります。

DC 12V OUT端子

直流電圧出力のための端子で、MAINスイッチと電源ボタンがONの場合のみ出力します。最大電流は350mAです。

16 RS485 IN/OUT端子

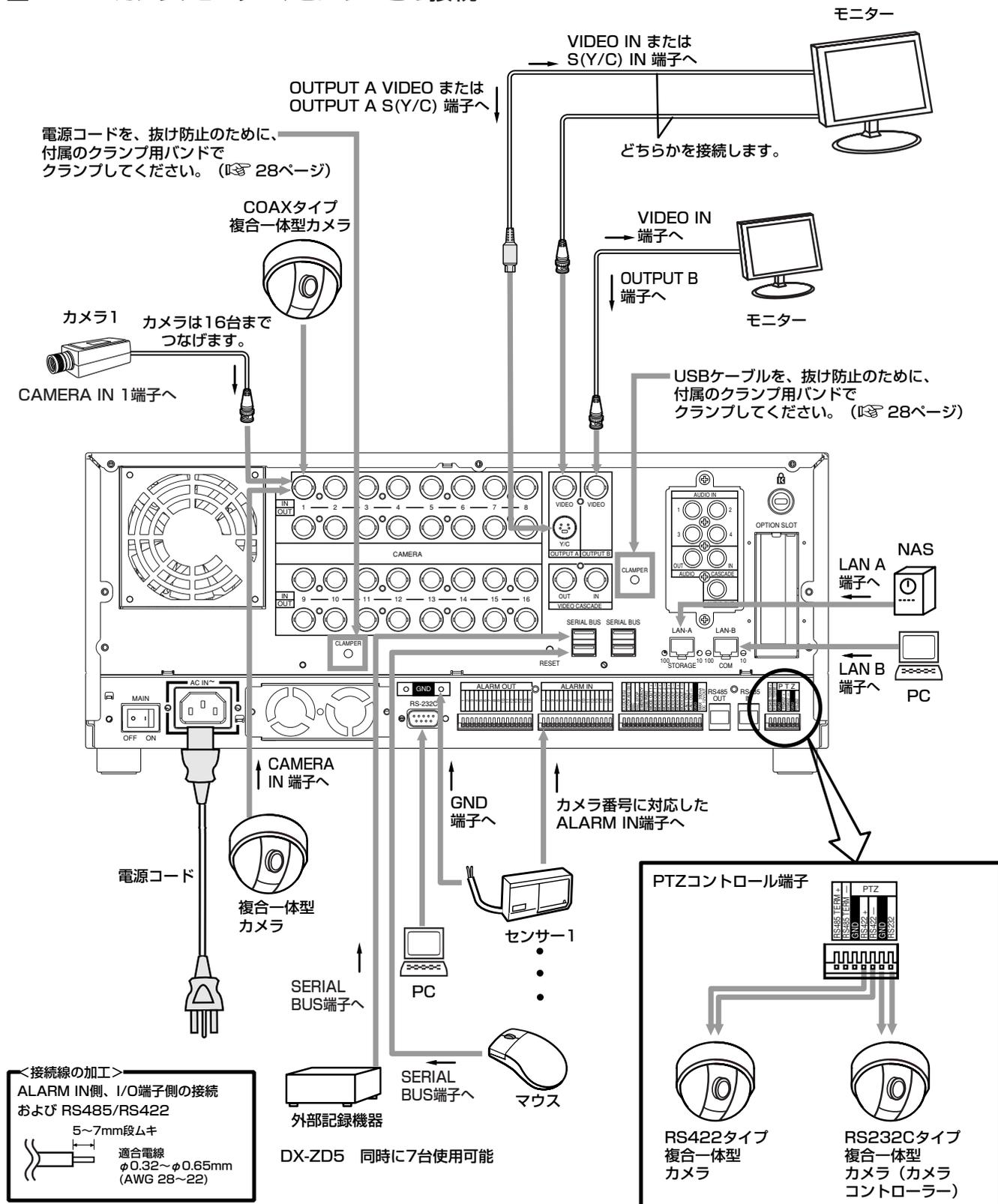
本機を遠隔操作するための端子です。他のレコーダーと接続するときにも使用します。

17 RS422/RS232C端子

PTZカメラを接続して、パン、チルト、ズームを操作するための端子です。

接続のしかた

■ CCTVカメラ、モニター、センサーとの接続



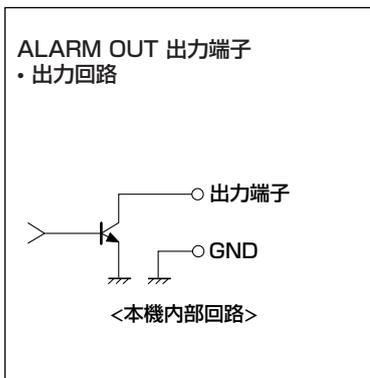
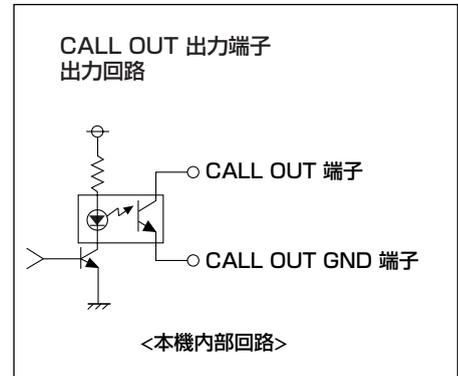
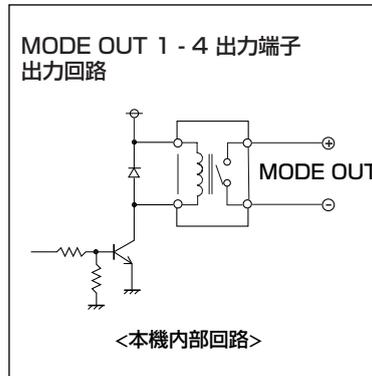
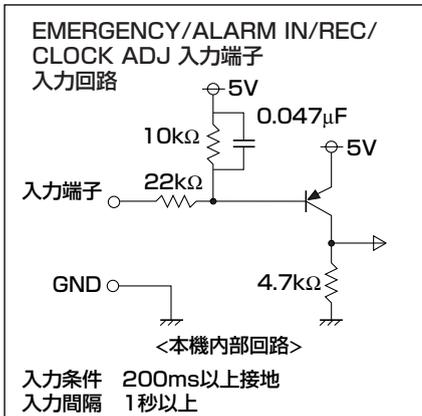
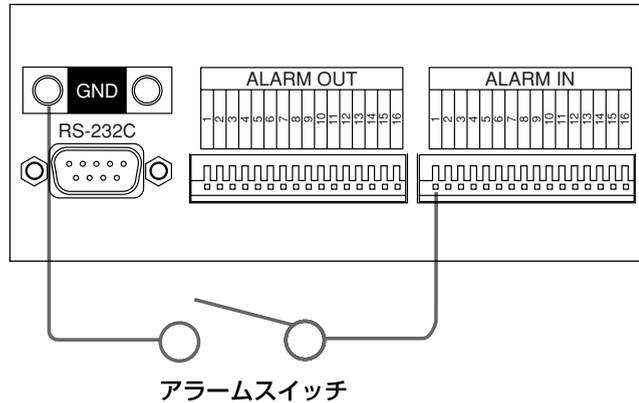
❗ 本機は、さまざまな機器を接続し、本機を外部機器から制御したり、本機から接続機器を制御できる機能を備えておりますが、本機の動作状態によっては、本機の動作が緩慢になったり、接続機器の制御が遅れたりする場合があります。

はじめに
接続・基本操作
メニュー一覧
運用
基本機能
通信
記録時間表
故障かな？
設定リスト
用語集・仕様

接続のしかた(つづき)

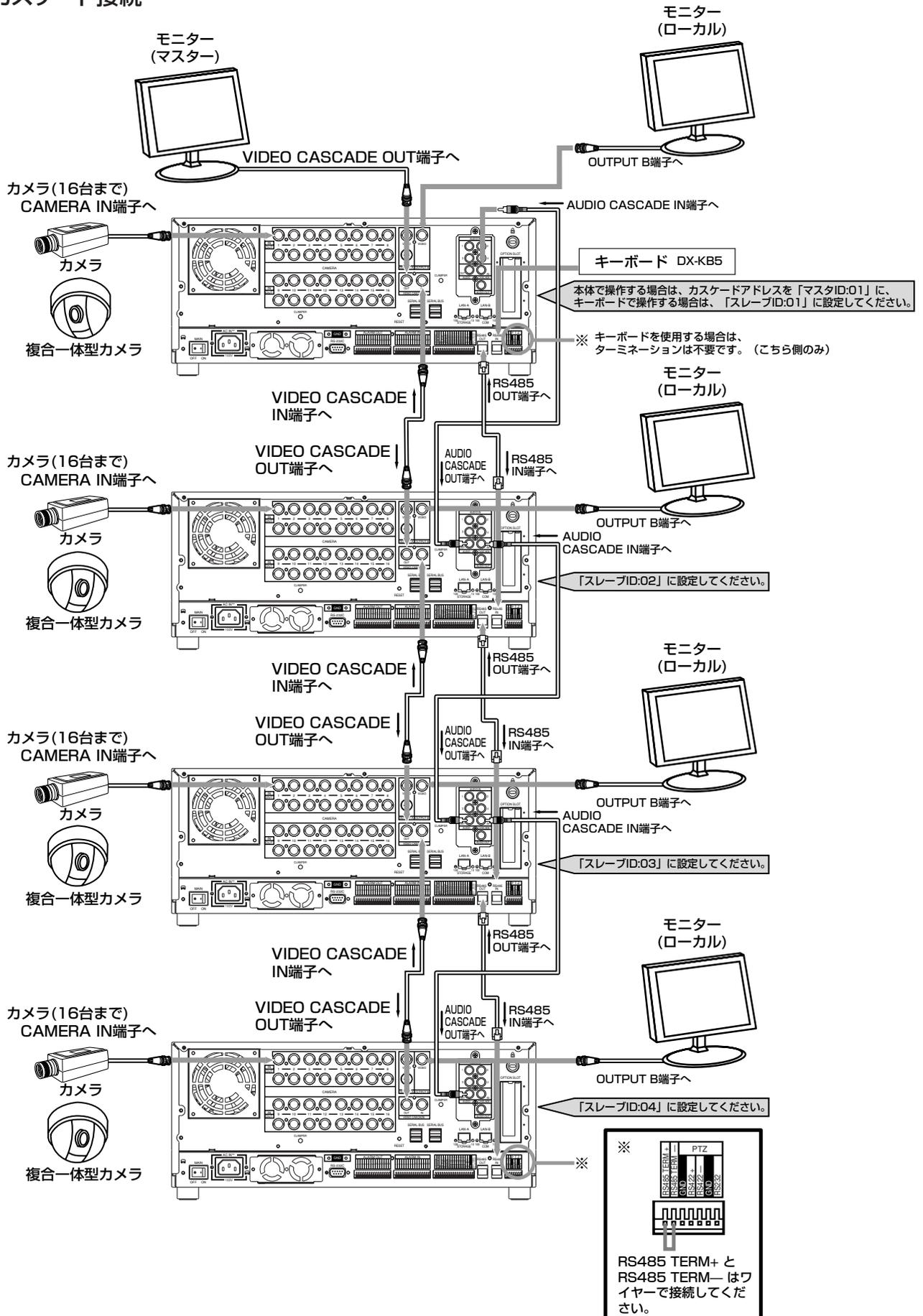
■ アラーム記録の接続

下図は、アラームセンサー1に対応したアラーム信号の場合の接続例です。



MODE OUT +/- 1~4 リレー出力	動作時: ショート 非動作時: オープン	最大電流500mA DC、 最大電圧+24V DC
CALL OUT +/- ワーニング警報信号 (フォトカプラ出力)	動作時: ショート 非動作時: オープン	最大電流7mA DC、 最大電圧+24V DC
ALARM IN	動作時: GND端子に短絡または「L」レベル電圧印加、 非動作時: オープン	
CLOCK ADJ	同上	
REC	同上	
EMERGENCY	同上	
ALARM OUT	動作時: 「L」レベル電圧出力 非動作時: オープン	最大電流7mA DC、 最大電圧+24V DC

■ カスケード接続



❗ 本機は、さまざまな機器を接続し、本機を外部機器から制御したり、本機から接続機器を制御できる機能を備えておりますが、本機の動作状態によっては、本機の動作が緩慢になったり、接続機器の制御が遅れたりする場合があります。

接続のしかた(つづき)

■ HDDの取り付け、取りはずしのしかた

本機には、HDDが4台内蔵されています。HDDの交換は、次ページの手順で行ってください。

◆ HDD取り付け・取りはずし時の注意

- ・ HDDを不必要に取り付け・取りはずししないでください。本機のHDDの取り付け・取りはずしは、故障したHDDの交換を想定していません。(リムーバブル用途ではありません。)
- ・ HDDの取り付け・取りはずしをするときは、本機前面の電源ボタンと後面のMAINスイッチを、共にオフにしてください。また、電源を切ってから1分以上お待ちください。
- ・ 本機の天板を外さないでください。
- ・ 複数のHDDを取り付けるときは、HDD A、B、Cの順で取り付けてください。
- ・ HDDを落とさないでください。また、HDDトレイにコインやドライバなどの金属物を入れないでください。
- ・ 記録中に停電が発生した場合は、記録データが消去されることがありますので、HDDの交換・移動をしないでください。その場合、停電発生時に取り付けられていたHDDを取り付けた状態で電源を入れ、起動させてください。その後、HDDの交換・移動を行ってください。
- ・ HDDは、大変衝撃に弱い精密部品です。少しの衝撃でHDDの内部が破損する恐れがありますので、取扱いには十分注意し、下記の事項を守ってください。
 - ・ HDDを直接机の上などに置かないでください。クッションなどを敷き、その上に衝撃を与えないように置いてください。
 - ・ 電動ドライバを使用しないでください。電動ドライバの振動や衝撃でHDDの内部が破損する恐れがあります。
 - ・ 作業時は、HDDどうし、またはHDDとHDDトレイなどを接触させないようにしてください。
 - ・ 作業時は、HDDにドライバなどを接触させないようにしてください。
- ・ 推奨HDDは、以下のHDDです。この情報は、2005年9月時点のものです。メーカーにより、予告なく生産が停止または変更されることがあります。最新の情報や、これ以外のHDDの使用については、販売店にご相談ください。複数のHDDを取り付ける場合は、通常は同じ容量、形名のHDDをご使用ください。

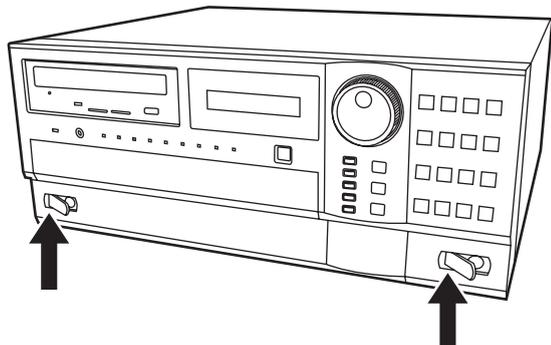
<日立グローバルストレージテクノロジーズ>

HDS724040KLSA80 (400 GB、S-ATA)

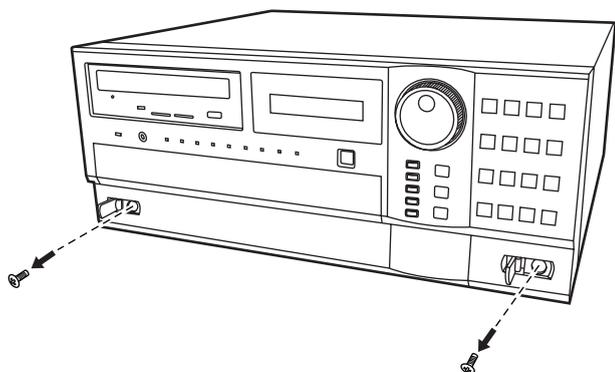
◆ HDDの取りはずしかた

1 本機前面下部のカバーの両端にあるネジカバーの左端を押して、ネジカバーを開ける。

❗ 通常の使用時に、ネジカバーを開いたままにしないでください。

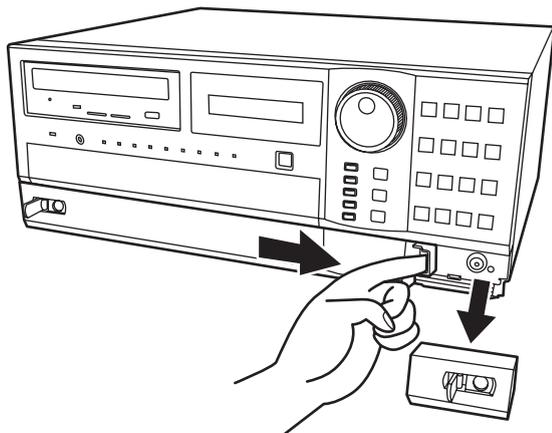


2 ネジをはずす。



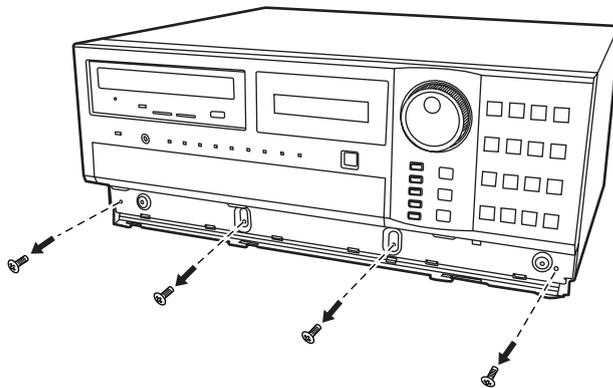
3 カバーをはずす。

- ・ はじめに右側のカバーを取りはずします。
- ・ 次に左側のカバーを右へスライドさせて取りはずします。

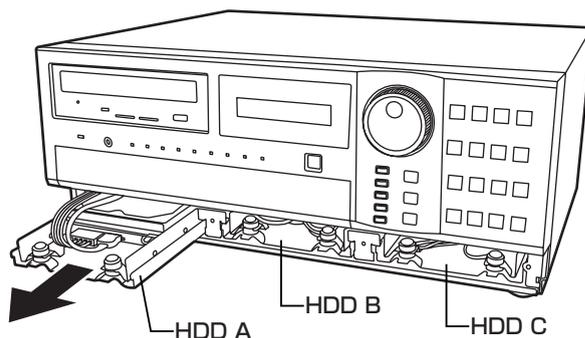


4 カバー内部の金属の部品を取りはずす。

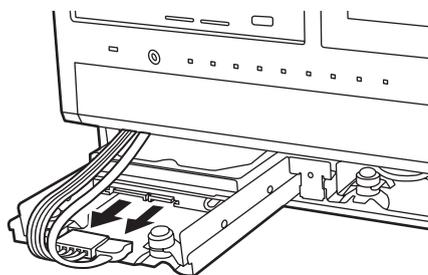
- ・ 金属部品を固定している4本のネジを取りはずします。



5 HDDトレイを途中まで引き出す。



6 コードをはずす。

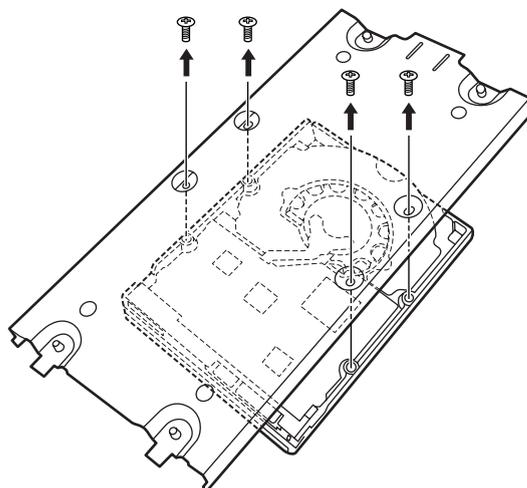


7 HDDトレイを引き出す。

- ・ HDDトレイを完全に引き出します。

8 HDDを取りはずす。

- ・ HDDを固定している4本のネジをはずし、HDDをフレームから取りはずします。

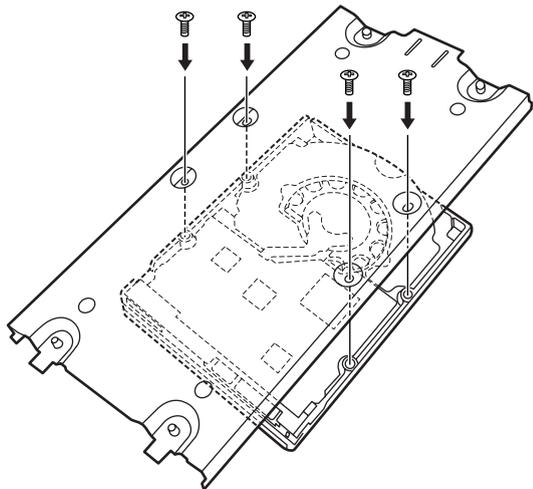


接続のしかた(つづき)

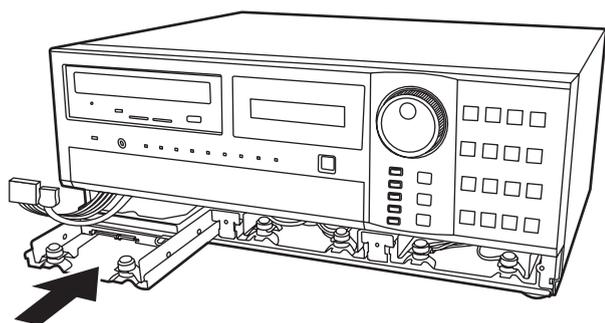
◆ HDDの取り付けかた

1 取り付けるHDDをトレイにのせ、4本のネジで固定する。

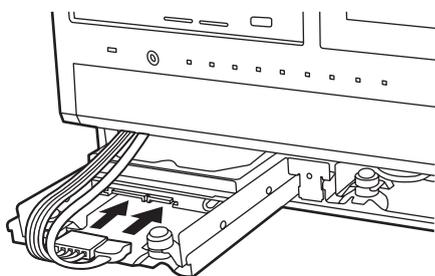
- ・ HDDは正しい方向に取り付けてください。
- ・ ネジは間違えないように付けてください。



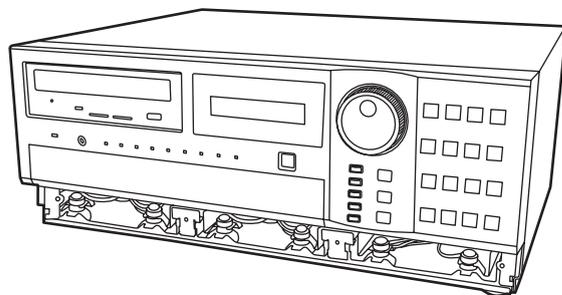
2 HDDトレイを途中まで入れる。



3 コードをつなぐ。

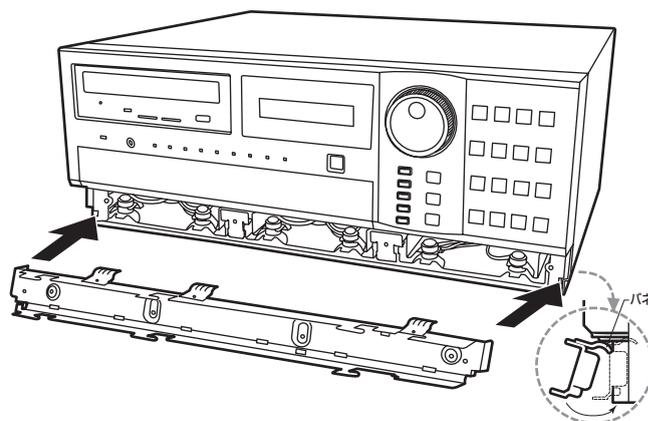


4 HDDトレイを完全に本体に入れる。

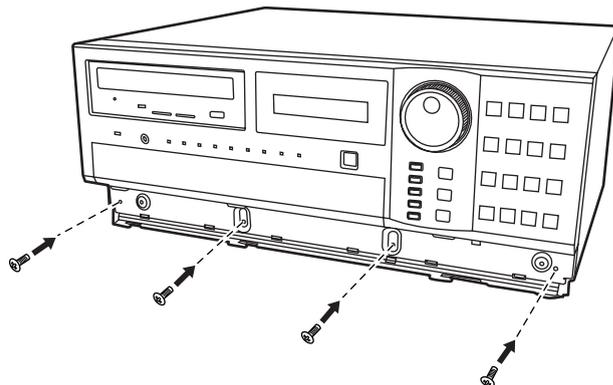


5 金属の部品を取り付ける。

- ・ 金属部品の上側を先に合わせたあと、下側を本機に押し込んでください。
- ・ バネが変形しないように注意してください。

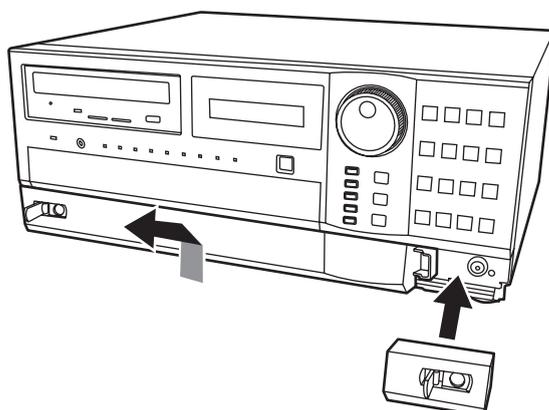


6 金属の部品をネジで固定する(4ヶ所)。

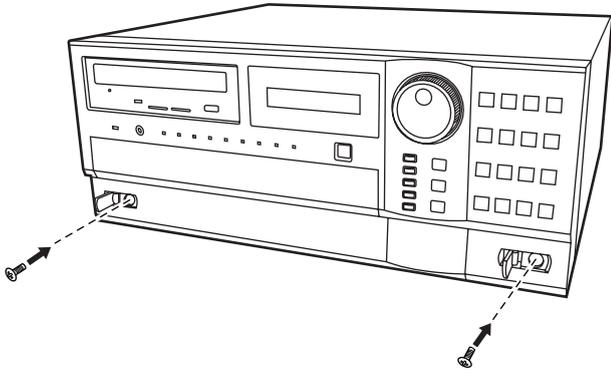


7 カバーを取り付ける。

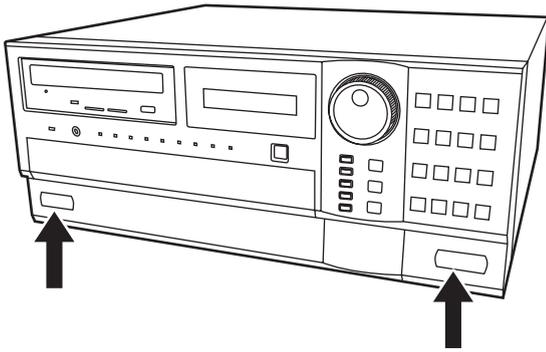
- ・ 左側のカバーを先に取り付けてから、右側のカバーを取り付けます。



8 ネジをしめる(2ヶ所)。



9 本機前面部のカバーの両端にあるネジカバーを閉じる。

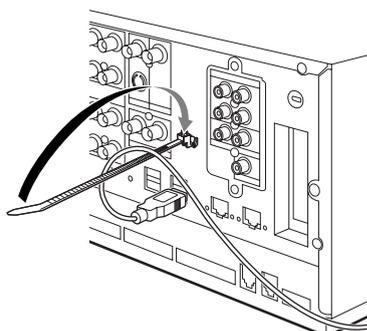
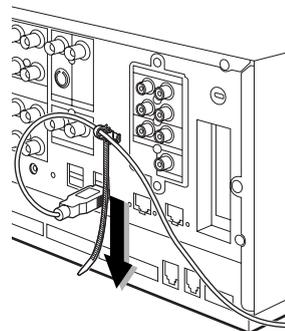
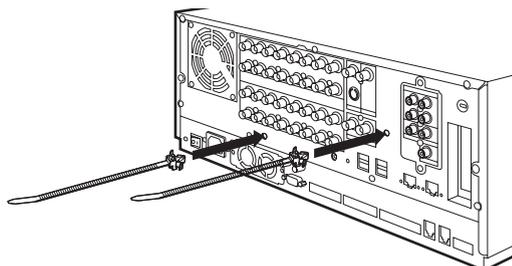


- ➡ HDD B、Cを取り付け/取りはずすときも、同じ手順で行ってください。
- ➡ HDD Dの取り付け/取りはずしについては、販売店にご依頼ください。

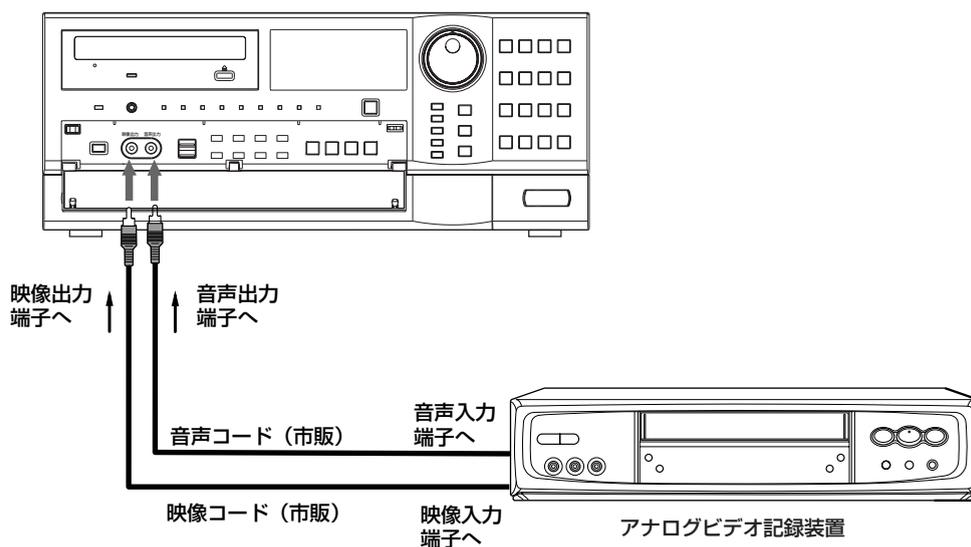
接続のしかた(つづき)

■ ケーブルのクランプのしかた

- 1 付属のクランプ用バンドを、本機後面のクランプ用の穴に取り付ける。
 - ・ クランプ用の穴は、電源ケーブル用とUSBケーブル用の2つあります。
- 2 クランプするケーブルを、下図のようにクランプ用バンドに通す。
 - ・ バンドのギザギザの面を内側に向けてください。
- 3 クランプ用バンドの端を、止まるまで引っ張る。



■ アナログビデオの接続



■ オプション品

DX-ZD5

ハードディスク増設ユニット(シリアルバス接続タイプ)

本機は、さまざまな外付けHDDを接続し、メモリー拡張やコピー機能として使用することができますが、本機を使用し高レートで記録・再生・コピーを行うと、接続する機器によっては、データ転送や応答が遅いことにより、記録や再生での画像抜けなどが発生することがあります。実際の運用前に必ず確認してご使用いただくをお願いします。

本機のバスパワーを使用した外部機器の電源制御機能は使用しないでください。

DX-RM5(ZD)

ハードディスク増設ユニットDX-ZD5用ラックマウントアダプター

DX-KB5

デジタルレコーダー用キーボード(カスケード機能対応)

DX-GC5

XGA出力オプションボード(本体PCIスロットに装着)

DX-R25

リモートコントロールユニット

(メニューの設定や検索、PTZのプリセット機能は操作できません。)

PTZ関連の機能については、販売店にご確認ください。

DX-RM5

デジタルレコーダーDX-TL5000シリーズ用ラックマウントアダプター

■ 推奨品

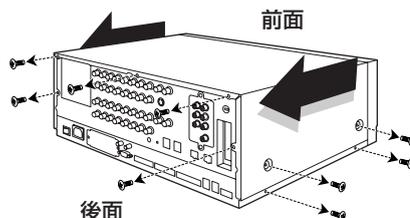
本機は、さまざまな外付けHDDを接続し、メモリー拡張やコピー機能として使用することができますが、本機を使用し高レートで記録・再生・コピーを行うと、接続する機器によっては、データ転送や応答が遅いことにより、記録や再生での画像抜けなどが発生することがあります。実際の運用前に必ず確認してご使用いただくをお願いします。

SCSIボードの推奨品、またその他外部機器の推奨品につきましては、販売店へご相談ください。

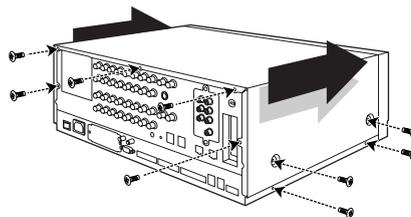
ご使用になりたい外付け機器が運用方法によっては適さない場合があります。販売店にお問い合わせいただくことをおすすめします。

■ オプションボードの取り付けのしかた

- 1 本機側面(4 X 2)および後面(5)のネジを13ヶ所はずす。



- 2 天板をスライドさせながらはずす。
- 3 各オプションボードを取り付ける。
 - ・ 取り付けるオプションボードの取扱説明書にしたがって取り付けてください。
- 4 天板を取り付ける。
 - ・ 天板を取り付け、手順1でははずしたネジ13ヶ所をしめます。



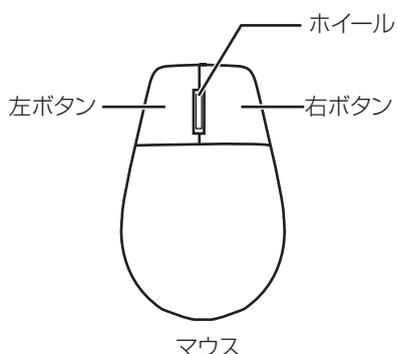
メニューの設定方法

■ メニューの設定

本機の動作条件は、出力Aモニターのメニュー画面で設定することができます。メニューは、本機前面のボタンまたはマウスを使用することによって選択、設定できます。メニュー画面中の1から16の数字(カメラ番号ボタン)とAからEのアルファベット(分割ボタン)が本機前面のボタンの名前を表しています。

❗ 出力Bが選択されているときは、マウスのカーソルは表示されますが、メニューは表示されず、設定できません。メニューは、出力Aが選択されているときのみ設定することができます。

◆ マウスを使ってメニューを設定する方法

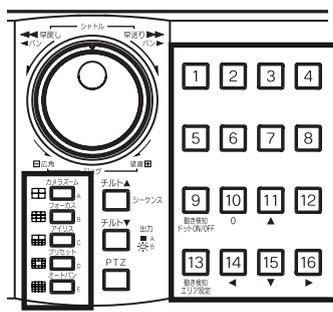
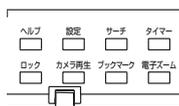


❗ マウスは、図のような左右ボタンを備えた標準的なUSBマウスをご使用ください。マウスによってはご使用にできない場合があります。ご注意ください。

1 マウスの右ボタンと左ボタンを使って設定する。

- ・メニューを開いたり、設定したい項目を選択するときは、左ボタンを使います。
- ・動き検知機能の範囲を設定するときは、右ボタンを使います。(P.62、63ページ「動き検知設定」)
- ・本機では、マウスのホイールは使用できません。

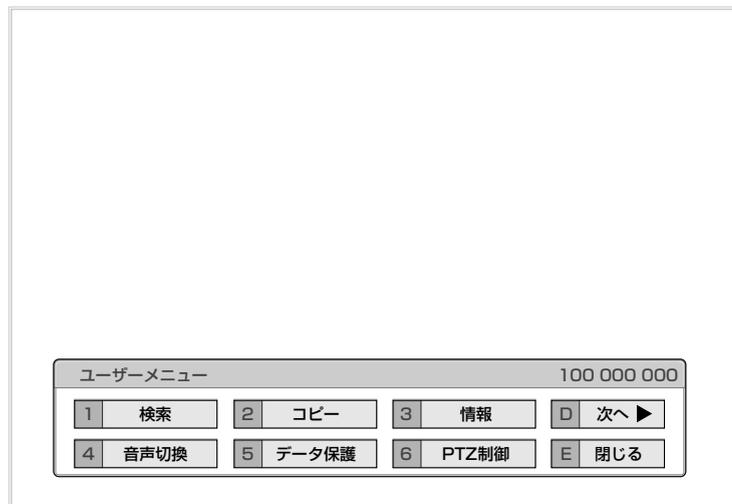
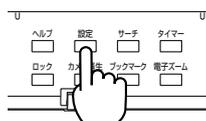
◆ 本機のボタンを使ってメニューを設定する方法



1 設定ボタン、カメラ番号ボタン、分割ボタン(A～E)を使って設定する。

- ・メニュー画面を開くときは、設定ボタンを押します。
- ・各メニューを開いたり、設定したい項目を選択するときは、カメラ番号ボタン(1～16)と分割ボタン(A～E)を押します。

◆ メニュー画面を表示する



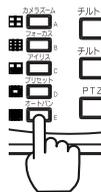
1 設定ボタンを押すか、マウスを左クリックしてメニューを表示する。

- ・ <ユーザーメニュー>が開きます。
- ・ 他のメニューを開くときは、Dボタンを押すか、「次へ▶」の上で左クリックします。

➡ マウスを使うときは、下記の範囲をクリックしてください。



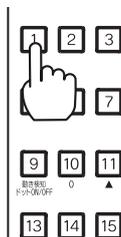
◆ メニュー画面を閉じる



1 Eボタンを押すか、「閉じる」の上でマウスを左クリックする。

- ❗ 本機の設定ボタンを押しても、メニューを閉じることはできません。

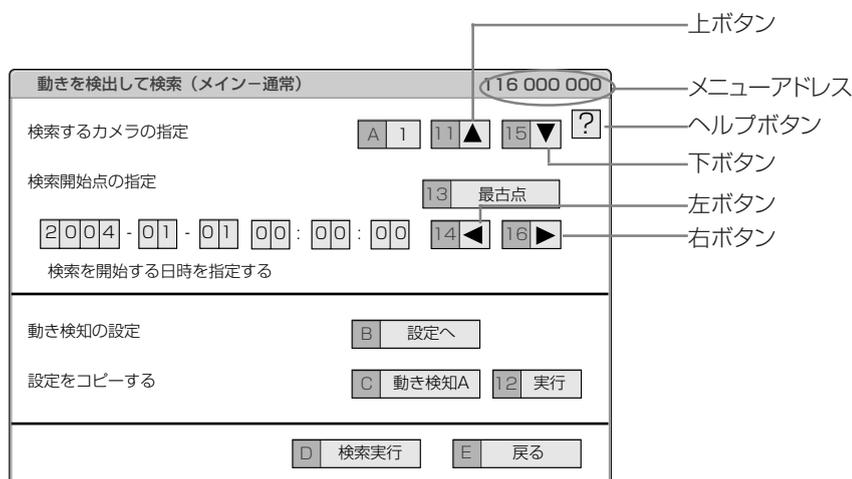
◆ 項目を選択する



1 設定したい項目の番号のボタンを押す。または、設定したい項目の上でマウスを左クリックする。

- ・ 選択されたメニューが開きます。
- ・ 項目を選択してその番号のボタンを押します。または、設定したい項目の上でマウスを左クリックします。

◆ メニュー画面中の記号



メニュー画面中にはいくつかの記号が表示されます。意味は以下の通りです。

- ? (ヘルプ) ヘルプボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、メニューの詳細情報が表示されます。
- ◀ (左) 14ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定する項目が左に移動します。
- ▶ (右) 16ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定する項目が右に移動します。
- ▲ (上) 11ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定値が大きくなります。
- ▼ (下) 15ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定値が小さくなります。

メニューアドレス 各メニューにはメニューアドレスがついています。メニューアドレスの番号に対応した番号を本機前面部のボタンを押すことによって、メニューを開くことができます。

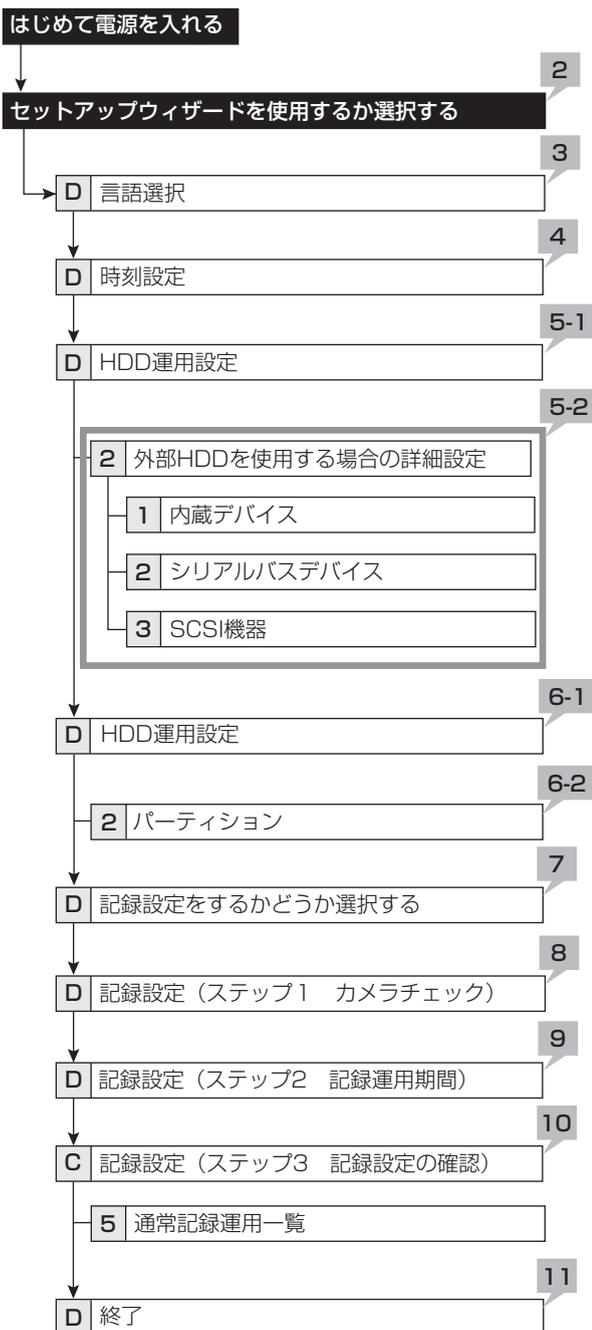
例えば、<動きを検出して検索する>メニューを開くには、設定ボタンを押してからカメラ番号ボタンを1、6の順に押します。

自動設定

■ セットアップウィザード

はじめて本機の電源を入れたとき、最低限必要な機能を設定するため、セットアップウィザードが表示されます。

- ➡ はじめて電源を入れたときのみ、自動的にセットアップウィザード画面が表示されます。次回以降、表示されません。



- 1 カメラ、モニターなどを接続したあと、本機後面のMAINスイッチをONにし、アクセスインジケータが消灯したあと、前面部の電源ボタンを押す。

・ <自動設定>画面が表示されます。

- ❗ アクセスインジケータ点滅中は、電源ボタンを押しても受け付けません。インジケータが消灯し、LCDに「POWER OFF」が表示されてから電源ボタンを押してください。

- 2 セットアップウィザードを使用するかどうかを選択する。

・ セットアップウィザードを使用する場合は「実行」、しない場合は「中止」を選択してください。「中止」を選択すると、初期設定から時計が動きはじめます。

- ➡ セットアップウィザードの途中で設定画面から抜けることはできません。また、メニューによっては、一度設定し終わった画面へ戻ることもできません。ご注意ください。

- 3 (「実行」を選択したとき)

言語を選択する。

・ <言語選択>画面が表示されます。メニューの言語はこの画面で選択します。

・ 日本語または英語を選択し、変更した場合は「変更」を選択してください。「変更」を選択した場合、本機が再起動します。

・ 言語を変更しない場合は、「次へ」を選択してください。

- 4 現在時刻を設定する。(詳細は64ページ参照)

・ 現在時刻を設定して、「次へ」を選択してください。

- ➡ この設定画面を終了すると、時計が動き始めます。

- 5-1 ハードディスクの設定をする。

・ 内蔵ハードディスクのみを使用する場合は、「内蔵」を選択し、「次へ」を選択してください。

・ 外付けハードディスクを使用する場合は、「内蔵+外付」を選択し、「設定」を選択して、それぞれのハードディスクについて詳細設定を行ってください。

- 5-2 (「設定」を選択したとき)

内蔵HDD、シリアルバスHDD、SCSI HDDの詳細設定をする。

・ 詳細設定画面で、「メイン」を選択すると、メインデバイスとして使用されます。「コピー2」を選択すると、コピー2デバイスとして使用されます。「未登録」を選択すると、メインデバイスまたはコピー2デバイスとして使用されません。

・ 設定が終わったら、5-1の画面へ戻り、「次へ」を選択してください。

- 6-1 ハードディスク運用を設定する。

「ノーマル」:パーティションを設定しません。

「パーティション」:全ハードディスクメモリの中で、アラーム記録のための独立したパーティションを設定します。「パーティション」を選択したときは、分割容量を設定してください。

・ 「ノーマル」を選択した場合は、「次へ」を選択してください。

・ 「パーティション」を選択した場合は、「設定」を選択して、分割容量の設定を行ってください。

6-2 (「パーティション」を選択したとき)

分割容量を設定する。

「通常記録エリア」: 通常記録のためのエリアです。

「アラーム記録エリア」: アラーム記録のためのエリアです。

「ロングプリアラームエリア」: ロングプリアラーム記録のためのエリアです。

- ・ 5%単位で、各エリアに割り当てる容量を設定します。
- ・ 通常記録エリアを「0%」に設定することはできません。
- ・ 設定が終わったら、6-1の画面へ戻り、「次へ」を選択してください。

7 記録設定をするかどうか選択する。

- ・ 記録設定をする場合は「次へ」、しない場合は「中止」を選択してください。
- ・ 「中止」を選択すると、本機の電源が入ります。

- ➡ 記録設定画面は、「戻る」ボタンで前の画面に戻ることができます。

8 (「次へ」を選択したとき)

「実行」を選択すると、本機が自動的に接続しているカメラからの画像の状態をチェックし、記録するカメラの番号を設定します。

- ・ 設定が終わったら、「次へ」を選択してください。

9 記録時間を設定する。

- ・ 記録期間と、1日の記録時間を設定します。
- ・ 設定が終わったら、「実行」を選択してください。

10 手順8で検出されたカメラ番号に、フレーム／フィールド、記録コマ数、記録画質が自動的に設定されます。

- ・ ここでの設定は、通常記録に適用されます。
- ・ 設定を手動で調整することもできます。
- ・ 設定を確認するときは「確認」、設定が終わったら「次へ」を選択してください。

- ➡ 音声記録設定は、「記録無」で設定されます。音声記録をする場合は、59ページを参照してください。

音声記録をする場合、音声記録をしないときに比べて記録時間は短くなります。通常記録の確認画面で、記録見積み時間を確認してください。

11 「終了」を選択し、セットアップウィザードを終了する。

- ・ 本機が起動します。

メニュー一覧

■ メニュー一覧

本機の基本的な設定は、メニュー画面から行います。

❗ 再生中、記録中、プリアラーム記録待機中は、一部のメニュー内容の変更はできません。

◆ ユーザーメニュー

ユーザーメニュー (100 000 000)

	メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
① 検索	① 再生/検索デバイスの設定をする	111 000 000	画像を再生/検索するデバイスを選択します。	46
	② 日付と時刻を指定して検索する	112 000 000	日付と時刻を指定して必要な画像を検索します。	101
	③ アラームリストから検索をする	113 000 000	アラーム記録の開始時刻のリストを使って、必要な画像を検索します。	101
	D 検索実行(アラームリスト)	113 D00 000	アラーム記録リストを表示します。	101
	④ 映像が記録されたデバイスを特定する	114 000 000	記録期間を入力して、データが記録されているデバイスを検出します。	46
	D 検索実行(デバイス検索結果のリスト)	114 D00 000	指定された期間に、記録に使用されたデバイスのリストを表示します。	46
	⑤ ブックマークから検索をする	115 000 000	登録されたブックマークを指定して、必要な画像を検索します。	46
	⑥ 動きを検出して検索をする	116 000 000	再生中に動き検知機能を使って動きのあったカメラ画像を検索します。	47
	B 設定へ(動き検知検出設定)	116 B00 000	動き検知機能の条件を設定します。	47
	A+D 設定	—————	検知エリアを手動で設定します。	47
E メニューを閉じる		ユーザーメニューに戻ります。	—	
② コピー	① コピー1デバイスに記録映像をコピーする	121 000 000	開始点と終了点を指定して、必要なデータをコピー1デバイスにコピーします。(短期間)	48
	① 開始/終了 + ② 設定	121 2SE 000	コピーする開始点と終了点を設定します。	48
	① 開始点 + ② 設定	121 2S0 000	コピーする開始点のみを設定します。	48
	① 終了点 + ② 設定	121 2E0 000	コピーする終了点のみを設定します。	48
	② コピー2デバイスに記録映像をコピーする	122 000 000	開始点のみを指定して、必要なデータをコピー2デバイスにコピーします。(長期間)	48,49
	① 開始点 + ② 設定	122 2S0 000	コピーする開始点を設定します。	48,49
	③ コピー1デバイスを設定する	123 000 000	記録画像をコピー1デバイスにコピーするために、カメラ番号、コピー元、コピー先などを指定します。	48
④ コピー2デバイスを設定する	124 000 000	記録画像をコピー2デバイスにコピーするために、カメラ番号、コピー元、コピー先などを指定します。	48,49	
E メニューを閉じる		ユーザーメニューに戻ります。	—	
③ 情報	① メインデバイスの記録情報を表示する	131 000 000	通常記録範囲、アラーム記録範囲などのメインデバイス情報を表示します。	52
	② コピー1デバイスの記録情報を表示する	132 000 000	コピー1デバイスの各グループの記録範囲を表示します。	52
	③ コピー2デバイスの記録情報を表示する	133 000 000	コピー2デバイスの各グループの記録範囲を表示します。	52
	E メニューを閉じる		ユーザーメニューに戻ります。	—
D 次へ	設定メニューに移動します。			—
④ 音声切替	① 音声を切替える	—————	カメラからの映像を表示中または再生中の音声出力を、1から4チャンネルの間で切り換えます。	52
	E メニューを閉じる		ユーザーメニューに戻ります。	—

ユーザーメニュー (100 000 000)

メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
⑤データ保護	①範囲を指定して記録映像を保護する	151 000 000 記録画像を保護します。500までの画像が保護され、上書きできなくなります。保護された画像のリストを表示、検索します。	53
	②保護された記録映像を再生する	152 000 000 保護された画像のリストを表示、削除します。	53
	③保護された記録映像を消去する	153 000 000 保護された画像のリストを表示、削除します。	53
	Ⓔメニューを閉じる	ユーザーメニューに戻ります。	—
⑥PTZ制御	①PTZカメラを操作する	———— PTZカメラのパン、チルトを行います。	54
	ズーム、アイリス、フォーカス、オートパン	———— カメラズーム、アイリス、フォーカスを調整します。オートパンを実行します。	54
	プリセット設定	———— 16カ所までの監視ポイントを設定します。	54
	②操作するカメラを切替える	162 000 000 制御するPTZカメラを切り換えます。	54
Ⓔメニューを閉じる	———— ユーザーメニューに戻ります。	—	
Ⓔ閉じる	———— ユーザーメニューを終了します。	—	

メニュー一覧(つづき)

◆ 設定メニュー

設定メニュー (200 000 000)

メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
1 記録設定			
1 記録パターンA (通常記録) の設定をする	211 000 000	記録パターンAを設定します。	55-57,116,117
1 カメラチェック	211 100 000	記録するカメラ番号を選択します。	55-57
2 自動 + D 設定	211 2AD 000	記録サイクルと1日当たりの記録時間を指定し、自動的に通常記録の設定をします。	55-57, 116
D 実行	211 2AD D00	通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 116
2 簡易 + D 設定	211 2ED 000	すべてのカメラ番号に対して同じ通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 116
D 実行	211 2ED D00	通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 116
2 手動 + D 設定	211 2MD 000	各カメラごとに、個別に通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 116
D 確認>	211 2MD D00	通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 116
3 アラーム記録設定	211 300 000	アラーム記録の設定を行います。	55-57,116,117
1 簡易設定 + D 設定	211 3ED 000	すべてのカメラ番号に対して同じアラーム記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 116
D 実行	211 3ED D00	アラーム記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 116
1 手動設定 + D 設定	211 3MD 000	各カメラごとに、個別にアラーム記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 116
D 確認>	211 3MD D00	アラーム記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 116
4 アラーム記録カメラ設定	211 400 000	アラーム記録のセンサー設定を行います。	55-57, 117
D 確認>	211 4D0 000	各センサーごとの記録カメラのプレビュー画面を表示します。	55-57, 117
D 次へ>	211 4DD 000	各センサーごとの記録カメラのプレビュー画面を表示します。	55-57, 117
5 アラーム入出力設定	211 500 000	アラーム記録のトリガー設定、PTZカメラプリセットの設定を行います。	55-57, 117
D 確認>	211 5D0 000	アラーム記録のトリガー設定、PTZカメラプリセット設定のプレビューを表示します。	55-57, 117
2 記録パターンBの設定をする	212 000 000	記録パターンBを設定します。	55-57,118,119
1 カメラチェック	212 100 000	記録するカメラ番号を選択します。	55-57
2 自動 + D 設定	212 2AD 000	記録サイクルと1日当たりの記録時間を指定し、自動的に通常記録の設定をします。	55-57, 118
D 実行	212 2AD D00	通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 118
2 簡易 + D 設定	212 2ED 000	すべてのカメラ番号に対して同じ通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 118
D 実行	212 2ED D00	通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 118
2 手動 + D 設定	212 2MD 000	各カメラごとに、個別に通常記録のフレーム/フィールド記録の選択、記録コマ数の設定、画質の設定を行います。	55-57, 118
D 確認>	212 2MD D00	通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 118
3 アラーム記録設定	212 300 000	アラーム記録の設定を行います。	55-57,118,119
1 簡易設定 + D 設定	212 3ED 000	すべてのカメラ番号に対して同じアラーム記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 118
D 実行	212 3ED D00	アラーム記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 118
1 手動設定 + D 設定	212 3MD 000	各カメラごとに、個別にアラーム記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 118
D 確認>	212 3MD D00	アラーム記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 118
4 アラーム記録カメラ設定	212 400 000	アラーム記録のセンサー設定を行います。	55-57, 119
D 確認>	212 4D0 000	各センサーごとの記録カメラのプレビュー画面を表示します。	55-57, 119
D 次へ>	212 4DD 000	各センサーごとの記録カメラのプレビュー画面を表示します。	55-57, 119
5 アラーム入出力設定	212 500 000	アラーム記録のトリガー設定、PTZカメラプリセットの設定を行います。	55-57, 119
D 確認>	212 5D0 000	アラーム記録のトリガー設定、PTZカメラプリセット設定のプレビューを表示します。	55-57, 119

設定メニュー (200 000 000)

メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
①記録設定	③記録パターンCの設定をする	213 000 000 記録パターンCを設定します。	55-57,120,121
	①カメラチェック	213 100 000 記録するカメラ番号を選択します。	55-57
	②自動 + [D]設定	213 2AD 000 記録サイクルと1日当たりの記録時間を指定し、自動的に通常記録の設定をします。	55-57, 120
	[D]実行	213 2AD D00 通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 120
	②簡易 + [D]設定	213 2ED 000 すべてのカメラ番号に対して同じ通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 120
	[D]実行	213 2ED D00 通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 120
	②手動 + [D]設定	213 2MD 000 各カメラごとに、個別に通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 120
	[D]確認>	213 2MD D00 通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 120
	③アラーム記録設定	213 300 000 アラーム記録の設定を行います。	55-57,120,121
	①簡易設定 + [D]設定	213 3ED 000 すべてのカメラ番号に対して同じアラーム記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 120
	[D]実行	213 3ED D00 アラーム記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 120
	①手動設定 + [D]設定	213 3MD 000 各カメラごとに、個別にアラーム記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 120
	[D]確認>	213 3MD D00 アラーム記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 120
	④アラーム記録カメラ設定	213 400 000 アラーム記録のセンサー設定を行います。	55-57, 121
	[D]確認>	213 4D0 000 各センサーごとの記録カメラのプレビュー画面を表示します。	55-57, 121
	[D]次へ>	213 4DD 000 各センサーごとの記録カメラのプレビュー画面を表示します。	55-57, 121
	⑤アラーム入出力設定	213 500 000 アラーム記録のトリガー設定、PTZカメラプリセットの設定を行います。	55-57, 121
	[D]確認>	213 5D0 000 アラーム記録のトリガー設定、PTZカメラプリセット設定のプレビューを表示します。	55-57, 121
	④記録パターンDの設定をする	214 000 000 記録パターンDを設定します。	55-57,122,123
	①カメラチェック	214 100 000 記録するカメラ番号を選択します。	55-57
	②自動 + [D]設定	214 2AD 000 記録サイクルと1日当たりの記録時間を指定し、自動的に通常記録の設定をします。	55-57, 122
	[D]実行	214 2AD D00 通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 122
	②簡易 + [D]設定	214 2ED 000 すべてのカメラ番号に対して同じ通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 122
	[D]実行	214 2ED D00 通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 122
	②手動 + [D]設定	214 2MD 000 各カメラごとに、個別に通常記録のフレーム/フィールド記録の選択、記録コマ数の設定、画質の設定を行います。	55-57, 122
	[D]確認>	214 2MD D00 通常記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 122
	③アラーム記録設定	214 300 000 アラーム記録の設定を行います。	55-57,122,123
	①簡易設定 + [D]設定	214 3ED 000 すべてのカメラ番号に対して同じアラーム記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 122
	[D]実行	214 3ED D00 アラーム記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 122
	①手動設定 + [D]設定	214 3MD 000 各カメラごとに、個別にアラーム記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質の設定を行います。	55-57, 122
	[D]確認>	214 3MD D00 アラーム記録設定のプレビューを表示します。	55-57, 122
	④アラーム記録カメラ設定	214 400 000 アラーム記録のセンサー設定を行います。	55-57, 123
	[D]確認>	214 4D0 000 各センサーごとの記録カメラのプレビュー画面を表示します。	55-57, 123
	[D]次へ>	214 4DD 000 各センサーごとの記録カメラのプレビュー画面を表示します。	55-57, 123
	⑤アラーム入出力設定	214 500 000 アラーム記録のトリガー設定、PTZカメラプリセットの設定を行います。	55-57, 123
	[D]確認>	214 5D0 000 アラーム記録のトリガー設定、PTZカメラプリセット設定のプレビューを表示します。	55-57, 123

メニュー一覧(つづき)

◆ 設定メニュー(つづき)

設定メニュー (200 000 000)

メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ		
5 エマージェンシー記録の設定をする	215 000 000	ロングブリアラーム記録時間、エマージェンシー記録の記録時間、最大記録コマ数、記録カメラの設定を行います。	58,124		
	D 実行	215 D00 000	エマージェンシー記録設定のプレビューを表示します。	58,124	
	6 音声記録の設定をする	216 000 000	音声記録設定を行います。	59,124	
	E メニューを閉じる		設定メニューに戻ります。	—	
2 タイマー設定	1 連用するタイマープログラムの選択と確認をする	221 000 000	タイマー記録の記録番号を設定します。	60,61	
	2 確認>	221 200 000	プログラム1のプレビューを表示します。	60,61	
	3 確認>	221 300 000	プログラム2のプレビューを表示します。	60,61	
	2 タイマープログラムP1の設定をする	222 000 000	プログラム1の設定を行います。	60,61,124	
	3 タイマープログラムP2の設定をする	223 000 000	プログラム2の設定を行います。	60,61,125	
	4 休日の設定をする	224 000 000	休日の設定を行います。	60,61,125	
	E メニューを閉じる		設定メニューに戻ります。	—	
3 動き検知設定	1 動き検知記録のパターンA設定をする	231 000 000	パターンAの検知条件を設定します。	62,63,125	
	A + 12 設定>	—————	動き検知 (パターンA) の有効範囲を設定します。	62,63	
	13 実行>	—————	動き検知 (パターンA) の動作テストを行います。	62,63	
	2 動き検知記録のパターンB設定をする	232 000 000	パターンBの検知条件を設定します。	62,63,125	
	A + 12 設定>	—————	動き検知 (パターンB) の有効範囲を設定します。	62,63	
	13 実行>	—————	動き検知 (パターンB) の動作テストを行います。	62,63	
	E メニューを閉じる		設定メニューに戻ります。	—	
D 次へ		システムメニューに移ります。	—		
4 システム設定	1 日付と時刻の調整をする	241 000 000	日付と時刻を設定します。	64	
	2 使用言語の選択をする	242 000 000	メニューの表示言語を設定します。	64,126	
	3 背面端子の設定をする	243 000 000	MODE OUT端子、CALL OUT端子、ボタン音、ブザーの設定をします。	64,65,126	
		1 設定>	243 100 000	モードアウト設定と残量設定を行います。	64,65,126
	2 設定>	243 200 000	コールアウト設定と残量設定を行います。	65,126	
	4 パスワードの設定をする	244 000 000	パスワードを登録します。	66,67,126	
		1 設定>	244 100 000	レベル1のパスワードを登録します。	66,67,126
		2 設定>	244 200 000	レベル2のパスワードを登録します。	66,67,126
		3 設定>	244 300 000	レベル3のパスワードを登録します。	66,67,126
	4 設定>	244 400 000	ディスク管理パスワードを登録します。	66,67,126	

設定メニュー (200 000 000)

メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
5 マルチプレクサの設定をする	245 000 000	マルチプレクサ出力AとBの表示を設定します。	70,71,127
1 設定>	245 100 000	出力Aの表示設定、シーケンシャル表示の切換時間を設定します。	70,127
1 設定>	245 110 000	出力Aの4分割表示位置を設定します。	70,127
1 設定>	245 111 000	出力Aの4分割(a)の表示位置を設定します。	70,127
2 設定>	245 112 000	出力Aの4分割(b)の表示位置を設定します。	70,127
3 設定>	245 113 000	出力Aの4分割(c)の表示位置を設定します。	70,127
4 設定>	245 114 000	出力Aの4分割(d)の表示位置を設定します。	70,127
2 設定>	245 120 000	出力Aの9分割表示位置を設定します。	70,127
1 設定>	245 121 000	出力Aの9分割(a)の表示位置を設定します。	70,127
2 設定>	245 122 000	出力Aの9分割(b)の表示位置を設定します。	70,127
3 設定>	245 130 000	出力Aの10分割表示位置を設定します。	70,127
1 設定>	245 131 000	出力Aの10分割(a)の表示位置を設定します。	70,127
2 設定>	245 132 000	出力Aの10分割(b)の表示位置を設定します。	70,127
4 設定>	245 140 000	出力Aの13分割表示位置を設定します。	70,127
1 設定>	245 141 000	出力Aの13分割(a)の表示位置を設定します。	70,127
2 設定>	245 142 000	出力Aの13分割(b)の表示位置を設定します。	70,127
5 設定>	245 150 000	出力Aの16分割表示位置を設定します。	70,127
6 設定>	245 160 000	出力Aの1画シーケンシャル表示を設定します。	70,127
7 設定>	245 170 000	出力Aの分割シーケンシャル表示を設定します。	70,127
2 設定>	245 200 000	出力Bの表示設定、シーケンシャル表示の切換時間を設定します。	71,128
1 設定>	245 210 000	出力Bの4分割表示位置を設定します。	71,128
1 設定>	245 211 000	出力Bの4分割(a)の表示位置を設定します。	71,128
2 設定>	245 212 000	出力Bの4分割(b)の表示位置を設定します。	71,128
3 設定>	245 213 000	出力Bの4分割(c)の表示位置を設定します。	71,128
4 設定>	245 214 000	出力Bの4分割(d)の表示位置を設定します。	71,128
2 設定>	245 220 000	出力Bの9分割表示位置を設定します。	71,128
1 設定>	245 221 000	出力Bの9分割(a)の表示位置を設定します。	71,128
2 設定>	245 222 000	出力Bの9分割(b)の表示位置を設定します。	71,128
3 設定>	245 230 000	出力Bの10分割表示位置を設定します。	71,128
1 設定>	245 231 000	出力Bの10分割(a)の表示位置を設定します。	71,128
2 設定>	245 232 000	出力Bの10分割(b)の表示位置を設定します。	71,128
4 設定>	245 240 000	出力Bの13分割表示位置を設定します。	71,128
1 設定>	245 241 000	出力Bの13分割(a)の表示位置を設定します。	71,128
2 設定>	245 242 000	出力Bの13分割(b)の表示位置を設定します。	71,128

メニュー一覧(つづき)

◆ 設定メニュー(つづき)

設定メニュー (200 000 000)

メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
<ul style="list-style-type: none"> 5 設定> 6 設定> 7 設定> 4 設定> 5 設定> 	245 250 000	出力Bの16分割表示位置を設定します。	71,128
	245 260 000	出力Bの1画シーケンシャル表示を設定します。	71,128
	245 270 000	出力Bの分割シーケンシャル表示を設定します。	71,128
	245 400 000	アラーム表示の設定を行います。	72,128,129
	245 500 000	カメラ表示設定を行います。	72,129
6 画面に表示する情報を設定する	246 000 000	画面表示形式や位置を設定します。	72,73,130
<ul style="list-style-type: none"> 1 設定> 2 設定> 3 一覧> <ul style="list-style-type: none"> D 次へ> 4 設定> 5 調整> 	246 100 000	時計表示、動作状態、カメラ番号表示の位置を設定します。	72,73,130
	246 200 000	カメラタイトルを設定します。	73,130
	246 300 000	カメラタイトルのプレビュー画面を表示します。	73,130
	246 3D0 000	カメラタイトルのプレビュー画面を表示します。	73,130
	246 400 000	レコーダタイトルを設定します。	73,130
	246 500 000	モニター出力を設定します。	73,130
7 音声切換えの設定をする	247 000 000	音声出力を設定します。	74,130
<ul style="list-style-type: none"> 1 設定> 2 設定> 	247 100 000	1画面表示の音声出力を設定します。	74,130
	247 200 000	分割表示の音声出力を設定します。	74,130
8 工場出荷設定に戻す	248 000 000	メニュー設定を初期設定にリセットします。	74
E メニューを閉じる		設定メニューに戻ります。	—
5 クイック設定			
<ul style="list-style-type: none"> 1 保存したメニュー設定情報を読み込む + D 実行 <ul style="list-style-type: none"> 1 選択> 2 メニュー設定情報をデバイスに保存する + D 実行 <ul style="list-style-type: none"> 1 選択> E メニューを閉じる 	251 000 000	外部デバイスからメニューの設定を読み出します。	75
	251 100 000	メニューを読み出すデバイスを選択します。	75
	252 000 000	本機のメニュー設定データを外部デバイスに保存します。	75
	252 100 000	メニューを保存するデバイスを選択します。	75
		設定メニューに戻ります。	—
6 オプション設定			
<ul style="list-style-type: none"> 1 XGA出力の画面設定 E メニューを閉じる 	261 000 000	XGAモニターの画面表示形式と画質を調整します。	76,131
		設定メニューに戻ります。	—
E 閉じる		設定メニューを終了します。	—

◆ システムメニュー

システムメニュー (300 000 000)

メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
①通信設定			
① RS-232C通信の設定をする	311 000 000	RS-232Cポートの設定を行います。	77,131
② RS-485カスケード接続の設定をする	312 000 000	RS-485のカスケード設定を行います。	77,131
③ LAN B Web/専用アプリケーションの通信設定をする	313 000 000	パーソナルコンピュータとの通信設定を行います。	78,131
① 設定>	313 100 000	LAN Bの詳細設定を行います。	78,131
② 設定>	313 200 000	サービスポートを設定します。	78,131
③ 表示>	313 300 000	アラーム通知のEメールアドレスを表示します。	78,131
④ 詳細情報>	313 3D0 000	アラーム通知の詳細を表示します。	78,131
④ 表示>	313 400 000	アラーム通知ポートを表示します。	78,131
④ 詳細情報>	313 4D0 000	アラーム通知の詳細を表示します。	78,131
④ LAN A NASハードディスクの通信設定をする	314 000 000	LAN Aの設定を行います。	79,131
① 設定>	314 100 000	LAN Aの詳細設定を行います。	79,131
② 設定情報>	314 200 000	設定するNASデバイスを選択します。	79,131
① 情報表示>	314 210 000	NASデバイス1の情報を表示します。	79,131
② 情報表示>	314 220 000	NASデバイス2の情報を表示します。	79,131
③ 情報表示>	314 230 000	NASデバイス3の情報を表示します。	79,131
④ 情報表示>	314 240 000	NASデバイス4の情報を表示します。	79,131
⑤ 情報表示>	314 250 000	NASデバイス5の情報を表示します。	79,131
⑥ 情報表示>	314 260 000	NASデバイス6の情報を表示します。	79,131
⑦ 情報表示>	314 270 000	NASデバイス7の情報を表示します。	79,131
⑧ 情報表示>	314 280 000	NASデバイス8の情報を表示します。	79,131
⑤ メニューを閉じる		システムメニューに戻ります。	—
②PTZ設定			
① PTZカメラの設定をする	321 000 000	制御するカメラの設定を行います。	80,132
② 設定したPTZカメラの一覧を表示する	322 000 000	<PTZカメラの設定をする>メニューで設定した状態を表示します。	80,132
④ 次へ>	322 D00 000	<PTZカメラの設定をする>メニューで設定した状態を表示します。	80,132
⑤ メニューを閉じる		システムメニューに戻ります。	—

メニュー一覧(つづき)

◆ システムメニュー(つづき)

システムメニュー (300 000 000)

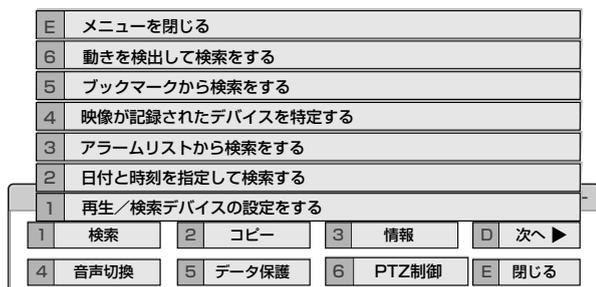
メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
③システム情報			
①システムのログを表示する	331 000 000	システムログの番号、日付、時刻を表示します。	81
②使用積算時間を表示する	332 000 000	総運用時間を表示します。	81
③デバイスの記録情報を表示する	333 000 000	それぞれのデバイスの記録範囲を表示します。	81
① 情報表示>	333 100 000	メインデバイスの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 1D0 000	メインデバイスに設定されているデバイスの詳細を表示します。	81
② 情報表示>	333 200 000	コピー1デバイスのシリアルバスグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 2D0 000	デバイスの詳細を表示します。	81
③ 情報表示>	333 300 000	コピー1デバイスのNASグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 3D0 000	デバイスの詳細を表示します。	81
④ 情報表示>	333 400 000	コピー1デバイスのSCSIグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 4D0 000	デバイスの詳細を表示します。	81
⑤ 情報表示>	333 500 000	コピー1デバイスのDVD/CDグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 5D0 000	デバイスの詳細を表示します。	81
⑥ 情報表示>	333 600 000	コピー1デバイスのUSBメモリグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 6D0 000	デバイスの詳細を表示します。	81
⑦ 情報表示>	333 700 000	コピー2デバイスのシリアルバスグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 7D0 000	デバイスの詳細を表示します。	81
⑧ 情報表示>	333 800 000	コピー2デバイスのNASグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 8D0 000	デバイスの詳細を表示します。	81
⑨ 情報表示>	333 900 000	コピー2デバイスのSCSIグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 9D0 000	デバイスの詳細を表示します。	81
⑩ 情報表示>	333 100 000	コピー2デバイスのDVD/CDグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 10D 000	デバイスの詳細を表示します。	81
⑪ 情報表示>	333 110 000	コピー2デバイスの内蔵HDDグループの記録範囲を表示します。	81
D 詳細>	333 11D 000	デバイスの詳細を表示します。	81
E メニューを閉じる		システムメニューに戻ります。	—

システムメニュー (300 000 000)

	メニュー	メニューアドレス	機能	参照ページ
D 次へ	ユーザーメニューに移動します。			—
4 リストア	1 記録映像をコピー1/2からコピーする	341 000 000	コピーデバイスからデータをリストアします。	82
	1 開始/終了 + 2 設定	341 2SE 000	リストアする開始点と終了点を設定します。	82
	1 開始点 + 2 設定	341 2S0 000	リストアする開始点のみを設定します。	82
	2 コピーデバイス1/2の設定をする	342 000 000	記録画像をメインデバイスにリストアするために、カメラ番号、リストア元、リストア先などを指定します。	82
	E メニューを閉じる		システムメニューに戻ります。	—
5 デバイス登録	1 HDDの追加/削除する	351 000 000	メインまたはコピーデバイスとして使用するデバイスの登録/削除をします。	83,84,133,134
	1 設定>	351 100 000	内蔵HDDをメインまたはコピー2デバイスに登録/削除します。	83,84,133,134
	2 設定>	351 200 000	シリアルバスデバイスをメインまたはコピーデバイスに登録/削除します。	83,84,133,134
	3 設定>	351 300 000	SCSIデバイスをメインまたはコピーデバイスに登録/削除します。	83,84,133,134
	4 設定>	351 400 000	NASデバイスをコピーデバイスに登録/削除します。	83,84,133,134
	2 DVD/CDデバイスの追加/削除をする	352 000 000	DVD/CDデバイスをコピー1/2デバイスに登録/削除します。	84,134
	3 メインデバイスの記録設定をする	353 000 000	リピータ記録設定を行います。	85,135
	4 設定>	353 400 000	メインデバイスのパーティションを設定します。	85,135
	4 再生の設定をする	354 000 000	リピータ再生、改変確認再生、オートエキスパイヤデートの設定を行います。	86,135
	E メニューを閉じる		システムメニューに戻ります。	—
6 記録映像消去	1 メインデバイスの記録映像を消去する + D 実行	361 000 000	メインデバイスのデータを削除します。	87
	2 コピー1デバイスの記録映像を消去する + D 実行	362 000 000	コピー1デバイスのデータを削除します。	87
	3 コピー2デバイスの記録映像を消去する + D 実行	363 000 000	コピー2デバイスのデータを削除します。	87
	E メニューを閉じる		システムメニューに戻ります。	—
E 閉じる	システムメニューを終了します。			—

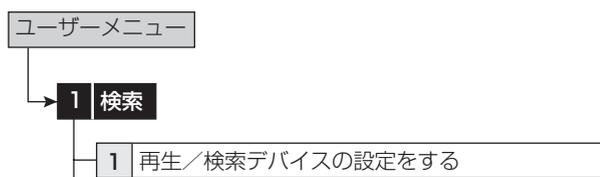
■ 検索機能の選択

本機に搭載している検索機能を使って、見たい映像をすばやく頭出しすることができます。本機では5種類の検索機能が使用できます。本機前面のサーチボタンを押すと、<ユーザーメニュー>が、検索メニューを開いた状態で表示されます。



■ 再生/検索デバイスの設定をする

再生/検索するデバイスを選択することができます。



1 再生/検索デバイスと再生/検索領域を設定する。

「メイン」:メインデバイスのデータを再生/検索します。

「通常」:通常記録エリア

「アラーム」:アラーム記録エリア

「LPA」:ロングブリアラーム記録エリア

「コピー1」:コピー1デバイスのデータを再生/検索します。

「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」、

「USBメモリ」

「コピー2」:コピー2デバイスのデータを再生/検索します。

「内蔵HDD」、「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、

「DVD/CD」

❗ 「アラーム」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

❗ 「LPA」は、「ロングブリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

❗ ディスクを取り出す場合は、メニュー画面の「取出し」ボタンを使って取り出してください。

■ 日付と時刻を指定して検索する

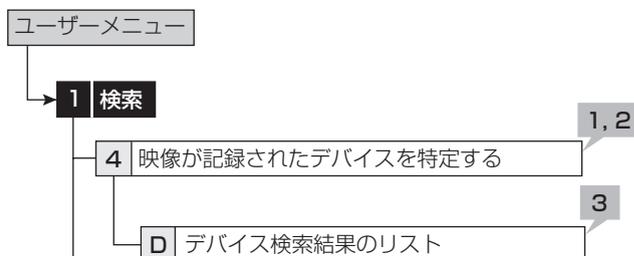
🔍 101ページ

■ アラームリストから検索をする

🔍 101ページ

■ 映像が記録されたデバイスを特定する

指定した期間の映像が記録されているデバイスをリスト表示し、デバイスを特定することができます。



1 検索するデータの記録範囲を、「開始指定」と「終了指定」に入力する。

2 「検索実行」を選択する。

・ 指定された期間のデータの記録が含まれるデバイスのリストが表示されます。

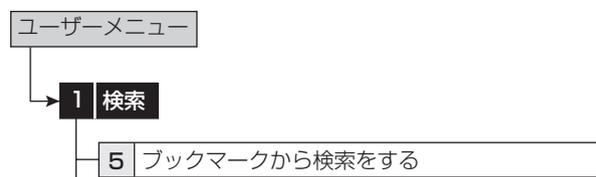
・ 他のデバイスを検索するときは、<再生/検索デバイスの設定をする>で、希望するデバイスを選択してください。

3 <デバイス検索結果のリスト>で、確認したいデバイス検索リスト番号の「確認」を選択する。

・ リストに表示されているデバイスを確認する場合、「確認」を選択すると、そのデバイスにアクセスします。

■ ブックマークから検索をする

あらかじめ登録されたブックマークを検索することができます。



1 <ブックマークから検索をする>で、表示させたいブックマークの番号を、ブックマークリストの中から選択する。

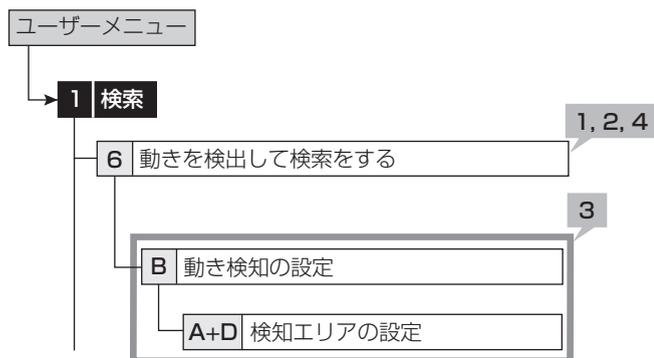
・ 選択されたブックマークの画像が、1画面の静止画像で表示されます。

・ ブックマークの登録のしかたは、🔍 91ページ

■ 動きを検出して検索をする

記録された画像を、再生用の動き検知条件を設定することで、動き検知検索することができます。

この機能では、検索するカメラ番号と開始時間を指定することができます。検索結果は、1画面の静止画像で表示されます。



1 検索するカメラ番号を設定する。

2 検索を開始する時間を設定する。

- ・ 一番古い記録部分から検索するときには、「最古点」を選択します。
- ・ 記録開始時間以前の日時が設定されている場合は、一番古い記録部分からサーチします。

3 再生用の動き検知条件を設定する。

- ・ 検知エリア、検知の感度、動き検出ドット数を設定します。設定方法については、[P.62、63ページ](#)。
- ・ 再生用の動き検知の検知感度は、「低」と「高」の2段階となります。
- ・ 記録用の動き検知設定（動き検知AまたはB）をコピーすることもできます。記録用の設定をコピーするには、「設定をコピーする」で希望する設定を表示させ、「実行」を選択してください。

再生用の動き検知の検知感度は、記録用の動き検知設定をコピーした場合、記録用の検知感度が「高」、「中高」、「中」の場合は「高」に、「中低」、「低」の場合は「低」になります。

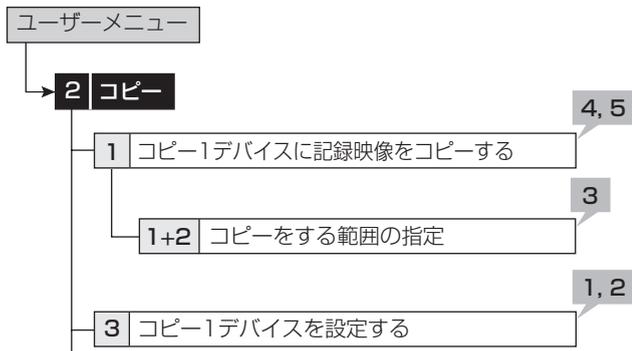
4 「検索実行」を選択する。

メインデバイスからコピーデバイスにデータをコピーすることができます。

■ コピー1デバイスに記録映像をコピーする／コピー1デバイスを設定する

開始点と終了点を指定して、データをコピー1デバイスにコピーすることができます。開始点と終了点は、ブックマークまたは日付と時刻で指定します。短い期間のデータをコピーするときに便利です。

- ❗ コピーを行う前に、コピー1デバイスの接続と、<HDDの追加／削除する>および<DVD/CDデバイスの追加／削除をする>(システムメニュー→デバイス登録)が正しく設定されていることを確認してください。



1 コピーするカメラ番号を設定する。

- ・ 「無し」を押すたびに、ボタン機能は「無し」と「全て」の間で切り換わります。全カメラの「入り」と「切り」を簡単に設定することができます。
- ・ 設定されたカメラ番号または日時に映像がない場合は、コピーされません。また、設定したコピー開始時間に、コピーしたいカメラ番号の画像が記録されていることを確認してください。

2 「詳細設定」を選択し、詳細の設定をする。

「元-> デバイス」:コピーするデータを含むデバイスを「メイン」、「コピー2」から選択します。

「元-> グループ」:コピーするデータを含むグループを選択します。メインの場合「通常」、「アラーム」、「LPA」から、コピー2の場合「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」、「内蔵HDD」から選択します。

「->先コピー1」:データコピー先のグループを「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」、「USBメモリ」から設定します。

「コピーデータ」:コピーするデータを「アラーム」、「すべて」から設定します。

「上書き設定」:現在のデータに上書きするかどうか選択します。

「自動イジェクト」:コピー完了後、メディアを自動的に取り出すか選択します。

- ❗ 「元-> グループ」の「アラーム」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。
- ❗ 「元-> グループ」の「LPA」は、「ロングプリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

- ❗ DVDを上書きコピーする場合、はじめにディスクのデータ消去を行います。データの消去には約30~40分かかります。また、データ消去中に消去を中止することはできませんので、ご注意ください。

- ❗ 「コピーデータ」を「アラーム」に設定してコピーする場合、コピーする範囲にアラーム記録のデータがないと、コピーの動作のみ行い、データは記録しません。CD/DVDへのコピーの場合は、管理情報のみ記録しますので、残量が少なくなります。アラーム記録データの有無が不明の場合は、<コピー1デバイスに記録映像をコピーする>で「テスト」を行うことをおすすめします。

3 コピーの開始点、開始/終了、終了点を、日付と時刻またはブックマークで設定する。

「開始点」:コピーの開始点のみを設定します。開始点から、コピー先メディアの残り容量に記録できるだけデータをコピーします。

「開始/終了」:コピーの開始点と終了点を設定します。

「終了点」:コピーの終了点のみを設定します。設定された時間を終了点として、コピー先メディアの残り容量に記録できるだけデータをコピーします。

- ・ ブックマークを使って開始点または終了点を設定するときは、「ブックマーク」を選択し、希望するブックマーク番号を選択してください。
- ・ 最も古いデータからコピーを開始する場合は、「記録開始点読込」を、最新のデータまでコピーする場合は、「記録終了点読込」を選択します。

4 「テスト」を選択して、コピーするデータの容量を計算する。

- ❗ 「終了点」を選択した場合、「テスト」を使ってコピーするデータの容量の計算が完了しないと、コピーを実行することができません。
- ❗ 「開始点」または「開始/終了」を選択した場合、「テスト」を使ってコピーするデータの容量を計算せずにコピーを実行すると、コピーする容量が特定できないため、コピーの進捗状況やコピー実施時間が正しく表示されないことがあります。

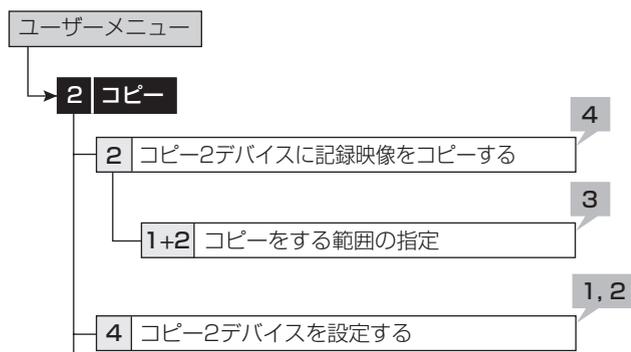
5 「コピー実行」を選択する。

- ・ コピーが始まります。
- ・ コピーを手動で停止させるときは、進捗画面の「コピー中止」を選択してください。停止前までのデータはコピーされています。

■ コピー2デバイスに記録映像をコピーする／コピー2デバイスを設定する

開始点のみを指定して、データをコピー2デバイスにコピーするときに使用します。開始点は、日付と時刻またはブックマークで指定します。コピーは、手動で停止させない限り、データの終了点になるまで、またはコピー先のメディアがいっぱいになるまで行われます(「リポート書込み」を「停止」に設定している場合)。記録したデータのバックアップをとっておく場合に便利です。

- ❗ コピーを行う前に、コピー2デバイスの接続と、<HDDの追加／削除する>および<DVD/CDデバイスの追加／削除をする>(システムメニュー→デバイス登録)が正しく設定されていることを確認してください。



1 コピーするカメラ番号を設定する。

- ・ 「無し」を押すたびに、ボタン機能は「無し」と「全て」の間で切り換わります。全カメラの「入り」と「切り」を簡単に設定することができます。
- ・ 設定されたカメラ番号または日時に映像がない場合は、コピーされません。

2 「詳細設定」を選択し、詳細の設定をする。

「元-> メイン」:コピーするデータを含むエリアを「通常」、「アラーム」、「LPA」から選択します。

「->先 コピー2」:データコピー先のグループを「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」、「内蔵HDD」から設定します。

「コピーデータ」:コピーするデータを「アラーム」、「すべて」から設定します。

「上書き設定」:現在のデータに上書きするかどうか選択します。

「自動イジェクト」:コピー完了後、メディアを自動的に取り出すか選択します。

「レポート書込み」:メディアの最初に戻ってコピーを繰り返すか、またはメディアがいっぱいになるまでコピーを実施し、終了点で停止するかを選択します。この設定は、コピー先がHDDまたはNASのときのみに有効です。

- ❗ 「元-> メイン」の「アラーム」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。
- ❗ 「元-> メイン」の「LPA」は、「ロングプリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。
- ❗ DVDを上書きコピーする場合、はじめにディスクのデータ消去を行います。データの消去には約30~40分かかります。また、データ消去中に消去を中止することはできませんので、ご注意ください。
- ❗ 「コピーデータ」を「アラーム」に設定してコピーする場合、コピーする範囲にアラーム記録のデータがないと、コピーの動作のみ行い、データは記録しません。CD/DVDへのコピーの場合は、管理情報のみ記録しますので、残量が少なくなります。
- ❗ パーソナルコンピュータで使用されたディスクや、コピーに失敗したり停電でコピーが中断されたディスクは、誤動作の原因になりますので使用しないでください。

3 コピーの開始点を設定する。

「開始点」:コピーの開始点を設定します。

「続きから」:前回のコピーの終了点からコピーを開始します。

- ・ ブックマークを使って開始点を設定するときは、「ブックマーク」を選択し、希望するブックマーク番号を選択してください。
- ・ 最も古いデータからコピーを開始する場合は、「記録開始点読込」を選択します。

4 「コピー実行」を選択する。

- ・ コピーが始まります。
- ・ 手でコピーを停止させるときは、<コピー2デバイスに記録映像をコピーする>の画面の「コピー中止」を選択してください。停止前までのデータはコピーされています。

- ❗ コピー先がHDDで、「レポート書込み」が「停止」に設定されているときに、コピーされた範囲がメディアの有効容量を超えると、警告表示があらわれます。この場合、コピーの範囲を狭く設定し直すか、容量の大きいコピーデバイスを設定してください。

- ❗ 記録中にコピーを行うと、記録画像の開始点と終了点が記録されないことがあります。

- ❗ コピー中のメインデバイスの記録データが上書き間近または上書きされると、コピー動作は停止します。DVDへの上書きコピー等、時間のかかるコピーの場合ご注意ください。

- ➡ コピー2では、コピーのプログレスバーは表示されません。

- ➡ 画像データは2MB単位で管理されています。コピー時は、指定範囲から2MB単位でデータがコピーされます。

- ➡ ピクチャーコピー機能を使用して、表示中の1画像のみコピーすることもできます。(P.91ページ)

■ 本機からビデオテープにコピーする

アナログビデオ記録装置を使用して、データをビデオテープにコピーすることができます。データは、本機が記録中でもコピーすることができます。アナログビデオ記録装置の録画操作については、ご使用になるアナログビデオ記録装置の取扱説明書をごらんください。

1 [アナログビデオ記録装置]記録の準備をする。

- ・ 必ず、入力切替を本機を接続している外部入力にしてください。

2 [本機]記録する画面の種類(1画/分割)を選択する。

3 [本機]検索機能を使って、コピーを開始したい場面を頭出しする。

4 [アナログビデオ記録装置]録画を始める。

5 [本機]再生ボタンを押して、再生を始める。

6 コピーをやめる場合は、[本機]の再生停止ボタンを押して、再生を停止させたあと、[アナログビデオ記録装置]の録画を停止する。

- ❗ アナログビデオ記録装置との接続については、P.28ページをごらんください。

- ❗ ビデオテープには、画面に表示されている映像のみがコピーされます。

■ 再生ソフトウェア

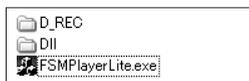
本機でCD/DVD/USBメモリに映像をコピーすると、その映像をパーソナルコンピュータで再生するためのソフトウェアがデータと共に自動的にコピーされます。再生ソフトウェアの使用方法は、以下のとおりです。

◆ 動作環境

- OS: Microsoft Windows 2000または Windows XP
- CPU: Intel Pentiumシリーズの500MHz以上のCPUを搭載したIBM PC/AT互換機
- RAM: 256 MB以上
- HDD: 200 MB以上のシステムドライブ空き容量
- 表示デバイス: XGA(1024pixel X 768pixel)以上

◆ アプリケーションの起動

- 1 コピーに使用したCD/DVD/USBメモリを、パーソナルコンピュータにセットする。
- 2 ディスクのアイコンをダブルクリックして開く。



- 3 アプリケーションを起動する。

- ・ 「FSM Player Lite.exe」をダブルクリックすると、アプリケーションが起動し、操作パネルが表示されます。

画像が読み込めない場合は、ファイルメニューのフォルダコマンドで、再生したい画像フォルダを選択してください。

- FSMPlayerパネルはパネル右側の▼ボタンをクリックすると4段階に展開することができます。第1段階では各種再生、検索動作およびブックマーク操作をします。第2段階では表示カメラウィンドウの選択をします。第3段階では再生速度の調節(遅くする方向のみ)をします。第4段階では音声再生関連の設定をします。



◆ 操作パネル

⏪ 先頭へ

現在のメディアの記録部分の先頭へ移動します。

⏮ 巻戻し

逆方向に高速再生します。逆再生中(×1)に押し、押すたびに速度が×2 → ×4 → ×8 → ×1 → … となります。

⏪ 逆再生

逆方向に再生します。

⏮ コマ戻し

1コマ戻して停止します。

■ 停止

再生を停止します。音声コマンドがオンのときは、停止後に音声を再生します。

⏭ コマ送り

1コマ送って停止します。

▶ 再生

順方向に再生します。

▶▶ 早送り

順方向に高速再生します。再生中(×1)に押し、押すたびに速度が×2 → ×4 → ×8 → ×1 → … となります。

1 ~ 16 カメラ

(早送りボタン右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。)表示カメラを指定します。表示されているカメラは緑色、表示されていないカメラは黒色で表示されます。緑色でも、データが記録されていない場合は、画像は表示されません。

画像更改速度スライダー

(カメラ番号ボタン右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。)マウスでドラッグすることにより、画像データの再生速度を調整することができます。[速い]に設定すると、ご使用中のパーソナルコンピュータの性能によっては動作に支障をきたすことがあります。各パーソナルコンピュータに適切な画像再生速度を見極めてご使用ください。

追記したデータを再生する場合、画像更改速度スライダーがリニアに変化しない場合があります。

音声出力

(画像更改速度スライダー右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。)

【非同期再生】

[音声出力]にチェックマークを入れ、[再生Ch]をドロップダウンメニューから選択し、再生方式を[非同期]にします。再生を行い、音声を聞きたい場所で停止させます。停止したデータ部分の前後の音声再生されます。再生する音声の長さは右側のスライダーで3段階に変更することができます。この時の音声実再生時間は記録画像のフレームレートによって異なりますので、再生データごとに適宜調整してご使用下さい。

【同期再生】

再生方式を[同期]にして再生してください。ブロック単位で通信ダウンロードしたデータや、レコーダーでコピーした音声付きのデータを音声と映像を同時に再生することができます。この時表示できる画像chは1画面だけに限定されます。また通常再生以外の特殊再生モード(早送り、逆再生など)では音声は再生されません。リップシンクのスライダーは、ご使用になるPCおよび再生するデータの記録状態に合わせて調整が必要です。なお、音と映像がうまく一致する調整位置が存在しないこともあります。

- ❗ 同期音声再生を行う時は画像更新がPCの処理能力に応じて間引きされます。画像優先の再生を行いたいときは「非同期」を選択して下さい。

- ❗ この展開パネルでの設定は次回起動時に引き継がれます。

- ❗ 音声の再生chと画像の表示chは関連づけられていません。それぞれ自由な組み合わせで再生できます。

- ❗ CD・DVDなどの読み出しが遅いドライブから直接再生をおこなっている場合は音声が途切れる場合があります。データをHDDなどにコピーしてから再生をおこなって下さい。

◆ ファイルメニュー

一括変換

停止中にクリックすると、「一括変換」画面が表示されます。日時範囲とカメラ番号を指定して、[JPEG]または[AVI]ボタンを押すと、画像データを一括変換して保存します。一括変換には、十分なメモリと一時ファイル用のハードディスク容量(システムパーティションおよび保存ドライブ)を必要とします。ご使用の環境により限界はさまざまですので、数秒程度の小さなファイル変換から始めて、状況を確認しながら行ってください。

◆ 検索メニュー

検索

クリックすると、「時刻検索」画面が表示されます。「時刻検索」の各テキストボックスに、検索したい日付と時刻を入力し、「検索」ボタンをクリックすると、指定した日時以降で最も近い画像を表示します。追記などにより記録内容の時刻情報が前後すると、検索が使用できない場合があります。

◆ 操作メニュー

再生、停止、逆再生、早送り、巻戻し、コマ送り、コマ戻し、先頭へについては、操作パネルの項目を参照してください。

◆ ブックマークメニュー

A、B-

クリックすると、現在の位置を、AB間リピートのA点、B点として登録します。

AB間をリピート

チェックマークをつけると、ブックマークA、Bコマンドで指定したA点、B点間をリピート再生します。

◆ 表示メニュー

表示サイズ

クリックすると、[100%]、[75%]、[50%]、[25%]のサブメニューが表示されます。それぞれ、映像を指定の倍率で表示します。

デコードレベル

クリックすると、[細かい]、[中]、[粗い]のサブメニューが表示されます。デコードレベルを粗くすると、画像が粗くなり、再生の更新速度が上がります。

タイトルバー

クリックすると、[日付]、[アラーム]のサブメニューが表示されます。チェックマークをつけると、選択された項目が画面上に表示されます。

◆ グルーピングメニュー

グルーピングパターン

クリックすると、「グルーピングパターン」画面が表示されます。[4画]、[6画]、[9画]、[10画]、[13画]、[16画]をクリックすると、選択した分割画面が表示されます。各画面に表示させるカメラの位置を設定するには、[設定]をクリックし、設定画面を表示させてください。

◆ 右クリックで表示されるメニュー

➡ 以下の操作をしたい画面上で右クリックしてください。クリックした画像のみに以下の操作が行われます。

再生中

画像サイズ

表示メニューの項目を参照してください。

デコードレベル

表示メニューの項目を参照してください。

停止中

コピー

クリックすると、現在表示中の画像をクリップボードにコピーします。

名前をつけて保存

クリックすると、「名前をつけて保存」画面が表示されます。現在表示中の画像をWindowsビットマップファイル(.bmp)またはJPEGファイル(.jpg)として保存します。

画像サイズ

表示メニューの項目を参照してください。

デコードレベル

表示メニューの項目を参照してください。

印刷

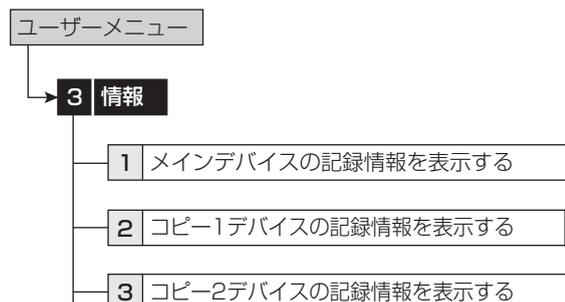
クリックすると、「印刷」画面が表示されます。[余白]や[プリンタの設定...]などを設定後、[印刷]ボタンをクリックすると、表示している画像をプリンタで印刷します。

❗ フレーム記録された画像データを再生すると、輪郭がギザギザに見える場合があります。その場合は、画像サイズを大きくしてご覧ください。

❗ 画像データが多い場合は、再生ソフトウェアの起動に時間がかかることがあります。

■ 情報

メイン、コピー1、コピー2デバイスに記録されている範囲を確認することができます。



【メインデバイス】

1 <メインデバイスの記録情報を表示する>を選択する。

❗ 「アラーム記録領域の情報」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

➡ LPAエリアの記録情報は表示しません。

【コピーデバイス】

2 <コピー1デバイスの記録情報を表示する>または<コピー2デバイスの記録情報を表示する>を選択する。

3 情報を表示したいグループを選択する。

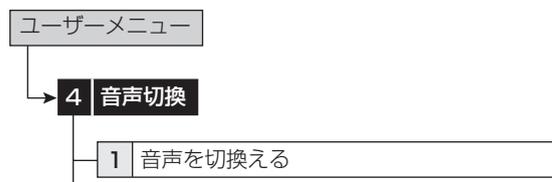
「記録情報の更新をする」:記録情報を更新します。

「メディアの取出し」:メディアを取り出します。

❗ メイン以外のデバイスの記録情報表示は、記録中またはコピー中には最新の情報になりません。記録またはコピーを停止してから確認してください。

■ 音声切換

再生中またはカメラからの映像を表示中に、音声のチャンネルを1から4の間で切り換えることができます。



1 希望する音声チャンネルを設定する。

「CH1」:カメラからの映像を表示中は、AUDIO IN 1端子からの音声を出力します。再生中は、記録されたAUDIO IN 1端子からの音声を出力します。

「CH2」:カメラからの映像を表示中は、AUDIO IN 2端子からの音声を出力します。再生中は、記録されたAUDIO IN 2端子からの音声を出力します。

「CH3」:カメラからの映像を表示中は、AUDIO IN 3端子からの音声を出力します。再生中は、記録されたAUDIO IN 3端子からの音声を出力します。

「CH4」:カメラからの映像を表示中は、AUDIO IN 4端子からの音声を出力します。再生中は、記録されたAUDIO IN 4端子からの音声を出力します。

➡ カメラの画像を切り換えてから最初に出力される音声チャンネルは、<音声切換えの設定をする>(設定メニュー→システム設定→音声切換えの設定をする)で設定します。(P.74ページ)

❗ マルチプレクサの切り換え(例:4分割画面→9分割画面等、1画表示→4分割画面等、カメラ番号1→カメラ番号5等)を行ったときは、<音声切換えの設定をする>で設定された設定に戻ります。また、カメラからの映像から再生画像、再生画像からカメラからの映像へ切り換えたときも、<音声切換えの設定をする>で設定された設定に戻ります。音声の出力を固定したいときは、<音声切換えの設定をする>(設定メニュー→システム設定→音声切換えの設定をする)にて設定してください。

❗ 出力Aモードに同期して音声が出力されます。再生中は記録された音声、カメラからの映像を表示中はライブの音声を出力します。

■ データ保護

重要なデータを誤って消去することを防ぐために、指定した500ヶ所までのエリアをロックすることができます。データ保護できるのは、メインデバイスのデータのみです。パーティションを運用設定している場合は、通常およびアラーム記録部分の保護が可能です。

ユーザーメニュー

5 データ保護

- 1 範囲を指定して記録映像を保護する
- 2 保護された記録映像を再生する
- 3 保護された記録映像を消去する

1 ロックするデータの開始点と終了点を設定する。

- ・ 現在再生できるエリア（通常またはアラーム）のデータがロックできます。
- ・ 開始点と終了点は、ブックマークで指定します。希望するブックマーク番号を選択してください。
- ・ ブックマークの登録のしかたは、[P.91](#)ページ

2 「保護実行」を選択する。

- ❗ データは、512MBのデータブロック単位で保護されます。登録された日時分秒は、設定したブックマークを含む単一または複数のデータブロックの開始点と終了点の時間となり、ブックマークの時間とは合わない場合があります。

また、現在記録中のデータブロックとその次のデータブロックについては、データ保護はできません。

3 ロックされたデータを確認するときは、<保護された記録映像を再生する>を選択する。

- ・ <検索>メニューの<再生/検索デバイスの設定をする>で、リスト表示したいエリアを選択してください。

「検索実行」: 選択された範囲の先頭の画像を表示します。

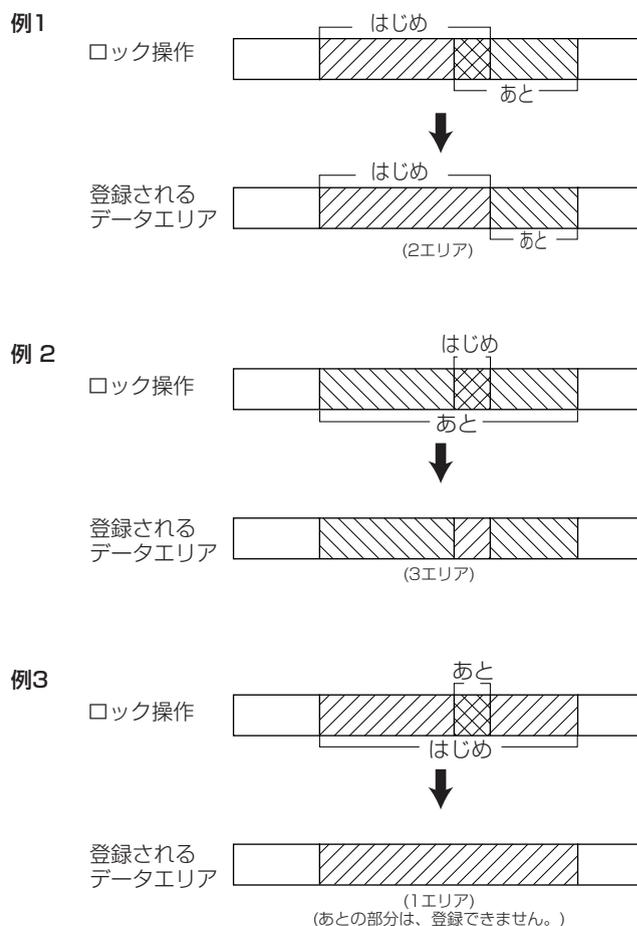
「確認」: ロックされたデータが記録されたデバイスをさがすときに使います。

4 ロックをキャンセルするときは、<保護された記録映像を消去する>の画面で、キャンセルするデータの「消去実行」を選択する。

「検索実行」: 選択された範囲の先頭の画像を表示します。

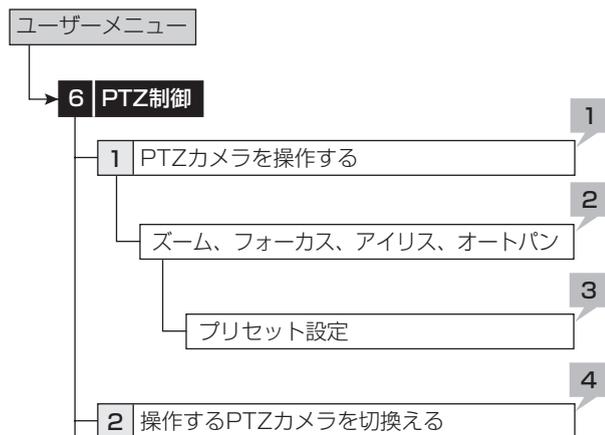
- ➡ ロックする開始点と終了点の時間が逆転して設定されている場合は、データ保護をすることができません。
- ➡ ロングプリアラーム記録部分は、記録後に自動的にロックされます。ロックできるエリアは、通常、アラーム、ロングプリアラームエリアで最大500カ所となります。検索は、アラームリスト検索で行ってください。(P.101ページ)
- ➡ データ保護された記録映像を含むメインデバイスの記録映像を消去すると、保護された記録映像も消去されます。

➡ ロックしたエリアが重なった場合は、以下のようになります。



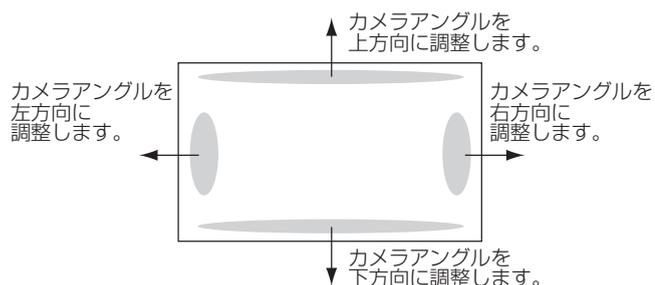
RS-232CやRS-422/485を使って、接続されたカメラを制御することができます。

■ メニューを使ってカメラを制御する



1 PTZカメラをパン、チルトする。

- ・ 灰色部分をマウスでクリックして、カメラの角度を調整します。



2 ズーム、アイリス、フォーカスを調整する。オートパンを実行する。

3 監視ポイントを1から16までの間で設定する。

- ・ オートパンのプリセット位置を、PTZカメラに登録することができます。

4 制御するカメラの番号を切り換える。

- ・ 制御するカメラの番号は本機前面のLCDに表示されます。

2004-01-01 00:00:00
PTZ CAM1

- ➡ <PTZ制御>は、マウスでのみ操作できます。本体ボタンでは操作できません。

■ 本体ボタンを使ってカメラを制御する

1 制御するカメラ番号のボタンを押し、1画面の画像を表示させる。

2 PTZボタンを押す。

- ・ 本機がPTZモードに変わり、ボタンが点灯します。PTZモードの間、「PTZ」が前面のLCDに表示されます。

2004-01-01 00:00:00
PTZ

- ・ 制御するカメラの番号が前面のLCDに表示されます。

2004-01-01 00:00:00
PTZ CAM1

3 カメラの制御を行う。

チルト:チルト▲ボタンを押すと、カメラが上方向に傾きます。チルト▼ボタンを押すと、下方向に傾きます。

パン:シャトルを右に回すと、カメラが右方向にパンします。左に回すと左方向にパンします。

カメラズーム:カメラズームボタンを押してからジョグを左(広角)または右(望遠)に回すと、カメラズームが調整できます。

フォーカス:フォーカスボタンを押してからジョグを左(遠)または右(近)に回すと、フォーカスが調整できます。

アイリス:アイリスボタンを押してからジョグを左(閉じる)または右(開く)に回すと、アイリスが調整できます。

プリセット:プリセットボタンを押し、3秒以内にカメラ番号ボタンを押すと、監視ポイントをプリセットできます。16ポイントまで設定できます。

オートパン:オートパンボタンを押すと、カメラのオートパン機能が動作します。

- ❗ 本体ボタンでのPTZ操作中は、再生関連の機能や電源ボタンは使用できません。また、メニューを表示することもできません。

- ➡ カメラ設定、その他のPTZ機能の詳細設定については、80ページの「PTZ設定」をごらんください。

■ 通常記録、アラーム記録に関する設定

本機は、通常記録とアラーム記録の設定項目を独立して個別に設定することができます。これにより、通常記録設定を保持したままアラーム信号を入力したカメラのみ記録コマ数を変更するなど、より細かい設定が可能です。

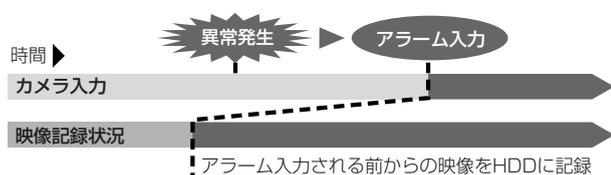
- ❗ 本機は、時計が動いていなければ正常に記録や再生ができません。運用前に、必ず時計が動いていることを確認してください。
- ❗ 通常記録、アラーム記録中は設定変更できません。記録を停止してから設定してください。センサー入力を一時停止(最長5分)するには、<記録設定>メニューの「アラーム入力」の設定を「禁止」にしてください。
- ❗ <記録パターンA(通常記録)の設定をする>～<記録パターンDの設定をする>で、カメラが接続されていないカメラ番号を記録運用カメラに設定した場合、記録時に警告表示ができません。(P.114、115ページ「警告とCALL OUT信号の出力」)

通常記録とアラーム記録を実行するには、以下の設定を行ってください。

- ・ 通常記録とアラーム記録の記録コマ数と画質(<通常記録設定>と<アラーム記録設定>)
- ・ アラーム記録中のカメラ選択(<アラーム記録設定>の「アラーム記録モード」)
- ・ プリアラーム記録の有無(<アラーム記録設定>の「プリアラーム記録時間」)
- ・ アラーム記録するカメラとアラーム記録させるためのアラーム入力(<アラーム記録カメラ設定>と<アラーム入出力設定>)

◆ プリアラーム記録

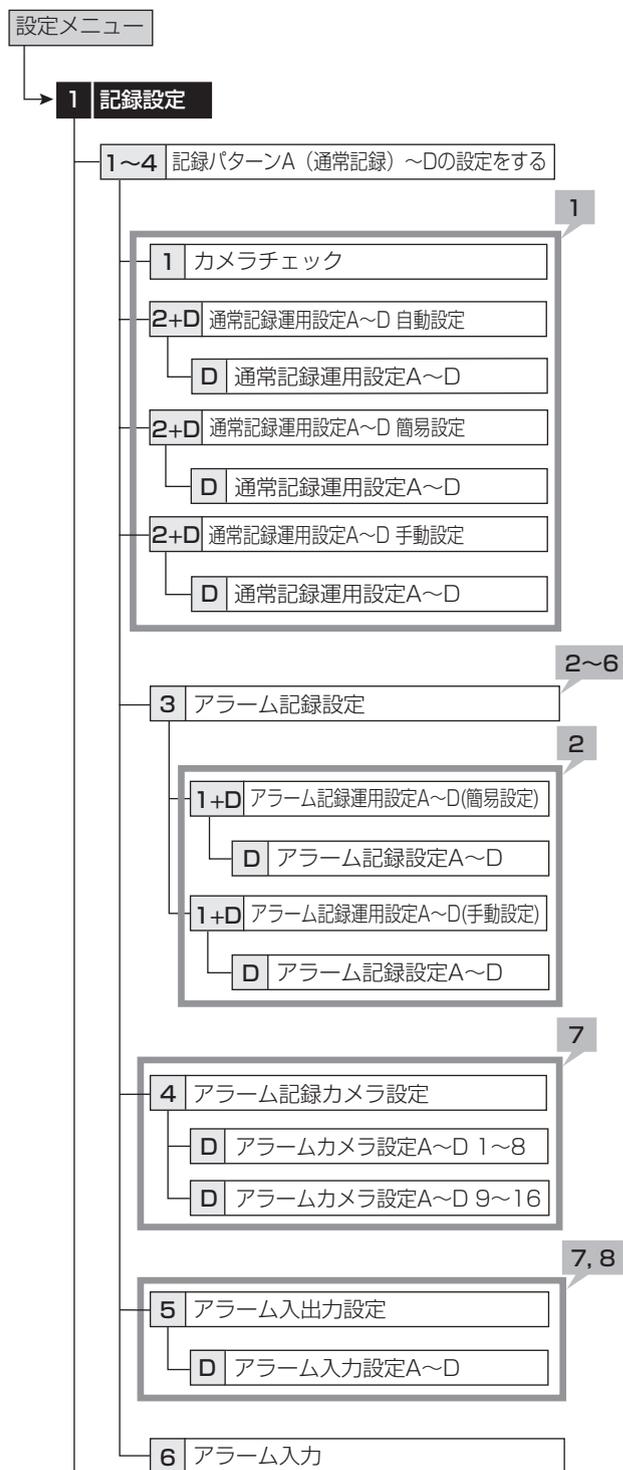
プリアラーム記録とは、アラーム記録時に本機後面部のALARM IN端子が接地する、動き検出される、またはアラーム信号がLANまたはRS-232C通信経由で入力される(数秒)前からの映像を記録させることです。



- 1) プリアラームインジケータは、プリアラーム記録中、待機中に点灯します。
 - 2) ALARM IN端子が接地されたり、動きを検出する前からの映像が記録されます。
 - 3) <アラーム記録設定>でプリアラーム記録の設定を行っているときのみ実行します。アラーム信号の入力後、アラーム記録に設定しているカメラのみが記録に使われます。
- ❗ 通常記録中にプリアラーム記録が始まった場合、アラーム設定とは異なる時間でプリアラーム記録される場合があります。

■ 記録パターンA(通常記録)～Dの設定をする

通常記録とアラーム記録の設定を行います。



【通常記録の設定】

1 99ページの手順1と2に従って、通常記録の記録カメラ、フレーム/フィールド記録、記録コマ数、記録画質を設定する。

- カメラチェックを実施した場合、自動または簡易設定を使って記録設定するときは、画像のあるカメラのみ設定します。

<記録見積もり時間>について

- 通常記録の記録コマ数、記録画質の設定によって連続で記録可能な時間が、通常記録のプレビュー画面の下部に<記録見積もり時間>として表示されます。
- パーティションでの運用を設定している場合は、<記録見積もり時間>は、通常記録が可能な見積り時間の表示となります。

【アラーム記録の設定】

2 アラーム記録のフレーム/フィールド記録、カメラ1台あたりの最高記録コマ数、記録画質を設定する。

「簡易設定」:すべてのカメラ番号に対して同じアラーム記録のフレーム/フィールド記録、最高記録コマ数、画質を設定します。すべてのカメラ番号でアラーム記録コマ数が「---」に設定されていると、アラーム記録は行われません。希望の設定を選択して、「実行」を選択してください。

- 簡易設定が実行されると、プレビュー画面が自動的に表示されます。

「手動設定」:それぞれのカメラ番号に対して個別にアラーム記録のフレーム/フィールド記録、最高記録コマ数、画質を設定します。記録コマ数が「---」に設定されているとき、そのカメラ番号では記録は行われません。

- 設定を確認するときは、「確認」を選択して、プレビュー画面を表示させてください。

- 通常およびアラーム記録に設定する記録コマ数は、最大コマ数です。記録するカメラ数によって少なくなる場合があります。
- フィールド記録とフレーム記録の混在は可能ですが、全記録コマ数の総数が240コマ付近になると、設定通り記録できない場合があります。記録コマ数の設定の優先順位は、フレーム記録>フィールド記録>記録コマ数大>記録コマ数小>カメラ番号小>カメラ番号大となります。
- 設定後は、プレビュー画面で必ず確認してください。
- 記録時に最大記録コマ数で記録していると、記録していないカメラの画像は通信経由で見ることができません。
- フレーム記録が設定されている場合、プレビュー画面上の記録コマ数の表示が緑色に変わります。
- 記録コマ数の合計が240 pps以上になると、プレビュー画面上の記録コマ数の表示が赤色に変わります。

3 動き検知記録を選択する。

「アラーム記録」:動きを検知したときアラーム記録を開始します。

「通常記録」:動きを検知したとき通常記録を開始します。記録は、通常記録に設定された画質と記録コマ数で行われます。記録はアラームリストに登録されません。

アラームカメラ設定は反映されず、アラームが入力されたカメラのみの記録となります。

手順8のアラーム入力を「動き検知A」、「動き検知B」、「端子or動き検知A」、「端子or動き検知B」に設定してください。

<記録パターンA(通常記録)>の場合は、動き検知記録をしていなければ、記録/記録停止ボタンを押すと通常記録をすることができます。

タイマー運用では、通常記録は動作せず、動き検知待機状態となり、記録は動きを検知したカメラのみ行われます。

パーティションを運用設定している場合は、通常記録エリアへ記録されます。

4 アラーム記録モードを設定する。

「アラームCH」:アラーム信号が入力すると、アラーム記録に運用設定したカメラのみでアラーム記録を行います。複数のセンサーにアラーム信号が入力された場合、アラーム信号が入ったすべてのカメラでアラーム記録を行います。

「アラームプラス」:通常記録中にアラーム信号が入力すると、アラーム記録に設定されたカメラのみ、アラーム記録コマ数に設定されている記録コマ数で記録され、他のカメラは、通常コマ数で記録します。記録コマ数は、通常記録と合わせて240コマまでとなります。

- アラーム記録モードをアラームプラスに設定した後、アラーム記録コマ数の設定を変更し、設定できるコマ数の上限を超えた場合には、設定がアラームCHに自動的に切り替わりますのでご注意ください。

5 「プリアラーム記録時間」で、プリアラーム記録時間を設定する。

「0秒」:プリアラーム記録を行いません。

- アラーム記録設定によって、実際のプリアラーム記録時間が設定された時間より短くなるときは、赤く表示されます。

- プリアラーム記録時間の設定がプリアラーム記録可能な最長時間を超えた場合、プリアラーム記録時間の表示が赤色に変わります。最長記録時間以内で設定しなおしてください。記録コマ数や画質を調整することで、プリアラーム記録時間を調整することもできます。最長記録時間以上に設定しても、実際にプリアラーム記録される記録時間は、最長時間となります。

- アラームエリアを設定した場合、アラームエリアにアラーム記録、プリアラーム記録されます。記録済みデータを再生する場合は、<再生/検索デバイスの設定をする>を「アラーム」に設定してください。

- プリアラーム記録時のアラーム記録モードが「アラームCH」の場合に、通常記録中にプリアラーム記録した場合は、アラーム記録に設定したすべてのカメラ番号で記録できない場合があります。

- プリアラーム記録で、アラーム記録設定で設定した全てのカメラの画像を記録する場合、通常記録を使用せずアラーム待機によるアラーム記録モードで使用するか、通常記録を併用する場合は、「アラーム記録モード」を「アラームプラス」に設定してください。

- プリアラーム記録は、その時間帯に記録中の通常記録またはアラーム記録の記録コマ数と、アラーム記録で設定した画質で行われます。

- プリアラーム記録時間は、アラーム記録設定にもとづいて設定されます。通常記録中のプリアラーム記録の場合、通常記録の設定によっては、記録されたプリアラーム記録部分の時間が短くなることがあります。

6 「アラーム記録時間」で、アラーム記録時間を設定する。

「接点」: ALARM IN端子の接地が解除されるまでアラーム記録を続けます。

7 接続したそれぞれのセンサーに、記録カメラを設定する。

・ 全センサーの設定を確認するには、「センサー設定内容確認」を選択してください。

➡ 1つのセンサー入力に対し、複数のカメラ番号を選択できます。

8 接続したそれぞれのセンサーに、アラーム記録させるためのアラーム入力を設定する。

「端子&動き検知 A」: ALARM IN端子が接地中に動き検知Aを検出した場合にアラーム記録を開始します。

「端子&動き検知 B」: ALARM IN端子が接地中に動き検知Bを検出した場合にアラーム記録を開始します。

「端子」: ALARM IN端子が接地された場合のみアラーム記録を開始します。

「端子or動き検知A」: ALARM IN端子が接地された場合、または動き検知Aを検出した場合にアラーム記録を開始します。

「端子or動き検知B」: ALARM IN端子が接地された場合、または動き検知Bを検出した場合にアラーム記録を開始します。

「動き検知 A」: 動き検知Aを検出した場合のみアラーム記録を開始します。

「動き検知 B」: 動き検知Bを検出した場合のみアラーム記録を開始します。

❗ アラーム入力が「動き検知 A」、「動き検知 B」、「端子or動き検知A」、「端子or動き検知B」、「端子&動き検知 A」または「端子&動き検知 B」に設定されているとき、動き検知は<記録パターンA(通常記録)~Dの設定をする>の画面を終了するとすぐに機能します。

アラーム信号の入力を中止するには、<記録設定>メニューの「アラーム入力」の設定を「禁止」にしてください。

9 PTZカメラプリセットを設定する。

・ 各センサーに手順8で設定した端子からアラーム入力があったときに、センサー番号に対応したカメラの角度が、設定されたポイントに調整されます。(アラーム入力が「端子」に設定されている場合のみ)

「---」: カメラの角度を調整しません。

・ 手順8と9で設定した全センサーの項目を確認するには、「確認」を選択して、プレビュー画面を表示させてください。

❗

アラーム記録について

- ・ タイマー記録中にアラーム記録やエマージェンシー記録が入力された場合、アラーム記録やエマージェンシー記録が終了するまで、タイマー記録の終了時間を延長します。
- ・ アラーム入力を「端子or動き検知A」または「端子or動き検知B」に設定した場合、最後に入ったアラームが優先されます。
- ・ アラーム入力を「端子or動き検知A」または「端子or動き検知B」に、アラーム記録時間を「接点」に設定した場合、ALARM IN端子が接地されていても、動き検知が後から入力された場合、アラーム記録は入力後2秒で停止します。(この動き検知による記録でアラーム記録時間を「接点」に設定している場合、記録時間は2秒です。)
- ・ アラーム記録中、エマージェンシー記録中に停電が発生した場合、停電復帰後アラーム記録、エマージェンシー記録は解除されます。
- ・ 複数のセンサーに同時にアラームが入力された場合、全てのアラームがアラームリストに登録されない場合があります。

フレーム記録とフィールド記録について

- ・ NTSC方式の画像は、ODDとEVENの2つの画面で1枚の画像を構成しています。本機は、フィールド記録の場合、ODDの画面のみを記録し、フレーム記録の場合は、ODDとEVEN両方の画面を記録します。
- ・ フレーム記録は、より高画質なデータ保存が必要な場合に適しています。しかし、画像のデータ容量は、フィールド記録の同画質の倍となります。(1フレーム = 2フィールド)また、2画面で1枚の画像を構成するため、画像が揺れるように見えることがあります。

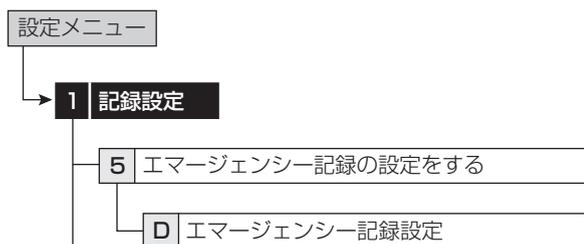
◆ アラーム入力

アラーム入力を、手動で止めることができます。「アラーム入力」を「禁止」に設定すると、アラーム入力を5分間禁止します。アラーム記録が連続して発生しているときに、<記録設定>メニューを設定する場合は、この機能を使用してアラーム入力を禁止し、記録を停止してください。この機能は、後面のALARM IN端子、動き検知、エマージェンシー、通信ポート入力に対して有効です。「アラーム入力」は、5分経過すると、自動的に解除します。手動で解除するときは、「許可」に設定して、<記録設定>メニューを抜けてください。

■ エマージェンシー記録の設定をする

エマージェンシー記録の設定を行います。本機後面部のMAINスイッチがON、前面部の電源が入であれば、アラームセンサーによってEMERGENCY端子が接地されると、停止中、タイマー記録中のときでも、全てに優先して自動的にエマージェンシー記録を開始します。

- ❗ MAINスイッチがOFFのとき、電源が切のとき、およびタイマー記録待機中には、エマージェンシー記録をすることはできません。
- ❗ 通常記録、アラーム記録中は、<記録設定>メニューの設定変更ができません。通常記録中は、記録を停止してください。アラーム記録中は、<記録設定>メニューの「アラーム入力」を「禁止」に設定すると、アラーム入力の受け付けが5分間禁止され、この間に記録を停止させると、<記録設定>メニューの設定変更ができるようになります。



【記録】

- 1 フレーム/フィールド記録を選択する。
- 2 「プリアラーム記録時間」で、ロングプリアラーム記録時間を設定する。
[0分]:ロングプリアラーム記録を行いません。
- 3 「アラーム記録時間」で、エマージェンシー記録時間を設定する。
- 4 最大記録コマ数を設定する。

【カメラ設定】

- 5 記録カメラを設定する。
 - ・ 「無し」を押すたびに、ボタン機能は「全て」と「無し」の間で切り換わります。
- 6 「実行」を選択する。
 - ・ 一覧画面が表示されます。

◆ エマージェンシー記録

- 1) 画質は「スーパー」で、記録コマ数は設定したカメラの数で最大記録コマ数を割った値で記録します。
- ❗ メインデバイスにLPAエリアを設定した場合は、エマージェンシー記録で記録したデータは、LPAエリアに記録され、自動的にデータの上書きを防止するため、エマージェンシー記録データを含む512MBのデータ単位でロックされます。LPAエリアでは、エマージェンシーの入力がなくても、常時データをアラーム記録に設定された記録コマ数で記録しているため、データブロックの途中からエマージェンシー記録が開始された場合は、エマージェンシー端子が接地される以前のデータもエマージェンシー記録データと同時にロックしたエリアに保存されます。
- ❗ LPAエリアを設定せずにロングプリアラーム記録時間を設定した場合、アラーム記録のプリアラーム記録時間設定を使用するため、長時間のプリアラーム記録はできません。

- ❗ LPAエリアにエマージェンシー記録をした場合、データは時間の新旧に関係なく保存されます。アラームリストも順不同となりますので、検索の際にはご注意ください。
 - ➡ エマージェンシー記録中に停電が発生した場合、停電復帰後、エマージェンシー記録は解除されます。
 - ➡ タイマー記録中にエマージェンシー記録が入力された場合、エマージェンシー記録終了までタイマー記録を延長し、エマージェンシー記録終了後タイマー記録終了となります。
- 2) 使用するカメラ
 <エマージェンシー記録の設定をする>で設定されているカメラを使用します。
 - 3) エマージェンシー記録中
 - ・ 「E-REC」が画面に赤色表示されます。
 - ・ エマージェンシー記録に使われているカメラ番号のボタンとカメラ番号表示が点滅します。
 - 4) エマージェンシー記録はアラームリストに登録され、赤紫色表示されます。

◆ ロングプリアラーム記録

ロングプリアラーム記録は、エマージェンシー記録を開始する最高60分前までのプリアラーム記録を行う機能です。

- ❗ LPAエリアを設定するには、「ロングプリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)で希望の容量を設定してください。
- ❗ 通常記録中にロングプリアラーム記録を開始すると、ロングプリアラーム記録に設定された全てのカメラ番号で記録できないことがあります。
- ❗ ロングプリアラーム記録で、エマージェンシー記録設定で設定した全てのカメラの画像を記録する場合
 - 1) 通常記録を併用する場合
 記録したい全てのカメラの画像を通常記録に設定してください。ロングプリアラーム記録部分の画質は、設定によらず「スーパー」、記録コマ数は、通常記録で設定したコマ数となります。
 - 2) 通常記録とアラーム記録を併用する場合
 「アラーム記録モード」を、「アラームプラス」に設定してください。
 記録したい全てのカメラの画像を通常記録に設定してください。ロングプリアラーム記録部分の画質は、設定によらず「スーパー」、記録コマ数は、通常記録で設定したコマ数となります。
 アラーム記録中の場合は、画質は「スーパー」、記録コマ数は、アラーム記録をしていたカメラのみアラーム記録コマ数となります。
 - 3) アラーム記録を併用する場合
 「アラーム記録モード」を、「アラームプラス」に設定してください。
 ロングプリアラーム記録部分は、画質は「スーパー」、記録コマ数は、アラーム記録に設定されたコマ数となります。
- ❗ ロングプリアラーム記録は、その時間帯に設定されている通常記録またはアラーム記録の記録コマ数と、「スーパー」の画質で行われます。
- ❗ LPAエリアが設定されると、レコーダーは常時LPAエリアに記録を行います。外付け機器をご使用の際には、記録コマ数にご注意ください。

■ 音声記録の設定をする

音声記録の設定を行います。本機は、カメラ番号1から4の映像と共に音声を記録することができます。音声記録をすると、連続記録可能時間は音声記録をしないときに比べ、短くなります。



1 入力(1~4)ごとに音声記録の設定をする。

「記録有」:映像と共に音声を記録します。

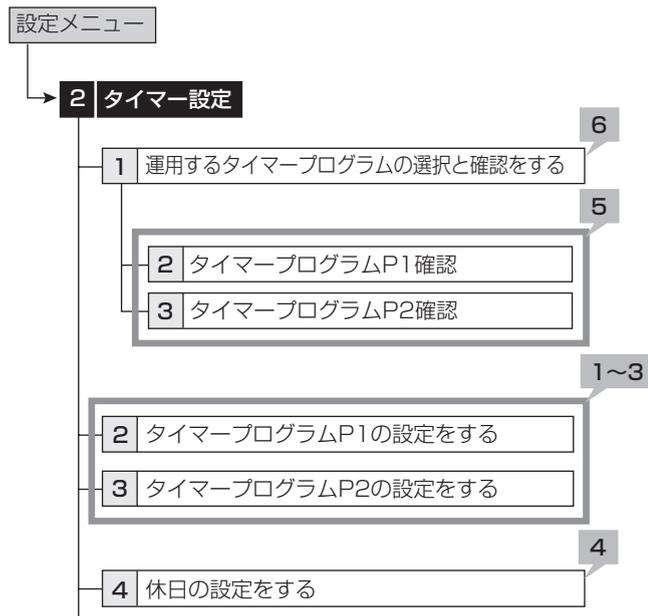
2 音声記録モードを設定する。

「通常記録」:記録(通常記録・アラーム記録・エマージェンシー記録)中に、映像と共に音声を記録します。

「アラーム記録」:アラーム記録中またはエマージェンシー記録中に、映像と共に音声を記録します。

- ❗ 「音声記録設定」を「記録有」に設定していても、カメラの映像を記録する設定にしないと、音声は記録されません。記録される音声は、カメラ番号1がAUDIO IN 1端子、カメラ番号2がAUDIO IN 2端子、カメラ番号3がAUDIO IN 3端子、カメラ番号4がAUDIO IN 4端子にそれぞれ連動しています。
- ❗ 通常記録からアラーム記録、アラーム記録から通常記録等、記録運用が変わるときに、一瞬記録音声途切れますが、異常ではありません。
- ❗ アラームエリアを設定した場合、「音声記録モード」で「アラーム記録」を選択すると、音声は映像と共にアラームエリアに記録されます。(P.85ページ)

タイマー記録の設定を行います。よく使用する運用パターンを、あらかじめ2種類まで設定しておくことができます。さらに、通常記録／アラーム記録時の運用カメラ、記録コマ数、画質を<記録パターンA(通常記録)>の設定をする>から<記録パターンDの設定をする>(設定メニュー→記録設定)に個別に設定しておくことにより、「運用設定」を切り換えるだけで設定でき、非常に便利です。



❗ 記録する前に、あらかじめ日付と現在時刻を正確に合わせてください。(P.64ページ)

【プログラムを設定する】

1 設定するプログラム番号を選択する。

- ・ 1つの番号で、最高8つのプログラムが設定できます。
- 「消去」: 選択されたプログラムの設定を消去します。

❗ 予約時刻が重なってしまった場合は、プログラム番号の大きい方のプログラムが優先して記録されます。(P.次ページ)

2 各プログラムの詳細を設定する。

2-1 「曜日」

- 「日」から「土」までを指定します。
- 「毎日」: 毎日同じ時刻に記録します。
- 「指定」: 指定曜日で設定した期間に記録します。
- 「休日」: 休日設定画面で指定した休日を設定します。プログラム番号に関係なく最優先で実行されます。

2-2 「開始終了時刻」

記録の開始時刻と終了時刻を設定します。(時刻は24時間表示です。)

2-3 「運用設定」

- 「運用設定A」～「運用設定D」: <記録パターンA(通常記録)の設定をする>～<記録パターンDの設定をする>(設定メニュー→記録設定)で設定した、カメラ運用の種類と記録コマ数で記録します。
- 「コピー2」: コピー2デバイスに、データのバックアップをつくります。
- 「スキップ」: 一時的にタイマー記録を休止します。(そのプログラムの指定時間帯の記録は行われません。)

❗ タイマー記録にてバックアップを行う場合、バックアップ時間が10分以上になるよう開始時刻と終了時刻を設定してください。

2-4 「動き検知」

- 「入」: タイマー記録中に動き検知を行います。
- 「切」: タイマー記録中に動き検知を行いません。

❗ 「運用設定A」で動き検知を「入」に設定した場合、<記録パターンA(通常記録)の設定をする>で設定したアラーム入力の動き検知パターンを使用します。アラーム入力「端子」に設定されているときは、動き検知が「入」に設定されている場合でも、タイマー記録で動き検知記録をすることはできません。

❗ 記録設定でアラーム記録させるためのアラーム入力「端子&動き検知 A」または「端子&動き検知 B」に設定されている場合、タイマー設定で「動き検知」を「切」に設定すると、ALARM IN端子が接地しても記録は開始されません。

3 指定曜日を設定する。

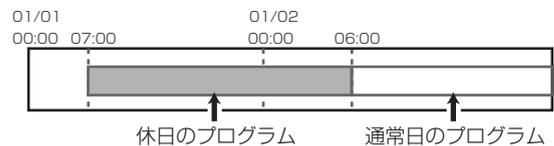
- ・ 開始曜日と終了曜日を設定します。手順2-1の「曜日」で「指定」を選択した場合は、ここで設定された開始曜日から終了曜日までの期間が有効となります。

4 休日を設定する。

- ・ 1年のうちで休日運用したい月／日を設定することができます。
- ❗ 終了時間が00:00を超える日越え設定をした場合、終了時間まで予約内容を実行したあと、通常日の運用に戻ります。

01/01が休日設定のとき:

01/01 07:00～01/02 06:00 休日のプログラム
01/02 06:00～ 通常日のプログラム



❗ 通常運用を00:00終了以外の日越え設定にしている場合(例:20:00～07:00)に、休日設定も同じく日越え設定にしていると、休日設定終了時刻が通常運用で運用すべき時間帯に入っても、通常運用の動作を行わず、そのプログラムが設定時間外となった後、次のプログラムから通常運用を開始します。

24時間予約する場合は、00:00～00:00で予約することをおすすめします。

5 設定したタイマー記録を確認するときは、タイマープログラム確認画面を表示させる。

【タイマー記録を実行する】

6 タイマープログラム選択で、使用するプログラムをP1、P2から選択する。

7 メニュー画面を消す。

8 本機前面のタイマーボタンを押す。

- ・ タイマーインジケータが点灯します。
- ・ 電源が切れて、タイマー記録待機状態になります。現在時刻がタイマー予約設定時刻内のときは、タイマー記録が開始されます。
- ・ もう一度タイマーボタンを2秒以上押しと、タイマー記録とタイマー記録待機状態は、解除されます。

- ❗ アラーム記録中は、タイマーボタンははたらきません。
- ❗ 休日設定で休日を設定し、曜日設定で「休日」を選択した場合、「休日」を選択したプログラムが優先されます。
- ❗ タイマー運用中にアラーム記録が始まり、タイマー終了時間になった場合、アラーム記録を継続し、アラーム記録終了時にタイマーも終了します。
- ❗ タイマー運用中にアラーム記録またはエマージェンシー記録が始まり、次のタイマープログラムに移行した場合、エマージェンシー記録は、設定した記録時間が終了するまで継続し、その後タイマー運用に移行します。アラーム記録は、アラーム記録を終了し、次のタイマープログラムに即移行します。

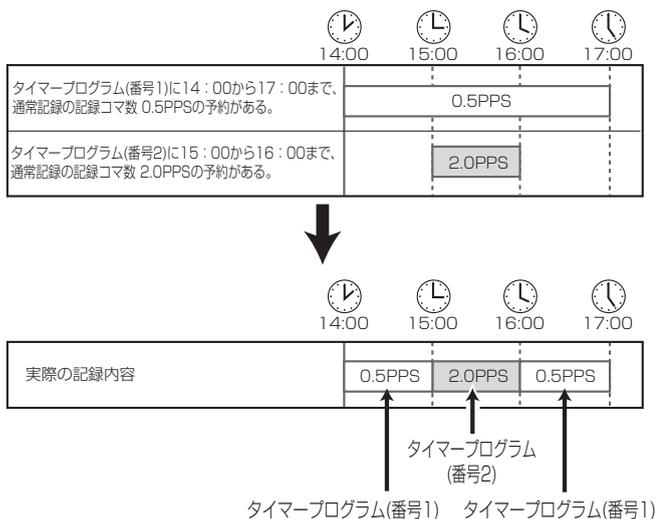
◆ 予約時刻が重なってしまった場合

予約時刻が重なってしまった場合は、プログラム番号の大きい方のプログラムが優先して記録されます。

例1)

- ・ タイマープログラム(番号1)に14:00から17:00まで通常記録の記録コマ数 0.5PPS。
- ・ タイマープログラム(番号2)に15:00から16:00まで通常記録の記録コマ数 2.0PPS。

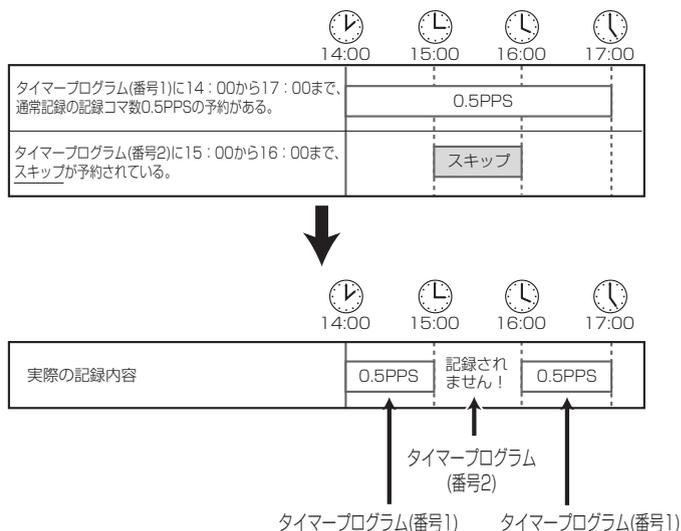
の2つの設定がされています。これらの設定では15:00から16:00の1時間に2つの記録予約が重なっているために、その時間内はタイマープログラム(番号2)の予約が優先され、実際の記録は下図例1)のようになります。



例2)

- ・ タイマープログラム(番号1)に14:00から17:00まで通常記録の記録コマ数 0.5PPS。
- ・ タイマープログラム(番号2)に15:00から16:00までスキップ。

この設定では15:00から16:00の1時間に2つのタイマー設定が重なっているために、その時間内はタイマープログラム(番号2)の予約が優先され、実際の記録は下図例2)のように15:00から16:00までスキップされます。



設定ミスがあると、記録が正しく行われません。タイマー記録のミスを防ぐために、本機は、下図のような方法でミスをお知らせします。適切な処置を行ってください。

本機の状態	エラーの内容	処置	ページ
タイマーインジケータが点滅する。(ピピピピッとブザーが鳴ります。)	1) 日付・時刻が未設定である。 2) タイマー予約した設定が予約運用設定されていない。	1) 日付・時刻を設定する。 2) 正しい予約運用を設定する。	64 60,61
タイマーボタンがはたらかない	1) メニューが表示されている。 2) プログラムの設定中である。	・ メニューを閉じる。	—
タイマー記録に設定した時間なのにタイマー記録の状態にならない。	1) 「通常記録エリアのリピート記録」、「アラーム記録エリアのリピート記録」、「ロングブリアラームエリアのリピート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)を「切」に設定している場合に、HDDの記録容量がなくなった。	・ 警告表示を消す。 ・ 「通常記録エリアのリピート記録」、「アラーム記録エリアのリピート記録」、「ロングブリアラームエリアのリピート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)を「入」に設定する。	85

■ 動き検知記録のパターンA設定をする／動き検知記録のパターンB設定をする

接続したカメラから取り込んだ映像に対し、映像内での動きの変化を検知してアラーム記録を開始する、動き検知機能の条件を設定することができます。本機では、2種類の動き検知機能を設定することができます。(動き検知A／動き検知B)



1 動き検知設定をするカメラの番号を設定する。

- ・ 動き検知設定は、カメラごとに個別に設定が行えます。

❗ 動き検知機能は、動き検知設定画面が表示されている間ははたらきません。

2 検知エリアを設定する。

- ・ 動き検知設定を有効にするエリアを設定します。
- ・ 418の検知エリアから任意に選択し、設定できます。
- ・ 有効なエリアは赤、無効なエリアは青、複数のエリアを一度に設定しているときに設定中のエリアは無色で表示されます。

「初期設定」: 検知エリアを初期設定にします。(画面の中央部が有効エリア)

「全て有効」: 全てのエリアを有効にします。

「全て無効」: 全てのエリアを無効にします。

「手動設定」: 手動で検知エリアを設定します。(最後に設定した状態となります。)

❗ すでに設定済みのカメラ番号の検知エリアを修正する場合は、「手動設定」を選択してください。その他の設定方法を選択すると、それぞれの初期状態にリセットされます。

【マウスで設定するとき】

- ・ 1つずつ設定するには、設定したいエリアを左クリックします。クリックするたびに、エリアが有効と無効で切り換わりません。
- ・ 複数のエリアを一度に設定するには、有効エリアの開始点で右クリック(中止するときは、開始点で左クリック)し、終了点でもう一度右クリックします。指定したエリアが、黄枠でかこまれ、無色で表示されます。選択されたエリア内でマウスを左クリックするたびに、エリアが有効と無効で切り換わりません。有効・無効確定後、黄枠の外で右クリックすると設定完了となります。

【本機前面のボタンで設定するとき】

- ・ 1つずつ設定するには、動き検知エリア設定(カメラ番号13)ボタンを押して、有効にしたいエリアを▲、▼、◀、▶ボタンで選択し、動き検知ドットON/OFF(カメラ番号9)ボタンを押します。ボタンを押すたびに、エリアが有効と無効で切り換わりません。
- ・ 複数のエリアを一度に設定するには、動き検知エリア設定ボタンを押して、有効エリアの開始点を▲、▼、◀、▶ボタンで選択し、再度動き検知エリア設定ボタンを押します。終了点を選択するには▲、▼、◀、▶ボタンで移動して、終了点で動き検知エリア設定ボタンを押します。その後指定したエリアが黄枠でかこまれ、動き検知ドットON/OFFボタンを押すたびに、エリアが有効と無効で切り換わりません。有効・無効確定後、再度動き検知エリア設定ボタンを押すと、設定完了となります。

➡ 1台のカメラに複数のエリアを設定することができます。

➡ 背景画面は選択されたカメラ番号の映像に切り換わりません。

3 取り込んだ映像の変化を検知する感度を設定する。

- ・ 輝度の変化の差を5段階に分けて検知感度として設定できます。

➡ 検知感度を「高」に設定すると、動き検知の感度が高くなりすぎて、蛍光灯のちらつきなども検知してしまう場合がありますので、ご注意ください。

4 記録開始ドット数を設定する。

- ・ 検知エリアの有効ドット数に対し、動き検知の動作を開始するための最低ドット数を設定します。
- ・ 設定された最低ドット数以上で変化を検出した場合、動き検知機能が動作します。

❗ 「記録開始ドット数」は検出エリア中の有効エリアを上限として設定してください。それ以上の数値を設定すると、動き検知機能は動作しません。

5 検知間隔を設定する。

- ・ 検知間隔を設定します。この機能を設定することにより、動き検知を速く動くものと遅く動くもの両方に機能させることが可能となります。遅く動くものに対しては間隔を長く、速く動くものに対しては短く設定してください。

6 設定した動き検知の動作を確認する。

- ・ 動きを検出したドットの色が変化します。

7 他の動き検知設定をコピーするには、「設定のコピー」を選択する。

- ・ 「Bをコピー」を選択すると、動き検知Bの同一のカメラ番号の設定内容をコピーします。
- ・ 「Aをコピー」を選択すると、動き検知Aの同一のカメラ番号の設定内容をコピーします。

- ❗ 連続して変化が検出されている場合、アラーム記録も連続するため、設定変更などの機能を受け付けられません。このとき、<記録設定>メニューの「アラーム入力」を「禁止」に設定することにより、5分間動き検知機能を強制的に停止させることができます。この間に記録を停止すると、設定変更などをすることができます。この停止は、5分後自動的に復帰しシステムログリストに履歴が残されます。手動で「アラーム入力」の禁止を解除する場合は、「アラーム入力」を「許可」に設定してください。
- ❗ 各センサー入りに後面部のALARM IN端子と動き検知を共用している場合は、同時に入力があると、後面部のALARM IN端子が優先されます。
- ❗ 動き検知インジケータは、動き検知機能が動作中に点灯します。
- ❗ 本機の動き検知は、特に感度が高く設定されているとき、入力映像信号の状態によって正しく動作しないことがあります。本機の動き検知を使って発報するシステムなどに接続しているときは、誤動作にご注意ください。
- ❗ 動き検知でアラーム記録を行いたい場合は、「アラーム入出力設定」の「アラーム入力」を「動き検知 A」、「動き検知 B」、「端子or動き検知A」、「端子or動き検知B」、「端子&動き検知 A」、「端子&動き検知 B」のいずれかに設定し、該当するカメラ番号のアラーム記録コマ数を「---」以外に設定してください。
- ❗ 本機の動き検知は、明るさの変化を検知して動きを検出するシステムとなっています。したがって、照明や太陽光の変化により誤動作したり、背景と人物の衣服が同色などの条件では、検出ができず動作しない場合があります。運用前に十分確認をしてください。
- ❗ 動き検知によるアラームが非常に頻繁に発生している場合、アラーム記録や通信、画面表示等の機能が緩慢になる場合があります。常に動きを検出するような場所では、通常記録をご使用になることをおすすめします。
- ❗ PTZ操作中も動き検知は動作しますのでご注意ください。

■ 日付と時刻の調整をする

日付、現在時刻を調整するときに使用します。

- ❗ 記録を始める前に、あらかじめ日付と現在時刻を正確に合わせてください。
- ❗ 本機は、時計が動いていなければ正常に記録や再生ができません。運用前に、必ず時計が動いていることを確認してください。



1 現在の年、月、日、時、分、秒を設定する。

- ➡ 時刻は24時間表示になっています。
- ➡ 本機は4桁年号表示を導入しています。表示可能範囲は2001年1月1日から2037年12月31日までの37年カレンダーです。うるう年の自動計算機能も内蔵しています。2037年12月31日を過ぎると、再び2001年表示に戻ります。

■ 使用言語の選択をする

本機では、メニュー画面表示を日本語、英語の2ヶ国語から選択することができます。初期設定は、「日本語」が選択されていますので、英語に変更したい場合は、以下の手順で設定を行ってください。



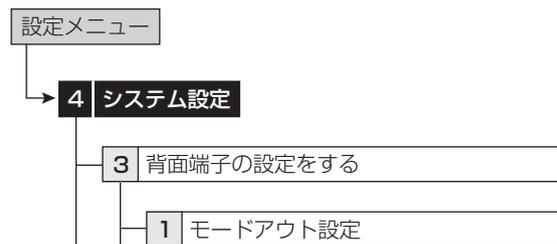
1 希望する言語を選択する。

- ・ 言語を切り換えると、本機の電源が切れた後、再起動します。再起動後、切り換えた言語で表示されます。
- ❗ 記録中は、言語の設定を変更することはできません。

■ 背面端子の設定をする

◆ モードアウト設定

本機の状態を、後面部のMODE OUT端子から出力(接点の短絡)することができます。MODE OUT端子は4つあり、端子ごとに個別に出力信号を設定できます。



【モードアウト1~4】

1 モードアウト(1~4)に希望する設定項目を設定する。

- 「記録中」:記録中に信号を出力します。
- 「再生中」:再生中に信号を出力します。
- 「残量」:HDDの残量が、「残量設定」で指定した数値に達すると、信号を出力します。
- 「パワーON」:本機の電源が入ったときに、信号を出力します。
- 「アラーム記録」:アラーム記録中に、信号を出力します。
- 「LAN」:接続されたパーソナルコンピュータで、信号の出力を制御します。
- 「切」:信号を出力しません。
- ・ 「極性変更」を使用して、モードアウトの出力状態を変更することができます。
- 「オープン」:モードアウトがアクティブの時、出力をオープンにします。
- 「クローズ」:モードアウトがアクティブの時、出力をクローズにします。

- ❗ MODE OUTは、リレーを使った接地端子です。条件(DC24V、500mA以下)を守って使用してください。
- ❗ MODE OUT端子による残量警告を設定していると、電源ボタンで電源を「切」にしても、MODE OUT出力の状態を保持します。

【残量設定】

記録中に記録容量が少なくなったことを知らせる警告を出力します。そのときのデバイスの選択と、残量数値を設定します。

- ➡ 記録中に記録容量が少なくなると、次のような方法で出力されます。
 - ・ 動作モード表示が表示される設定になっているときは、HDDの記録容量の表示が赤色に変わります。
 - ・ 「ブザー」が「残量」に設定されているときは、ブザーが鳴ります。

2 希望するデバイスを選択する。

「メイン-通常エリア」:通常エリアの容量が少なくなると、警告を表示します。

「メイン-アラームエリア」:アラームエリアの容量が少なくなると、警告を表示します。

「メイン-LPAエリア」:LPAエリアの容量が少なくなると、警告を表示します。

「コピー2」:コピー2デバイスの容量が少なくなると、警告を表示します。

「切」:HDDの容量が少なくなっても警告を表示しません。

- ❗ 「メイン-アラームエリア」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

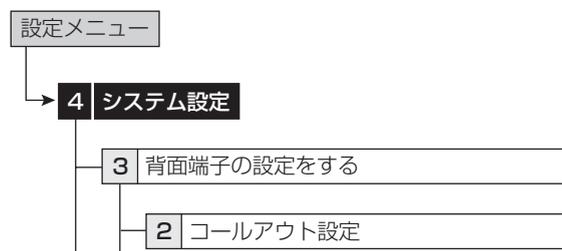
- ❗ 「メイン-LPAエリア」は、「ロングブリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

3 希望する容量を設定する。

- ・各デバイスの、残量発報する容量を設定します。

◆ コールアウト設定

HDDの記録残量がなくなったとき、または指定した数値に達したとき、後面部のCALL OUT端子に接続しているデバイスに警告信号を出力することができます。



1 エリアごとに希望する容量を設定する。

「切」:信号を出力しません。

- ❗ 「アラーム記録エリア」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき設定できます。

- ❗ 「ロングブリアラーム」は、「ロングブリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき設定できます。

- ❗ コールアウト設定は、配線による誤動作を低減させるため、フォトカプラ出力となっています。☞22ページ「CALL OUT出力端子」を参考に、適切な接続を行ってください。

- 👉 警告表示とコールアウト信号の出力の関係は、☞114、115ページをごらんください。CALL OUT信号の出力項目で「共通」となっている警告表示は無条件に表示されますが、「選択」ではコールアウト信号を出力する状態を追加して設定できます。たとえば、「ブザー」(設定メニュー→システム設定→背面端子の設定をする)を「ワーニング」に設定した場合、通常記録エリア、アラーム記録エリア、ロングブリアラーム記録エリアまたはコピー2が設定した値に達したとき、ブザーを鳴らすことができます。

◆ ボタン音

本機前面部の操作ボタンやジョグ・シャトル操作時に、ボタン音が鳴るようにすることができます。



1 ボタン音を「入」か「切」に設定する。

◆ ブザー

メインデバイスおよびコピー2デバイスの残量数値が「残量設定」(設定メニュー→システム設定→背面端子の設定をする→モードアウト設定)で設定した値になると、ブザーが鳴るようにすることができます。このほか、アラーム記録、エマージェンシー記録を開始したときや、警告が表示されたときにも、ブザーを鳴らすことができます。

設定された残量数値に達したときのみブザーを鳴らすには

- 1 「ブザー」を「残量」に設定する。
- 2 「残量設定」(設定メニュー→システム設定→背面端子の設定をする→モードアウト設定)で残量数値を設定する。

設定された残量数値に達したときや警告が表示されたときにブザーを鳴らすには

- 1 「ブザー」を「ワーニング」に設定する。
- 2 「コールアウト設定」(設定メニュー→システム設定→背面端子の設定をする→コールアウト設定)でHDDの残量数値を設定する。



1 希望するブザー設定をする。

ブザー \ 設定項目	「残量設定」で設定された残量数値に達したとき	障害が発生して警告表示されたとき	アラーム記録またはエマージェンシー記録を開始したとき	パーソナルコンピュータからブザーを鳴らしたとき
「残量」	鳴る	鳴らない	鳴らない	鳴らない
「ワーニング」	鳴らない	鳴る	鳴らない	鳴らない
「アラーム記録」	鳴らない	鳴らない	鳴る	鳴らない
「LAN」	鳴らない	鳴らない	鳴らない	鳴る
「切」	鳴らない	鳴らない	鳴らない	鳴らない

- 👉 「LAN」に設定した場合は、RS-232Cコマンドなどの遠隔制御でブザーが鳴ります。

- 👉 「画面表示」の「状態表示」を「モード3」または「モード5」に設定しているときは、ブザーは鳴りません。(☞72ページ)

■ パスワードの設定をする

ロック機能を使用するためのパスワードを設定することができます。本機のロック機能には、ロック解除にパスワードが不要な簡易ロックと、パスワードが必要なパスワードロックの2種類があります。

- ・ ロック解除用のパスワードを設定していない場合、簡易ロックになります。
- ・ ロック解除用のパスワードを設定している場合、パスワードロックになります。
- ❗ 後面部のMAINスイッチ(主電源)がOFFのとき、またはメニューが表示されているときは、簡易ロックおよびパスワードロックのオン/オフはできません。

◆ 簡易ロック

簡易ロックをかけると、全ての操作ができなくなり、現在の状態にロック(固定)されます。

簡易ロックをかける場合は

- 1 MAINスイッチがONの状態、ロックボタンを押す。
 - ・ ロックがかかり、ロックインジケータが点灯します。

簡易ロックを解除する場合は

- 1 ロックボタンを2秒以上押す。
 - ・ ロックが解除され、ロックインジケータが消灯します。

◆ パスワードロック

パスワードロックは、「操作制限パスワード」と「ディスク管理パスワード」の2種類に分類されます。

「操作制限パスワード」は、3段階のレベルでロックをかけることができます。(レベル1～3)

「ディスク管理パスワード」は、メインデバイスの<記録映像消去>(システムメニュー→記録映像消去)の設定に対し、ロックをかけることができます。

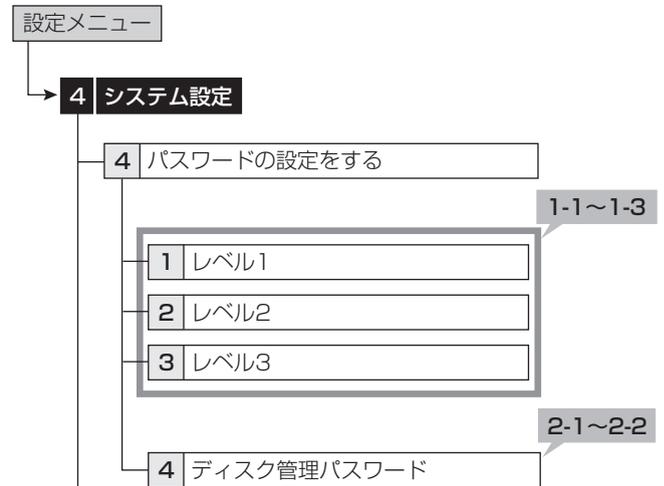
操作制限用パスワードロック(レベル1～3)

- 1) レベル1～3のパスワードを入力する。
- 2) ロックボタンを押して、パスワードロックをかける。
 - ・ レベル1のパスワードロック状態になります。
 - ➡ レベル1のパスワードロックがかかると、パスワード解除とヘルプ機能以外の全ての機能を操作することができません。
- 3) レベル1のパスワードロックを解除する。
 - ・ レベル2のパスワードロック状態になります。
 - ➡ レベル2のパスワードロックがかかると、以下の機能は操作できません。これ以外のボタンとメニューが操作できます。
 - ・ 本機前面: 電源、記録/記録停止、タイマーの各ボタン
 - ・ リモコン: 記録/記録停止、タイマー入/切の各ボタン
 - ・ <設定メニュー>、<システムメニュー>のメニュー操作
- 4) レベル2のパスワードロックを解除する。
 - ・ レベル3のパスワードロック状態になります。
 - ➡ レベル3のパスワードロックがかかると、以下の機能は操作できません。
 - ・ <設定メニュー>、<システムメニュー>のメニュー操作

- 5) レベル3のパスワードロックを解除する。
 - ・ 全てのパスワードロックが解除されます。
 - ➡ 全ての機能を操作することができます。
 - ➡ 後面部のMAINスイッチ(主電源)がONの場合は、前面部の電源が切でもパスワードロックの解除ができます。本機の電源が切の状態でもパスワードロックされている場合は、前面のLCDを使用してロックを解除してください。その場合、パスワードを入力してからロックボタンを押してください。

◆ パスワードの登録

パスワードは、0から9の4桁の番号で登録します。



【レベル1～3】

- 1-1 設定したいレベルのパスワード設定画面を表示させる。
- 1-2 画面上に表示されている数字を使って、4桁のパスワードを入力する。
 - ➡ 前面部のボタンを使ってパスワードを入力するときは、カメラ番号ボタンを使ってください。1から9は、カメラ番号ボタンの1から9に対応しています。0は、カメラ番号ボタン10に対応しています。
- 1-3 「パスワード」に入力したものと同一パスワードを「パスワード確認」に再入力する。
 - ❗ 「パスワード」と「パスワード確認」には、同じ数字を入力してください。異なるパスワード番号を入力すると、入力済みパスワードが取り消され、ステップ1-1に戻ります。
 - ❗ レベル1～レベル3のすべてにパスワードを入力する必要はありません。希望するレベルのみ、パスワードを入力してください。

【ディスク管理パスワード】

- 2-1 <ディスク管理パスワード>上に表示されている数字を使って、4桁のパスワードを入力する。
- 2-2 「パスワード」に入力したものと同一パスワードを「パスワード確認」に再入力する。

◆ パスワードロックをかける

1 MAINスイッチがONの状態、ロックボタンを押す。

- ・ ロックがかかり、ロックインジケーターが点灯します。
- ・ メインデバイスのデータのみロックがかかります。コピーデバイスのデータにはロックはかかりません。
- ・ ディスク管理パスワードのパスワードロックは、パスワードを入力し、設定画面を抜けた時点でロックがかかります。

◆ パスワードロックの解除

[レベル1、レベル2]

1-1 ロックボタンを2秒以上押し、パスワード解除画面を表示させる。

1-2 数字ボタンを押して希望するレベルのパスワードを入力する。

1-3 「解除」を選択する。

- ・ ロックが解除され、通常画面が表示されます。

❗ レベル1、レベル2のパスワードロックを設定している場合、レベル1のみ解除するとレベル2のパスワードロックになります。

❗ レベル1、レベル2のパスワードロックを設定している場合、レベル2のみ解除することはできません。必ず、レベル1も解除してください。

❗ パスワードは、正確に入力してください。間違ったパスワードを入力した場合、入力済みパスワードが取り消されます。再入力してください。

❗ ロックを解除しない場合は、再度ロックボタンを押してください。

[レベル3]

2-1 <ユーザーメニュー>表示中に「D(次へ)」ボタンを押す。

- ・ <パスワード レベル3の解除>が表示されます。

❗ レベル1～レベル3のパスワードロックを設定している場合、レベル3のみ解除することはできません。必ず、先にレベル1、レベル2のパスワードを解除してください。

2-2 数字ボタンを押してレベル3のパスワードを入力する。

2-3 「解除」を選択する。

- ・ パスワードロックが解除され、<ユーザーメニュー>が表示されます。

❗ レベル1～レベル3のパスワードロックを設定している場合、レベル1を解除するとレベル2のパスワードロックになります。レベル1、レベル2を解除するとレベル3のパスワードロックになります。

❗ パスワードロックを解除しない場合は、解除画面が表示されている状態で、ロックボタンを押してください。

[ディスク管理パスワード]

3-1 <メインデバイスの記録映像を消去する>(システムメニュー→記録映像消去)で、消去を希望するエリアの「消去」を選択し、「実行」を選択する。

- ・ <パスワード ディスク管理の解除>が表示されます。

3-2 数字ボタンを押してディスク管理パスワードのパスワードを入力する。

3-3 「解除」を選択する。

- ・ <メインデバイスの記録映像を消去する>を抜けると、再度ディスク管理パスワードのパスワードロックがかかります。

➡ 設定したパスワードを忘れてしまった場合は、サービスセンターへご相談ください。

◆ パスワードの変更

1 レベル1～レベル3のパスワードロックを解除する。

[レベル1～3]

2-1 変更したいレベルのパスワード設定画面を表示させ、「クリア」を選択する。

2-2 「パスワードの登録」を参考に、新しいパスワードを入力する。

[ディスク管理パスワード]

3-1 <ディスク管理パスワード>を選択する。

3-2 数字ボタンを押して、ディスク管理パスワードのパスワードを入力する。

3-3 「解除」を選択する。

- ・ パスワードロックが解除され、パスワード設定画面が表示されます。

3-4 「クリア」を選択して、パスワードを消去する。

3-5 「パスワードの登録」を参考に、新しいパスワードを入力する。

◆ ロックモードの変更

[パスワードロックモードから簡易ロックモードへ変更する]

1 レベル1～レベル3のパスワードロックを解除する。

2 レベル1～レベル3、ディスク管理パスワードのパスワードを消去する。

■ マルチプレクサ機能関連ボタンの動作/動作表

本機のマルチプレクサ機能は、接続されたカメラの映像を4分割、9分割、10分割、13分割、16分割にして画面に表示させることができます。また、表示するカメラ位置を自由に設定することができます。(P.98ページ「マルチプレクサ機能」)

◆ カメラ番号ボタンの動作

カメラ番号ボタンを押すと、そのカメラ番号に接続されたカメラの映像が1画表示になります。また、分割/シーケンシャル画面表示中でも、カメラ番号ボタンを押すことによって、特定のカメラの1画表示に切り換えることができます。

◆ 分割ボタンの動作

分割ボタンを押すことにより、マルチプレクサ設定の各分割表示位置で設定された下記の表示モードを、順に表示することができます。

4分割ボタン(田) : 4分割a→4分割b→4分割c→4分割d→4分割a→…

9分割ボタン(田田田) : 9分割a→9分割b→9分割a→…

10分割ボタン(田田田田) : 10分割a→10分割b→10分割a→…

13分割ボタン(田田田田田田田) : 13分割a→13分割b→13分割a→…

16分割ボタン(田田田田田田田田田田) : 16分割

◆ シーケンスボタンの動作

シーケンスボタンを押すと、そのときに表示されている分割表示または1画表示のシーケンシャル画面が表示されます。詳細設定は<マルチプレクサの設定をする>(設定メニュー→システム設定→マルチプレクサの設定をする)で行います。

表示できるモード

13分割シーケンシャル、10分割シーケンシャル、9分割シーケンシャル、4分割シーケンシャル、1画シーケンシャル

- ➡ 再生中は、シーケンシャル表示はできません。
- ➡ 分割表示は、<出力A設定>と<出力B設定>(設定メニュー→システム設定→マルチプレクサの設定をする→出力A設定/出力B設定)の「4分割表示」、「9分割表示」、「10分割表示」、「13分割表示」、「16分割表示」でそれぞれ個別に設定することができます。

シーケンシャル表示を解除するには

シーケンスボタンをもう一度押してください。

シーケンシャル表示中に、他のタイプの分割画面を表示させるか、カメラ番号ボタン(1~16)を押して1画面を表示しても、シーケンシャル表示を解除することができます。

- ❗ メニュー画面を表示している場合は、カメラ番号ボタン(1~16)を押しても1画表示になりません。一度メニュー画面を消してから、カメラ番号ボタン(1~16)を押してください。

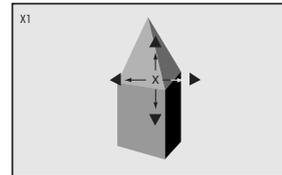
◆ 電子ズームボタンの動作

1画表示中に電子ズームボタンを押すことにより、表示中の映像を1倍、2倍、または4倍に拡大することができます。

- ❗ 拡大表示機能は1画表示中のみ機能します。また、移動ボタンを押すことにより、拡大表示する場所を上下左右に移動できます。

1 1画表示中に電子ズームボタンを押す。

- ・ 1画表示の左上に「X1」と拡大中心点(X)が表示されます。



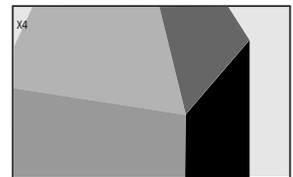
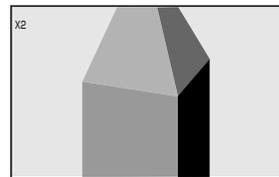
2 画面を上下左右へ移動させる場合は、▲、▼、◀、▶ボタンを押す。

- ➡ 拡大中心点の位置と拡大の状態は、画面を切り換えたり、電源を切っても記憶していますので、拡大して見たい場所があらかじめ決まっている場合などに便利です。

ライブ中再生を使用すると、拡大の状態はリセットされます。

3 電子ズームボタンを押す。

- ・ ボタンを押すたびに、画面が「X2」(2倍)、「X4」(4倍)、通常、「X1」(1倍)の順に切り換わります。



- ➡ 拡大機能は、記録内容の再生中にも使用することができます。
- ➡ 複数台のカメラの記録映像を1画表示で再生中に、一時停止させて拡大操作を行うと、黒画面が表示されることがあります。この場合は、ジョグを回してコマを送ることで、拡大画面を表示させることができます。
- ➡ 本機の拡大表示機能は、電子拡大方式ですので、拡大時に画面細部がブロック状に見えます。

◆ 分割ボタン、シーケンスボタン、電子ズームボタン、カメラ番号ボタンの動作表

❗ カメラから映像信号の入力がないカメラ番号の映像は、青で表示されます。また、<カメラ表示設定>で「切」に設定しているカメラの映像も、青で表示されます。(P.72ページ「カメラ表示設定」)

画面表示	ボタン操作	表示される映像・ボタンの点灯/消灯	参照ページ
16分割 	(出力B選択時点灯) →	<出力A設定> (<出力B設定>) → <16分割表示>画面で選択されているカメラ番号の映像を16分割表示します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
13分割 (a) 13分割 (b) 	(出力B選択時点灯) →	<出力A設定> (<出力B設定>) → <13分割表示>画面で選択されているカメラ番号の映像を13分割表示します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
10分割 (a) 10分割 (b) 	(出力B選択時点灯) →	<出力A設定> (<出力B設定>) → <10分割表示>画面で選択されているカメラ番号の映像を10分割表示します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
9分割 (a) 9分割 (b) 	(出力B選択時点灯) →	<出力A設定> (<出力B設定>) → <9分割表示>画面で選択されているカメラ番号の映像を9分割表示します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
4分割 (a) 4分割 (b) 4分割 (c) 4分割 (d) 	(出力B選択時点灯) →	<出力A設定> (<出力B設定>) → <4分割表示>画面で選択されているカメラ番号の映像を4分割表示します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
13分割シーケンシャル 13分割表示が切り換わります。 (2種類)	(出力B選択時点灯) → シーケンス ↓ 	<出力A設定> (<出力B設定>) → <シーケンス表示 分割表示>画面で設定された13分割の映像を表示し、<シーケンス表示 切替時間>画面で設定された切り換え時間で更新します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
10分割シーケンシャル 10分割表示が切り換わります。 (2種類)	(出力B選択時点灯) → シーケンス ↓ 	<出力A設定> (<出力B設定>) → <シーケンス表示 分割表示>画面で設定された10分割の映像を表示し、<シーケンス表示 切替時間>画面で設定された切り換え時間で更新します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
9分割シーケンシャル 9分割表示が切り換わります。 (2種類)	(出力B選択時点灯) → シーケンス ↓ 	<出力A設定> (<出力B設定>) → <シーケンス表示 分割表示>画面で設定された9分割の映像を表示し、<シーケンス表示 切替時間>画面で設定された切り換え時間で更新します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
4分割シーケンシャル 4分割表示が切り換わります。 (4種類)	(出力B選択時点灯) → シーケンス ↓ 	<出力A設定> (<出力B設定>) → <シーケンス表示 分割表示>画面で設定された4分割の映像を表示し、<シーケンス表示 切替時間>画面で設定された切り換え時間で更新します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
1画シーケンシャル 1画表示が切り換わります。	(出力B選択時点灯) → シーケンス ↓ 	<出力A設定> (<出力B設定>) → <シーケンス表示 単画面表示>画面で設定されたカメラ番号の映像を表示し、<シーケンス表示 切替時間>画面で設定された切り換え時間で更新します。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	70, 71
1画表示	非拡大モード時 	選択されたカメラ番号の映像が1画表示されます。 該当するカメラ番号ボタンが点灯します。	68
	拡大モード時 →	1画表示で表示されているカメラ映像が1倍、2倍、4倍に拡大されます。 カメラ番号11、14、15、16ボタンが点灯します。	68
アラーム記録中		アラーム記録が開始されると、該当するカメラ番号が、表示されている映像のタイプにかかわらず点滅します。	—

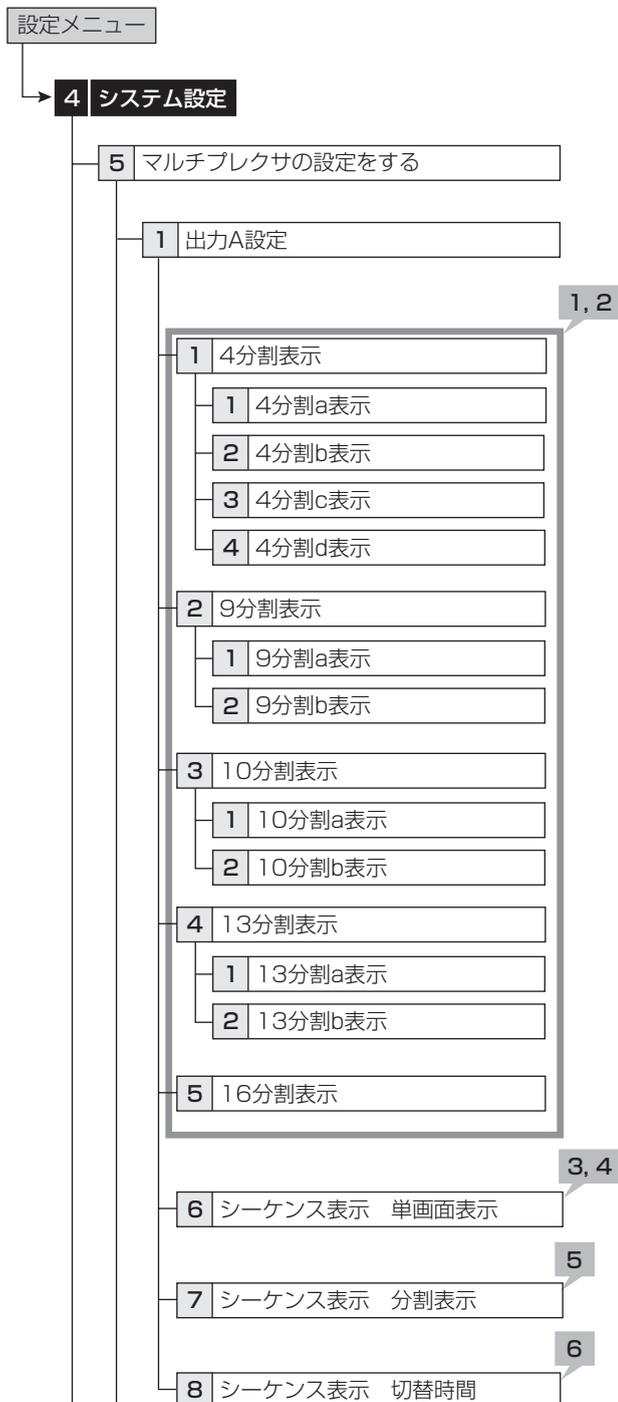
■ マルチプレクサの設定をする

<出力A設定>と<出力B設定>のマルチプレクサ設定を、それぞれ個別に設定することができます。(設定メニュー→システム設定→マルチプレクサの設定をする→出力A設定/出力B設定)

◆ 出力A設定

OUTPUT AIに接続されたモニターに表示する分割画面のためのカメラ番号を設定します。また、シーケンス表示設定と切り換え時間も設定します。シーケンス表示は、選択した画像を自動的に切り換える機能です。

選択できる画面表示については、前ページの表をごらんください。



【分割表示】

1 本体ボタンで設定する場合は、CボタンまたはDボタンで変更したい位置を選択する。

マウスで設定する場合は、変更したい位置の番号を左クリックする。

・ 選択されている位置の番号が、オレンジで表示されます。

2 本体ボタンで設定する場合は、1～16ボタンで表示したいカメラ番号を押す。

・ 表示しない場合は、Aボタンを押してください。「—」が表示されます。

マウスで設定する場合は、希望のカメラ番号が表示されるまで左クリックする。

・ 1～16、「—」が表示されます。

❗ 1つの分割表示に、同じカメラ番号を重複して設定することはできません。

❗ 「—」を設定すると、通常画面のカメラ番号表示が「—」になります。

【1画シーケンシャル表示<シーケンス表示 単画面表示>】

3 本体ボタンで設定する場合は、CボタンまたはDボタンで変更したい位置を選択する。

マウスで設定する場合は、変更したい位置の番号を左クリックする。

・ 選択されている位置の番号が、オレンジで表示されます。

4 本体ボタンで設定する場合は、1～16ボタンで表示したいカメラ番号を押す。

・ 表示しない場合は、Aボタンを押してください。「—」が表示されます。

マウスで設定する場合は、希望のカメラ番号が表示されるまで左クリックする。

・ 1～16、「—」が表示されます。

【分割シーケンシャル表示<シーケンス表示 分割表示>】

5 表示するカメラ番号の順番を選択する。

6 希望する切り換え時間を設定する。

❗ AまたはBどちらかの出力がシーケンシャル表示中の場合は、分割画面表示の設定やシーケンシャル表示の設定を変更する際にいったん解除されます。

◆ 出力B設定

OUTPUT Bに接続されたモニターに表示する分割画面のためのカメラ番号を設定します。また、シーケンス表示設定と切り換え時間も設定します。シーケンス表示は、選択した画像を自動的に切り換える機能です。

選択できる画面表示についてはP.69ページの表をごらんください。



【分割表示】

1 本体ボタンで設定する場合は、CボタンまたはDボタンで変更したい位置を選択する。

マウスで設定する場合は、変更したい位置の番号を左クリックする。

・ 選択されている位置の番号が、オレンジで表示されます。

2 本体ボタンで設定する場合は、1～16ボタンで表示したいカメラ番号を押す。

・ 表示しない場合は、Aボタンを押してください。「—」が表示されます。

マウスで設定する場合は、希望のカメラ番号が表示されるまで左クリックする。

・ 1～16、「—」が表示されます。

❗ 1つの分割表示に、同じカメラ番号を重複して設定することはできません。

❗ 「—」を設定すると、通常画面のカメラ番号表示が「—」になります。

【1画シーケンシャル表示<シーケンス表示 単画面表示>】

3 本体ボタンで設定する場合は、CボタンまたはDボタンで変更したい位置を選択する。

マウスで設定する場合は、変更したい位置の番号を左クリックする。

・ 選択されている位置の番号が、オレンジで表示されます。

4 本体ボタンで設定する場合は、1～16ボタンで表示したいカメラ番号を押す。

・ 表示しない場合は、Aボタンを押してください。「—」が表示されます。

マウスで設定する場合は、希望のカメラ番号が表示されるまで左クリックする。

・ 1～16、「—」が表示されます。

【分割シーケンシャル表示<シーケンス表示 分割表示>】

5 表示するカメラ番号の順番を選択する。

6 希望する切り換え時間を設定する。

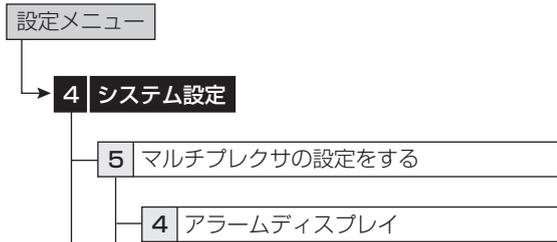
7 出力Bを出力Aと同じ設定にしたいときは、「出力A設定をコピー」で「コピー」を選択し、「設定」を選択する。

❗ AまたはBどちらかの出力がシーケンシャル表示中の場合は、分割画面表示の設定やシーケンシャル表示の設定を変更する際にいったん解除されます。

◆ アラームディスプレイ表示設定

アラーム信号入力時に、あらかじめ設定した1画または分割表示を表示させることができます。アラーム記録中に、別のアラーム信号が入った場合、最新のアラーム信号によるカメラ映像が1画または分割表示されます。アラーム記録完了後は、もとの画面表示に戻ります。

出力AまたはBのいずれかでアラームディスプレイ出力を行うことができます。アラームディスプレイを行いたい出力を選択してください。両方の出力で同時にアラームディスプレイを行うことはできません。



1 出力AまたはBを選択する。

「切」: アラームディスプレイが動作しません。

2 接続されている各センサーごとに、アラーム信号が入力されたとき表示させる1画面表示またはマルチプレクサ設定で設定した分割画面を選択する。

◆ カメラ表示設定

映像信号の有無にかかわらず、指定したカメラ番号の映像を非表示に設定することができます。

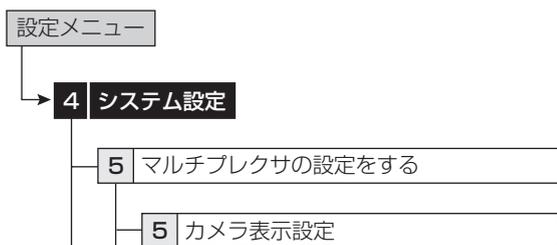
1	2	3	4
--	6	--	8
9	10	11	12
13	14	15	16

➡ 「カメラ表示設定」を「切」に設定しているときに、カメラの故障などにより映像が途切れた場合、画面上に警告は表示されません。また、「ブザー」の設定を「ワーニング」にしても、ブザーは鳴りません。コールアウト信号も出力されませんが、システムログリストには記録されます。

➡ 記録運用に設定しているカメラで、「カメラ表示設定」を「切」にした場合でも、画面非表示の状態では記録は行われます。

❗ 「カメラ表示設定」を「切」に設定した場合、そのカメラ番号の再生映像は表示されず、青で表示されます。再生映像を見る場合は、「入」に設定変更してください。

❗ 「カメラ表示設定」を「切」に設定したカメラ映像をアラームディスプレイ機能で1画表示することはできません。



1 それぞれのカメラ番号ごとに、カメラ表示設定をする。

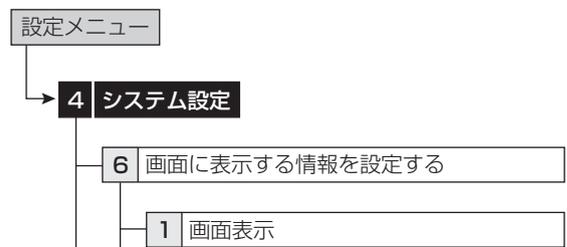
「入」: カメラからの映像を表示します。

「切」: カメラからの映像を表示せず、画像が青の画面になります。

■ 画面に表示する情報を設定する

◆ 画面表示

時刻表示、マルチプレクサ、カメラなどの表示形式や表示位置を設定できます。



【時刻表示】

1 現在時刻の表示モードを選択する。

「モード1」:

2004-01-01 木 00:00:00

「モード2」:

2004-01-01 木
00:00:00

「モード3」: 現在時刻を表示しません。

2 希望する表示位置を選択する。

【状態表示】

3 残量や再生、記録、アラーム記録、エマージェンシー記録などの動作状態の表示モードを選択する。

「モード1」: 動作状態、警告表示を表示します。

「モード2」: 指定したデバイスの残量、動作状態、警告表示を表示します。

「モード3」: 指定したデバイスの残量、動作状態、記録中・再生中のハードディスクを表示します。警告表示は表示されません。

「モード4」: 警告表示を表示します。

「モード5」: 表示しません。

➡ 残量表示は、「残量設定」の「デバイス」で設定したデバイスの残量が表示されます。(P64, 65ページ)

➡ 指定したデバイスの残量表示は、「残量設定」の「デバイス」が「切」に設定されているときは、表示されません。

4 希望する表示位置を選択する。

【カメラ表示】

5 カメラ情報の表示モードを選択する。

「番号」:カメラ番号を表示します。

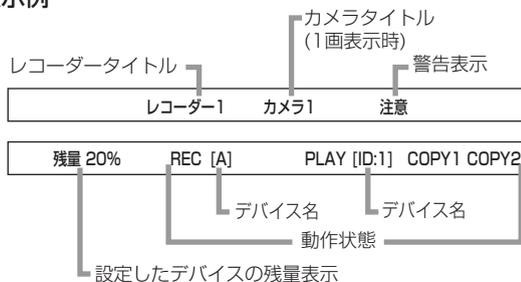
「タイトル」:「カメラタイトル設定」で設定したタイトルを表示します。タイトルは、映像と共に記録することができます。

「無」:何も表示しません。

6 希望する表示位置を選択する。

- 表示モードを「タイトル」に設定している場合は、表示位置で「上左」または「上右」を選択すると上に、「下左」または「下右」を選択すると下に表示されます。

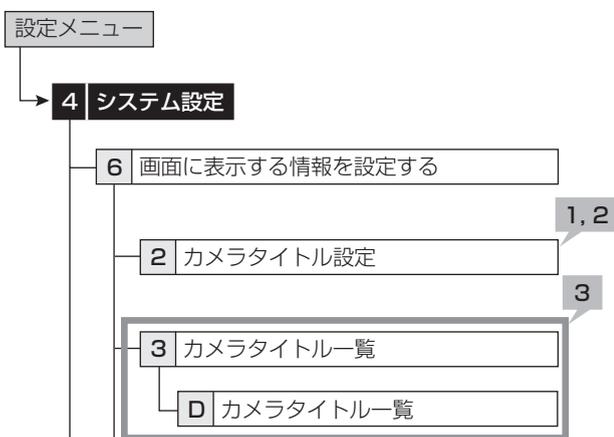
画面表示例



◆ カメラタイトル設定

接続しているカメラごとに、個別にタイトルを設定することができます。カメラ表示の表示モードを「タイトル」に設定した場合、画面にタイトルが表示され、設置されたカメラ場所などがよりわかりやすい監視システムを構築することができます。

- カメラタイトルは、Web機能でパーソナルコンピュータから入力することができます。(P.108ページ)
- タイトルは、最大16文字まで入力できます。(本機では、全角の場合8文字まで)
- 画面に表示される文字数は…
 - 16分割表示:最初から全角6文字まで、半角12文字まで
 - その他の表示:全角8文字、半角16文字

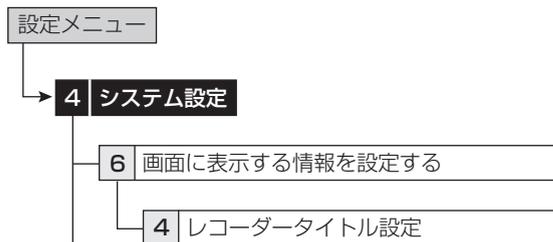


- タイトルを設定するカメラ番号を選択する。
- 画面下部に表示される文字を使って、カメラタイトルを入力する。
- 設定内容を確認するときは、一覧画面を表示する。

◆ レコーダータイトル設定

レコーダーのタイトルを設定することができます。カスケード機能を使用するときは、スレーブレコーダーの名称をレコーダータイトルに設定すると、レコーダーの識別がしやすくなります。

- レコーダータイトルは、動作モード表示の上部に表示されます。
- レコーダータイトルは、Web機能でパーソナルコンピュータから入力することができます。(P.108ページ)



1 「タイトル表示」を設定する。

「有」:画面にレコーダータイトルを表示します。

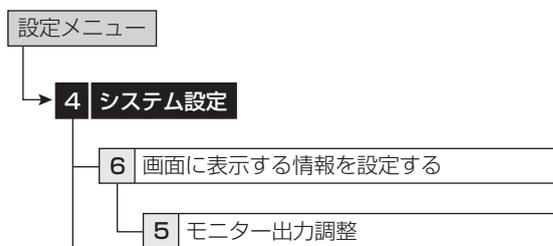
「無」:画面にレコーダータイトルを表示しません。

2 画面下部に表示される文字を使って、レコーダータイトルを入力する。

- 「注意」が表示された場合は、ヘルプボタンを押すと詳細内容が画面上に表示されます。対処方法等については、P.114ページをご覧ください。

◆ モニター出力調整

モニター出力を調整することができます。



1 スキャンモードを調整する。

- モニターに表示する範囲を調整します。モニターの表示面積に合わせてください。

「オーバースキャン」:映像をオーバースキャンで表示します。一般的に、家庭用テレビのように表示範囲の狭いモニターに適しています。

「アンダースキャン」:映像をアンダースキャンで表示します。一般的に、液晶テレビのように表示範囲の広いモニターに適しています。各カメラの画像の左右に黒線が入る場合があります。

2 透かしのレベル設定を調整する。

- メニュー表示中に、メニューを透かしてカメラの映像を見られるようにすることができます。

2-1「メニュー」

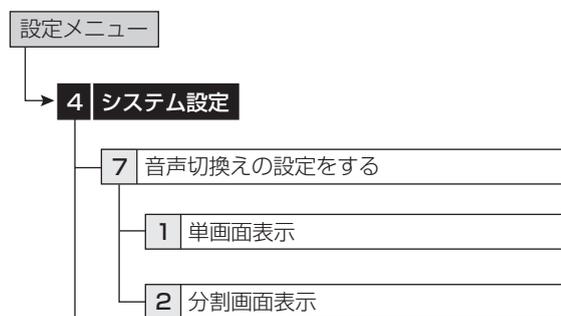
- メニューの透かしレベルを調整します。数字が大きいくほど透けなくなります。

2-2「情報表示」

- 時刻表示、タイトル等の情報の透かしレベルを調整します。数字が大きいくほど透けなくなります。

■ 音声切換えの設定をする

接続しているそれぞれのカメラ番号に対して、音声出力を設定することができます。この設定は1画表示、分割表示それぞれに設定することができます。



1 それぞれのカメラ番号と分割表示に対して、希望する音声出力を選択する。

- ・ ここでの設定は、カメラからの映像を表示中または再生中に出力される音声に対して有効となります。

「Channel 1」: カメラからの映像を表示中は、AUDIO IN 1端子からの音声を出力します。再生中は、記録されたAUDIO IN 1端子からの音声を出力します。

「Channel 2」: カメラからの映像を表示中は、AUDIO IN 2端子からの音声を出力します。再生中は、記録されたAUDIO IN 2端子からの音声を出力します。

「Channel 3」: カメラからの映像を表示中は、AUDIO IN 3端子からの音声を出力します。再生中は、記録されたAUDIO IN 3端子からの音声を出力します。

「Channel 4」: カメラからの映像を表示中は、AUDIO IN 4端子からの音声を出力します。再生中は、記録されたAUDIO IN 4端子からの音声を出力します。

「切」: 音声を出力しません。

- ➡ <音声切換え>メニュー(ユーザーメニュー→音声切換え)を使用すると、暫定的に音声を切り換えることができます。(P.52ページ)

■ 工場出荷設定に戻す

メニューの設定を、工場出荷時の状態へ戻すことができます。



1 「実行」を選択して、工場出荷時の設定へ戻す。

- ❗ 現在時刻、パスワード、通信の利用者IDとパスワード、HDD運用設定(パーティション設定)は、工場出荷時の設定に戻りません。
- ❗ LAN Bの「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、「サービスポート設定」、LAN Aの「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、またはメニュー言語のいずれかの項目を設定変更した状態でメニューを工場出荷時の設定に戻すと、電源が切れたあと、再起動します。

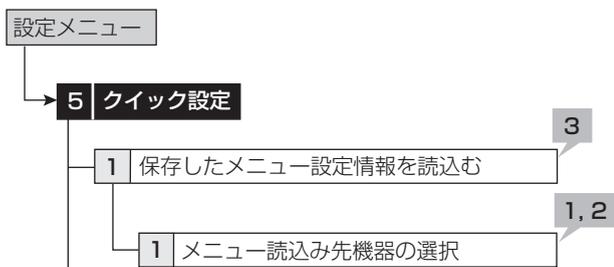
本機で使用できるUSBメモリー、DVDディスク、CDなどの外部メディアにコピーされた他のDX-TL5500のメニュー設定を読み込んで、本機のメニュー設定を更新することができます。また、外部メディアに本機のメニュー設定を保存することもできます。

- ❗ メニューデータの読み込み中、保存中は他の操作を受け付けません。
- ❗ メインデバイスのHDDが登録されていないと、USBメモリーを使用することはできません。

■ 保存したメニュー設定情報を読み込む

外部メディアにコピーされたメニュー設定を読み込んで、本機のメニュー設定を更新します。

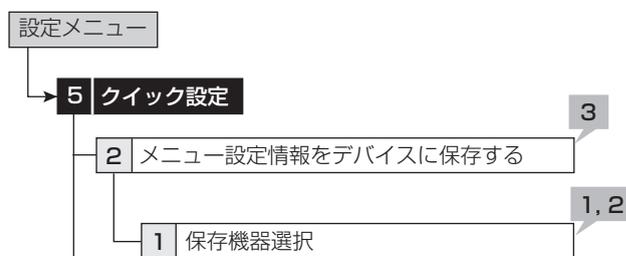
- ❗ 外部メディアに記録されたメニュー設定を本機に読み出し、更新する場合、本機のHDD運用設定(パーティション設定)を、メニュー設定をコピーした側のレコーダーのHDD運用設定に合わせてください。HDD運用設定が異なる場合は、メニュー設定が更新できませんのでご注意ください。
- ❗ メニューのフォーマットが異なる場合は(例えば、機能追加などによりメニューの構造が異っているなど)、メニュー設定は更新できません。



- 1 メニュー設定を読み出すデバイスとグループを選択する。
 - 2 デバイスを取り出す場合は、「取出し」を選択する。
 - ・「取出し」は、手順1で選択されたデバイスが取り出し可能なときのみ表示されます。
 - 3 「実行」を選択する。
 - ・本機のメニュー設定が更新され、「メニューデータの読出しが完了しました」が画面に表示されます。
 - ・メニューを読み込むために使用するメディアが挿入されていない場合、「読込先メディアがありません」が画面に表示されます。
- ❗ LAN Bの「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、「サービスポート設定」、LAN Aの「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、またはメニュー言語のいずれかの項目を設定変更しているデータを読み出し、設定変更すると、自動的に電源が切れたあと、再起動します。
 - ❗ メニューの読み出しが完了したあと、時刻は反映されませんので、正しい時刻を設定してください。

■ メニュー設定情報をデバイスに保存する

本機のメニュー設定を外部メディアにコピー、保存します。



- 1 本機のメニュー設定を保存するデバイスとグループを選択する。
 - 2 デバイスを取り出す場合は、「取出し」を選択する。
 - ・「取出し」は、手順1で選択されたデバイスが取り出し可能なときのみ表示されます。
 - 3 「実行」を選択する。
 - ・本機のメニュー設定が、外部デバイスに保存されます。
 - ・メニューの保存は、再生・記録中でも実行することができます。
 - ・保存が完了すると、「メニューデータの保存が完了しました」が画面に表示されます。
 - ・メニューを保存するためのメディアが挿入されていない場合、「書込先メディアがありません」が画面に表示されます。
- ❗ メニューの読み出し／保存は、本機が停止中(再生/記録/バックアップ/通信の停止)のときのみ有効です。
 - ❗ メニューの読み出し／保存は、「実行」選択後、しばらく時間(数秒程度)がかかる場合があります。
 - ❗ 読み出し／保存されるメニューの項目は、P.116～135ページ「設定リスト」に※マークがついています。

■ XGA出力の画面設定

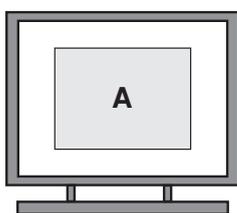
オプションのグラフィックカードDX-GC5を使用したときの画面表示と画質の設定を行うことができます。

❗ このメニューは、本機にオプションのグラフィックカードDX-GC5を取り付けたときのみ表示されます。

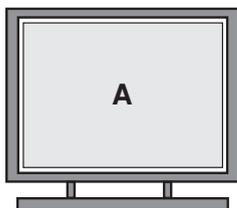


1 XGA出力の画面形式を選択する。

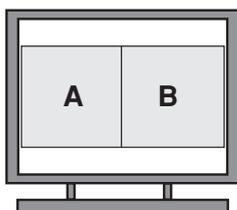
「表示1」: 出力Aの画像を標準サイズで表示します。



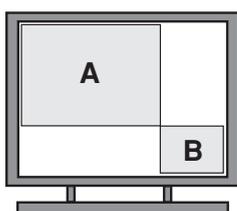
「表示2」: 出力Aの画像を画面いっぱいに表示します。



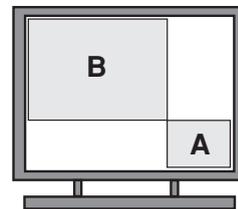
「表示3」: 出力AとBの画像を並べて表示します。



「表示4」: 出力AとBの画像を対角線上に並べて表示します。



「表示5」: 出力AとBの画像を対角線上に並べて表示します。



2 表示する画像の画質を調整します。

映像の輪郭の強調度を「強」「中」「弱」で設定します。

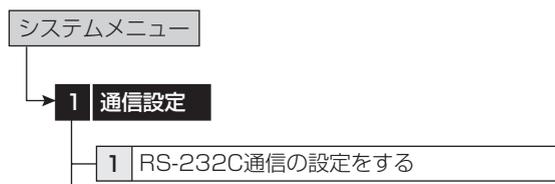
「切」: 画像の輪郭を調整しません。

❗ 設定した画質によっては、背景と表示映像の境目が白くなる場合があります。

本機と接続しているデバイスとの通信設定を行います。

■ RS-232C通信の設定をする

本機のRS-232C端子に接続したパーソナルコンピュータから、本機を遠隔操作することができます。



1 通信モードを設定する。

「リモート A」: パーソナルコンピュータから本機を操作でき、本機からすべての状態通知を返します。

「リモート B」: パーソナルコンピュータから本機を操作でき、本機からコマンドコードに対する応答のみ返します。

「リモート C」: パーソナルコンピュータから本機を操作でき、本機から何も通知を返しません。

「切」: パーソナルコンピュータから本機を操作しません。

2 以下の設定を行う。

- ・ 転送速度
- ・ データビット長
- ・ パリティ
- ・ ストップビット
- ・ CR/CR・LF (キャリッジリターンとラインフィード)

❗ 接続するパーソナルコンピュータと、同じ設定にしてください。

■ RS-485カスケード接続の設定をする

本機のRS-485端子に接続したレコーダーを使って、本機のカスケード機能を使用するための設定をします。



1 本機のカスケード接続モードを選択する。

「無」: カスケード機能を使用しません。

「有」: カスケード機能を使用します。

2 カスケードアドレスを設定する。

「マスタ ID: 01」: 本機をカスケード機能のマスタレコーダーとして設定します。

「スレーブ ID: 01」～「スレーブ ID: 16」: 本機をカスケード機能のスレーブレコーダーとして設定します。

❗ 「カスケードアドレス」は、「カスケード接続」が「有」に設定されているときのみ表示されます。

❗ カスケードアドレスは、重ならないように設定してください。

❗ オプションのキーボードでカスケード操作する場合は、全てのレコーダーをスレーブに設定してください。（「マスタID:01」に設定されているレコーダーがあると、正常に動作しません。）

❗ 「マスタID:01」と「スレーブID:01」は、同一システム内で同時に使用しないでください。

■ LAN B Web/専用アプリケーションの通信設定をする

本機のLAN B端子に接続したパーソナルコンピューターとの通信設定を行います。



【LAN Bアドレス設定】

1 IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定する。

・ MACアドレスは、<LAN B Web/専用アプリケーションの通信設定をする>の画面の下部に表示されます。

- ❗ LAN AとLAN Bに同じIPアドレス、ネットワークアドレスを設定しないでください。
- ❗ IPアドレスを000.000.000.000に設定しないでください。また、ブロードキャストアドレスにも設定しないでください。これらに設定した場合は、通信機能だけでなく、レコーダー本体の他の動作も保証できなくなります。
- ❗ 記録中は、設定変更できません。設定変更を行う場合は、記録を停止してください。

【サービスポート設定】

2 「Web」、「User Access」、「Super User」のポート設定を行う。

・ パーソナルコンピューターと接続するためのポート番号の設定を行います。
・ 特に問題のない場合はそのままお使いください。

- ❗ ネットワークの設定に関して十分な知識をお持ちでない場合は、設定を変更しないようにお願いします。
- ❗ 「Web」、「User Access」、「Super User」のポート設定以外の設定は、付属の通信ソフトウェアDX-PC55を使用して行ってください。使用方法については、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

【E-mail通知】

3 「ユーザーアドレス」、「レコーダーID」を確認する。

・ 「テスト送信」を選択すると、選択されたE-mailアドレスにメールを送信します。

- ❗ 「レコーダーID」、「ユーザーアドレス」を入力する場合は、本機のWeb機能を使用してください。

【E-mail通知詳細】

4 パーソナルコンピューターへの送信内容を確認する。

「残量」: 残量警告(コールアウト設定)のときに発報します。
「高温/ファン停止」: 高温検出、ファン停止時に発報します。
「再起動」: 本機の再起動発生時に発報します。
「通常記録」: 記録開始時に発報します。
「アラーム記録」: アラーム記録開始時に発報します。
「センサー入力」: 後面端子入力時に発報します。

- ❗ 送信内容を変更するには、本機のWeb機能を使用してください。

【IPアラーム通知】

5 「IPアドレス」と「送信Port」を確認する。

・ この設定は、後面端子が短絡したなど、状況の変化や警告表示を接続先のパーソナルコンピューターへ送信させるための設定です。
・ 「テスト送信」を選択すると、設定されたIPアドレス、ポートへテスト送信します。

- ❗ IPアドレスと送信ポートの設定を変更する場合は、付属の通信ソフトウェアDX-PC55を使用して行ってください。使用方法については、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

- ❗ ブロードキャストアドレスへの発報は、行いません。

【IPアラーム通知詳細】

6 パーソナルコンピューターへの送信内容を確認する。

「残量」: 残量警告(コールアウト設定)のときに発報します。
「高温/ファン停止」: 高温検出、ファン停止時に発報します。
「再起動」: 本機の再起動発生時に発報します。
「通常記録」: 記録開始時に発報します。
「アラーム記録」: アラーム記録開始時に発報します。
「センサー入力」: 後面端子入力時に発報します。

- ❗ 送信内容を変更するには、付属の通信ソフトウェアDX-PC55を使用して行ってください。使用方法については、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

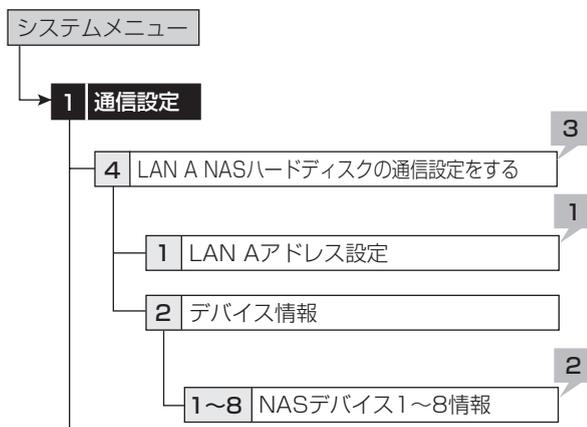
7 <LAN B Web/専用アプリケーションの通信設定をする>の画面で、「前に戻る」を選択する。

・ 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、「サービスポート設定」の設定が変更されると、自動的に電源が切れたあと、再起動します。

LAN A NASハードディスクの通信設定をする

本機とコピーデバイス間の通信設定を行います。

- ❗ NAS対応機器については、販売店にご相談ください。
- ❗ LAN A端子をご使用になる際、コピーの転送速度がメイン記録の記録速度より遅い場合、転送前のデータがメイン記録で上書きされることにより、コピー障害が発生する場合があります。ご使用前に十分確認されることをおすすめします。



【LAN Aアドレス設定】

1 IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定する。

- ・ MACアドレスは、<LAN A NASハードディスクの通信設定をする>の画面の下部に表示されます。

- ❗ LAN AとLAN Bに同じIPアドレス、ネットワークアドレスを設定しないでください。
- ❗ IPアドレスを000.000.000.000に設定しないでください。また、ブロードキャストアドレスにも設定しないでください。これらに設定した場合は、通信機能だけでなくレコーダー本体の他の動作も保証できなくなります。
- ❗ 記録中は、設定変更できません。設定変更を行う場合は、記録を停止してください。

【デバイス情報】

2 NASデバイス1~8のIPアドレス、Directoryを確認する。

- ・ 確認後、実際の接続状態をNASデバイス接続テストで試験することができます。NASデバイス接続テストをするには、「接続テスト」を選択してください。
- ・ IPアドレス、Directoryを入力する場合は、本機のWeb機能を使用してください。

3 <LAN A NASハードディスクの通信設定をする>の画面で、「前に戻る」を選択する。

- ・ 設定が変更されると、自動的に電源が切れたあと、再起動します。

❗ NASハードディスクの設定について

NASハードディスクを本機で使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 NASハードディスクの情報を調べる

接続するNASハードディスクのIPアドレスとネットワークを介して共有できるDirectoryの情報を調べます。詳しくは、NASハードディスクを管理しているNASハードディスク管理者、ネットワーク管理者にご相談ください。

2 WebブラウザでNASハードディスクの設定をする

接続するNASハードディスクのIPアドレスとDirectoryは、本機のWeb通信機能の設定メニュー(NAS設定)を使用して設定をしてください。(P.109ページ)

設定ができれば、接続テストを行い、テストが成功することを必ず確認してください。

3 NASデバイス

本機の<システムメニュー>中の<通信設定>の「NASデバイス1~8情報」で、NASデバイスのIPアドレス、Directoryが設定したとおりに表示されているか確認します。

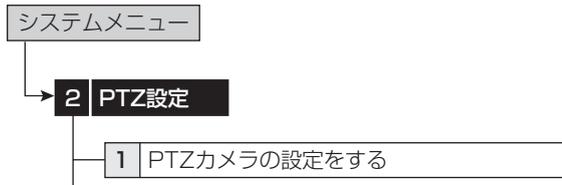
以上で登録は完了です。

外付け機器として使用するには、さらに<デバイス登録>メニューで使用用途(コピー1デバイスまたはコピー2デバイス)を設定してください。(P.83ページ)

接続している各カメラを制御するための設定を行います。

■ PTZカメラの設定をする

制御するカメラの詳細設定を行います。



- 1 設定するカメラ番号を選択する。
- 2 手順1で選んだカメラ番号の詳細を設定する。

「カメラ名」: 接続しているカメラまたはコントローラーの種類を設定します。

「ポート」: 制御信号の出力端子を設定します。カメラやコントローラーの入力に合わせて自動的に選択されます。

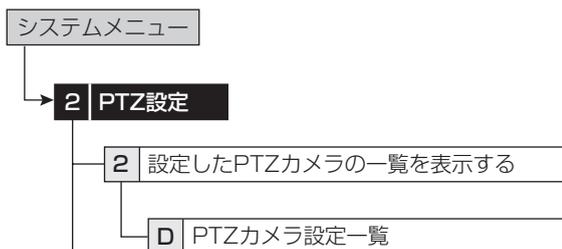
「カメラID」: 制御するカメラのアドレスを設定します。カメラやコントローラーと合わせます。

「パン反転」: 設置状態によって、パンする方向を反転させます。

「チルト反転」: 設置状態によって、チルトする方向を反転させます。

■ 設定したPTZカメラの一覧を表示する

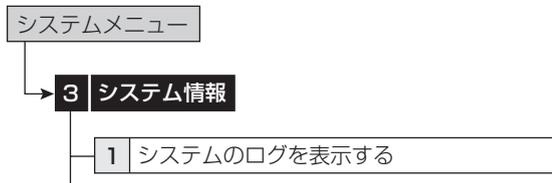
カメラやコントローラーの接続状態や、<PTZカメラの設定をする>で設定されたアドレスとポートを確認することができます。



- 1 <PTZ設定>メニューで<設定したPTZカメラの一覧を表示する>を選択する。

■ システムのログを表示する

システムログの件数・発生日・時刻を確認することができます。

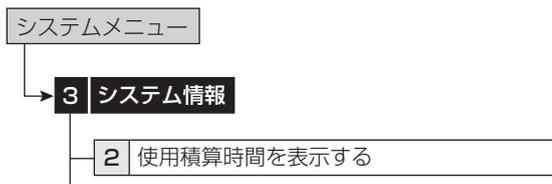


1 <システムのログを表示する>で、システムログを確認する。

- ・ <システムのログを表示する>は、1000件まで表示されます。それ以上の場合は、最後の1000件が表示されます。
- ➡ <システムのログを表示する>を表示中に障害が発生した場合、一度<システムのログを表示する>を終了して、再び表示させてください。新しいリストが追加されます。
- ➡ 記録を開始した場合、システムログリストに「REC ON」が登録されますが、停電復帰後の記録再開時には「REC ON」は登録されません。
- ➡ システムログリストで表示される項目 (P.114、115ページ)
 - <操作ログ>
 - 記録操作(本体) REC ON/REC OFF
 - 記録操作(後面端子) .. REC EXT ON/REC EXT OFF
 - 記録操作(通信) REC COM ON/REC COM OFF
 - 簡易ロック状態 PS-E
 - パスワードロック状態.. PS-1、PS-2、PS-3
 - ロック解除 PS-OFF、PS-4
 - メニューを開く MENU ON
 - メニューを閉じる MENU OFF
 - アラーム記録禁止 ALM OFF
 - アラーム記録許可 ALM ON
 - 停電 P-LOSS
 - リセット SYS RST
 - 通信 ログインユーザー名

■ 使用積算時間を表示する

システム、コピー1、コピー2デバイスの積算運用時間を確認することができます。

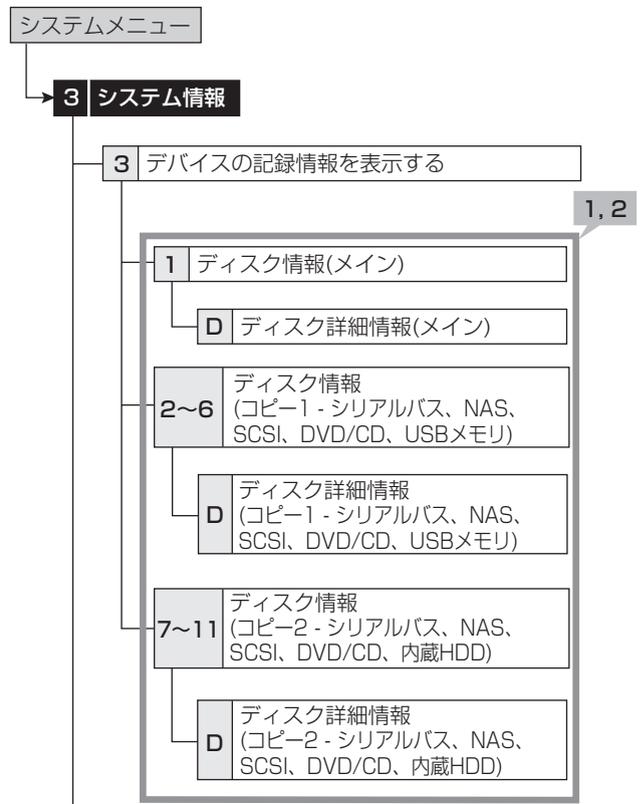


1 <使用積算時間を表示する>で、積算運用時間を確認する。

「-----Hr」: デバイスがグループに登録されていません。

■ デバイスの記録情報を表示する

メイン、コピー1、コピー2デバイスの記録範囲を確認することができます。



1 <デバイスの記録情報を表示する>で、希望するデバイスの「情報表示」を選択する。

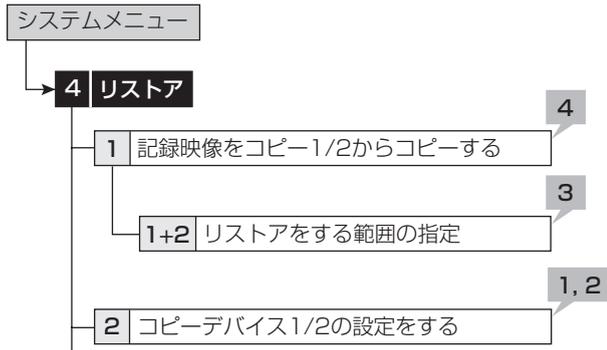
- ❗ 「アラーム記録エリア」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。
- ➡ LPAエリアの記録情報は表示しません。

2 各エリアに設定されているデバイスの詳細を確認するには、「詳細」を選択する。

- ・ 各エリアに設定されているデバイス接続名、デバイスメーカー、デバイス名、サイズ(GB単位)が表示されます。
- ・ 最新の情報を確認する場合は、記録停止中に<デバイス登録>メニューを表示させ、デバイスが正しく設定されていることを確認してから行ってください。

■ 記録映像をコピー1/2からコピーする／コピーデバイス1/2の設定をする

コピーデバイスからメインデバイスに、データをリストアすることができます。



1 リストアするカメラ番号を設定する。

- ・ 「無し」を押すたびに、ボタン機能は「無し」と「全て」の間で切り換わります。全カメラの「入」と「切」を簡単に設定することができます。

2 他の詳細を設定する。

「元-> デバイス」:リストアするデータを含むデバイスを「コピー1」、「コピー2」から設定します。

「元-> グループ」:リストアするデータを含むグループを設定します。

「->先 メイン」:リストア先のエリアを「通常」、「アラーム」、「LPA」から設定します。

「上書き設定」:現在のデータに上書きするかどうか選択します。

- ❗ 「->先 メイン」の「アラーム」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。
- ❗ 「->先 メイン」の「LPA」は、「ロングプリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

3 リストアする開始点または開始/終了を日付で指定する。

「開始点」:リストアする開始点のみ設定します。

「開始/終了」:リストアする開始点と終了点を設定します。

- ・ 最も古いデータからリストアを開始する場合は、「開始点読込」を、最新のデータまでリストアする場合は、「終了点読込」を選択します。

4 「リストア実行」を選択する。

- ・ リストアがスタートします。

- ❗ 記録中・再生中・コピー実行中は、リストアできません。
- ❗ リストア先のメインデバイスのリピート記録設定によらず、リストアはメインデバイスの終端で停止します。
再度リストアを行う場合は、警告を消去し、データを消去するか「上書き設定」を「上書き」に設定してください。
通常記録を開始する場合は、警告を消去してから行ってください。
- ➡ 映像は2MB単位で管理されています。そのため、リストアする場合、指定範囲から2MB単位でリストアされます。

■ HDDの追加／削除する

HDDをメインデバイスまたはコピーデバイスに設定します。

❗ 記録中・再生中は、設定できません。



【内蔵HDD】

1 内蔵HDDが、<内蔵HDD>の画面に表示されていることを確認する。

・ A～Dは、内蔵デバイス番号を示しています。

2 内蔵HDDをメインデバイスまたはコピー2デバイスとして登録するかどうかを設定する。

「メイン」:メインデバイスとして登録します。01～04の番号は、記録に使用される順序を表します。

「コピー2」:コピー2デバイスとして登録します。番号は、データを書き込む順序を表します。すべての内蔵HDDをコピー2デバイスに設定しないでください。

「未登録」:メインデバイスとして登録しません。

・ ボタンを押すたびに、ボタンの機能が「メイン」、「コピー2」、「未登録」の間で切り換わります。

【外付HDD】

3 本機のシリアルバスポートに接続されたHDDが、<外付HDD(シリアルバスHDD)>の画面に表示されていることを確認する。

・ デバイスのID番号の「SB:」ボタンを選択すると、対応するデバイスのアクセスLEDが点灯し、シリアルバスポートに接続されたHDDを確認することができます。

4 シリアルバスHDDをメインまたはコピーデバイスとして登録するかどうかを設定する。

「メイン」:メインデバイスとして登録します。番号は、記録に使用される順序を表します。

「コピー1」:コピー1デバイスとして登録します。番号は、データを書き込む順序を表します。

「コピー2」:コピー2デバイスとして登録します。番号は、データを書き込む順序を表します。

「未登録」:メインまたはコピーデバイスとして登録しません。

・ ボタンを押すたびに、ボタンの機能が「メイン」、「コピー1」、「コピー2」、「未登録」の順で切り換わります。

5 SCSI端子に接続したHDDが、<外付HDD(SCSI HDD)>の画面に表示されていることを確認する。

・ デバイスのID番号の「SCSI:」ボタンを選択すると、デバイスのアクセスLEDが点灯し、対応するデバイスを確認することができます。

6 SCSI HDDをメインまたはコピーデバイスとして登録するかどうかを設定する。

「メイン」:メインデバイスとして登録します。番号は、記録に使用される順序を表します。

「コピー1」:コピー1デバイスとして登録します。番号は、データを書き込む順序を表します。

「コピー2」:コピー2デバイスとして登録します。番号は、データを書き込む順序を表します。

「未登録」:メインまたはコピーデバイスとして登録しません。

・ ボタンを押すたびに、ボタンの機能が「メイン」、「コピー1」、「コピー2」、「未登録」の順で切り換わります。

7 NAS HDDが、<外付HDD(NAS HDD)>の画面に表示されていることを確認する。

・ NAS番号とIPアドレスは、<LAN A NASハードディスクの通信設定をする>での設定が表示されます。

8 NAS HDDをコピーデバイスとして登録するかどうかを設定する。

「コピー1」:コピー1デバイスとして登録します。番号は、データを書き込む順序を表します。

「コピー2」:コピー2デバイスとして登録します。番号は、データを書き込む順序を表します。

「未登録」:コピーデバイスとして登録しません。

・ ボタンを押すたびに、ボタンの機能が「コピー1」、「コピー2」、「未登録」の順で切り換わります。

❗ コピー1デバイスとして設定できるデバイスは、HDD、DVD-R、DVD-RW、CD-R、CD-RW、USBメモリー、NASです。

コピー2デバイスとして設定できるデバイスは、HDD、DVD-RW、DVD-R、NASです。

❗ SCSIおよびNAS対応機器については、販売店にご相談ください。

❗ コピーするデータは2MB単位で管理されています。2MBまでの最新のデータのコピーは遅れることがあります。コピーするデバイスを変更するときは、ご注意ください。

❗ シリアルバスに接続できるデバイスは、内蔵DVDを含めて16台です。これは、メインデバイス、コピー1、コピー2デバイスの総数となります。

❗ SCSIデバイスとして同時に使用できるのは、6台までです。SCSIデバイスを接続する場合は、オプションボードを取り付けてください。

❗ メインデバイスに登録されたデバイスの記録に使用される順序は、内蔵HDD→USB HDD→SCSI HDDとなります。

❗ メインデバイスとして使用できるHDDは、内蔵HDDを含めて16台までです。(これは、内蔵、シリアルバス、SCSIの総数となります。)

❗ コピー2デバイスとして使用するHDDは、内蔵、シリアルバス、SCSIまたはNASのいずれかからの選択となります。

❗ 登録された情報は、記録や再生などの動作中は正しく表示されない場合があります。

❗ メインデバイスのHDDが登録されていないと、USBメモリーを使用することはできません。

● 外付け機器使用時のご注意

本機は、さまざまな外付けHDDを接続し、メモリー拡張やコピー機器として使用することができますが、本機を使用し高レートで記録や再生を行うと、接続する機器によっては、データ転送速度や応答が遅いことにより、記録や再生での画像抜けなどが発生することがあります。実際の運用前に必ず確認して、ご使用いただくようお願いいたします。

本機のバスパワーを使用した外部機器の電源制御機能は、使用しないでください。

● HDDの取り付けと運用設定

内蔵HDDについては、[P.24～27ページ](#)

SERIAL BUSポートにHDDを接続する場合は、USB2.0ケーブルを使用して、機器を本機のSERIAL BUSポートに接続してください。本機が接続された機器を自動的に認識しますので、ID番号の設定は必要ありません。

SCSI HDDを接続する場合は、本機後面のオプションスロットに推奨のSCSIボードを取り付け、SCSI HDDのID番号を設定してから接続してください。ID番号が重複しないように注意してください。

内蔵・外付けともに、メインスイッチをOFFにしてから接続してください。

● メインデバイスとして登録した内蔵HDDと外付けHDDの記録・再生順序について

内蔵HDDは、以下の順序で記録・再生をします。

内蔵A→内蔵B→内蔵C→内蔵D(内蔵HDDをすべてメインデバイスに設定した場合)

内蔵HDDが完了すると、SERIAL BUSポートに接続されたHDDに移行します。記録順は、<外付けHDD(シリアルバスHDD)>画面([P.83ページ](#))の使用用途(「メイン」、「コピー1」、「コピー2」)の横の番号順となります。

シリアルバスHDDが完了すると、SCSI端子に接続されたHDDに移行します。記録順は、<外付けHDD(SCSI HDD)>画面([P.83ページ](#))の使用用途(「メイン」、「コピー1」、「コピー2」)の横の番号順となります。

SCSI HDDが完了すると、内蔵HDDに移行します。

内蔵HDDとSCSI HDDについては、HDDの削除や追加があっても順序は変化しません。例えば、内蔵AとCの運用中にBを取り付けると、BはAとCの間に挿入されます。

シリアルバスHDDは、新しく追加されたものが一番最後の番号に登録されます。

■ DVD/CDデバイスの追加/削除をする

DVD/CDドライブをコピー1または2のDVD/CDグループに登録します。

❗ 記録中・再生中は、設定できません。



1 DVD/CDドライブが、<DVD/CDデバイスの追加/削除をする>に表示されていることを確認する。

・ 「取出し」を選択すると、デバイスのアクセスLEDが点灯し、ディスクトレイが開きます。

2 DVD/CDドライブを登録したいデバイス番号(1または2)を選択する。

「コピー1」: コピー1デバイスとして登録します。

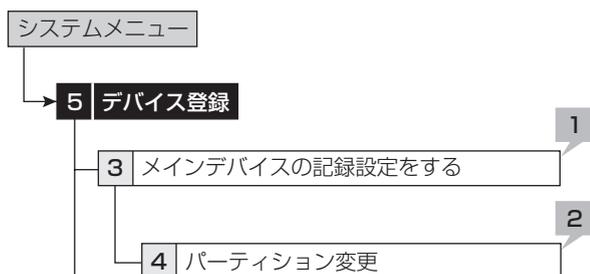
「コピー2」: コピー2デバイスとして登録します。

・ ボタンを押すたびに、ボタンの機能が「コピー1」、「コピー2」の順で切り換わります。

■ メインデバイスの記録設定をする

記録中に、メインデバイスの記録容量がなくなったときの動作を設定します。また、メインデバイスのパーティションの設定をします。

❗ 記録中・再生中は、設定できません。



【メインデバイスの設定】

1 それぞれのエリアのリピート記録の設定を選択する。

「入」:自動的にHDDの最初まで戻り、再び記録(上書き)を始めてます。

「切」:記録を停止し、画面に警告を表示します。再び記録をするときは、警告表示を消去して、記録/記録停止ボタンを押します。警告が表示されない設定になっていると、警告は表示されず記録が停止しますので、ご注意ください。

- ❗ 「アラーム記録エリアのリピート記録」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき設定できます。
- ❗ 「LPA(ロングプリアラーム)エリアのリピート記録」は、「ロングプリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき設定できます。
- ❗ 警告は、画面上に「注意」と表示されます。過去16件の警告を保存していますが、それ以前に発報された警告はリセットされ、表示は消去されます。
- ❗ ロングプリアラームエリアの記録では、残量がなくなると過去の記録データを全て消去し、上書きをします。リピート記録を入に設定している場合は、ご注意ください。
- ❗ 「アラーム記録エリアのリピート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)が「切」に設定され、アラームエリアの記録容量がなくなると、アラーム記録は停止します。そのあと、アラームが入っても、インジケータは点滅しますが、記録は行いません。「アラーム記録エリアのリピート記録」を「入」に設定するか、アラームエリアのデータを消去して、記録を再開してください。

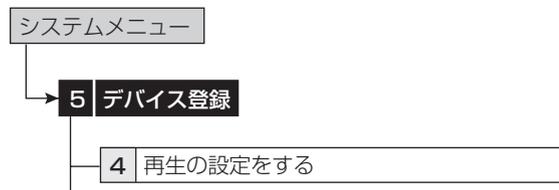
【パーティション変更】

2 メインデバイスのパーティションを設定する。

- ・ アラーム記録エリア、ロングプリアラームエリアの容量を設定します。
- ・ アラーム記録エリアが「0%」以外に設定されているとき、メインデバイスのHDDは、指定されたエリアをアラーム記録のための独立した容量として使用できるように分割されます。
- ・ ロングプリアラーム記録については、P.58ページ
- ➡ 通常記録エリアを「通常エリア」、アラーム記録エリアを「アラームエリア」、ロングプリアラーム記録エリアを「LPAエリア」と呼びます。
- ➡ 通常、アラーム、LPAエリアの合計が100%になると、それ以上容量を増やすことはできません。
- ➡ 通常エリアを「0%」に設定することはできません。
- ❗ 再生、検索、情報表示、モードアウト設定、残量設定、コールアウト設定、記録映像消去機能は、「通常エリア」、「アラームエリア」、「LPAエリア」それぞれ個別に独立して設定が行えます。
- ❗ 記録データをコピーする場合は、通常、アラーム、LPAエリアのいずれかを選択可能です。
- ❗ 「アラームCH」が設定されているときに、通常記録中にアラーム信号が通常記録に運用されていないカメラ番号に入力されると、プリアラーム記録が行われない場合があります。

■ 再生の設定をする

❗ 記録中・再生中は、設定できません。



【リピート再生】

HDDに記録されている内容を、繰り返し再生することができます。

1 それぞれのエリアに、リピート再生の設定をする。

「入」:記録されているデータの終わりまで再生すると、自動的に記録されているデータの最初まで戻り、再び再生を始めます。

「切」:記録されているデータの終わりまで再生すると、停止します。

【改変確認再生】

この機能は、本機で記録した映像に改変処理が施されたかどうかを確認するための機能です。改変が確認されると、「改変データを検知しました」が表示されます。

2 設定を選択する。

「入」:再生中に改変処理識別を行い、改変部分で警告を表示します。

「切」:改変処理識別を行いません。

3 改変処理識別したいデバイスを選択し、再生する。

・出力Aで再生・表示中のカメラの画像に対して改変処理識別を行います。出力Bで再生している場合は、検出しません。また、出力Aおよび出力Bで再生している場合、出力Aで再生中のすべての画像に対して検出はできません。

❗ 記録、再生時に支障をきたす場合がありますので、通常は「切」に設定してください。

❗ 何らかの原因で記録データが破損した部分を再生した場合にも、警告を表示します。

❗ 改変確認中にシャトルで煩雑な再生操作を行うと、警告表示「改変データを検知しました」が表示されることがあります。改変確認は、再生または再生コマ数変更による再生で行ってください。

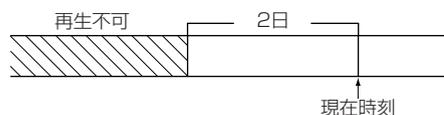
【データ保存期間設定】

この機能は、再生デバイスの一定時間以上古いデータを再生できなくするための機能です。一定期間以上のデータを保持することを防止することができます。

4 希望する期間を設定する。

・現在時刻から設定時間または日数以前のデータは、再生できなくなります。現在時刻から逆算して、設定した時間分のデータのみが再生できるようになります。

例: "2日"に設定したとき

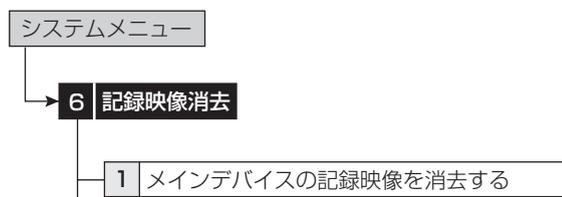


➡ 画像は、2MBごとに管理されているため、再生可能な時間が、設定された値よりも多少長くなることがあります。

■ メインデバイスの記録映像を消去する

メインデバイスの通常記録エリア、アラーム記録エリア、LPA記録エリアのデータを消去します。

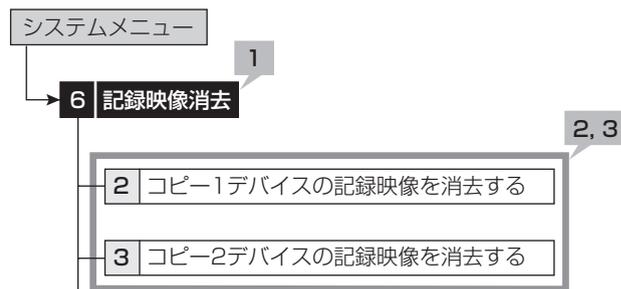
- ❗ 「アラーム記録エリア」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき設定できません。
- ❗ 「LPA記録エリア」は、「ロングプリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき設定できません。



- 1 消去したいデータを含むエリアの「消去」を選択する。
 - 2 「実行」を選択する。
 - ・ 消去が完了すると、画面に「データの消去が完了しました」が表示されます。
- ❗ ディスク管理パスワードを登録してパスワードロックを設定しているときにメインデバイスのデータ消去を実行すると、ディスク管理のパスワードロックを解除する画面が表示されます。最初にパスワードロックを解除してから、データを消去してください。
 - ❗ 再生/記録/コピー/リストアなどHDDアクセス中は、データを消去できません。ご注意ください。

■ コピー1デバイスの記録映像を消去する／コピー2デバイスの記録映像を消去する

コピー1、コピー2のデバイス中のそれぞれのグループのデータを消去します。



- 1 コピー1または2デバイスを選択する。
 - 2 消去したいデータを含むグループの「消去」を選択する。
 - 3 「実行」を選択する。
 - ・ 消去が完了すると、画面に「データの消去が完了しました」が表示されます。
- ❗ コピーデバイスのデータは、メインデバイスに記録中でも消去することができます。
 - ❗ DVDのデータの消去には、約30～40分かかりますので、ご注意ください。

その他の便利な機能

■ カスケード

接続した最大16台のDX-TL5500の映像・音声を、ひとつのモニターで監視することができます。接続されたすべてのDX-TL5500のマルチプレクサ機能と接続されたすべてのカメラのPTZ操作が、マスターレコーダーから行えます。

❗ カスケード機能を使用する前に、以下のことを確認してください。

- ・ レコーダーが、RS-485端子で接続されている。映像・音声がかスケード接続されている。(P.23ページ「カスケード接続」)
- ・ マスターレコーダーのID番号が「マスタID:01」に設定されており、スレーブレコーダーのID番号が「スレーブID:01~16」のいずれかに設定されている。(P.77ページ「RS-485カスケード接続の設定をする」)

本機をマスターレコーダーにして、他のDX-TL5500を制御する場合について説明します。

本機のID番号を「マスタID:01」に設定します。他のDX-TL5500のID番号を「スレーブID:02」などに設定します。

以上の設定を行うと、前面のLCDディスプレイに「CASCADE MODE」が表示されます。以下は、本機を操作し、他のDX-TL5500の映像を見る方法についての操作です。

1 PTZボタンを2秒以上押す。

- ・ 本機が、カスケードモードに切り換わります。
- ・ スレーブレコーダーのLCDに、カスケードモードの状態が表示されます

カスケードモード(接続中)

2004-01-01 00:00:00
CASCADE ON

カスケード待機モード

2004-01-01 00:00:00
CASCADE MODE

2 1の操作後3秒以内に制御したいスレーブレコーダーのID番号に対応したカメラ番号ボタンを押す。

- ・ 本機がカスケードモードに切り換わってから3秒以内に、カメラ番号ボタンを押して下さい。
- ・ 選択されたレコーダーからの映像は、マスターレコーダーのVIDEO CASCADE OUT端子に接続されたモニターに表示されます。マスターレコーダーの前面部のボタンを使って、スレーブレコーダーのマルチプレクサ機能が操作できます。また、マスターレコーダーのPTZ操作で、スレーブレコーダーに接続されたカメラのPTZ操作をすることができます。
- ・ 制御されているスレーブレコーダーのID番号は、マスターレコーダー前面部のLCDに表示されます。

2004-01-01 00:00:00
CASCADE ID02

モニター画面にも表示されます。

3 他のレコーダーを制御するときは、ステップ1、2を繰り返す。

- ・ スレーブレコーダーの操作を中止するには、PTZボタンを2秒以上押して、マスターレコーダーに接続したカメラからの映像を再び表示させます。

➡ カスケードモード中は、スレーブレコーダーからの映像はマスターレコーダーのVIDEO CASCADE OUT端子に接続されたモニターに表示されます。

➡ オプションのキーボードDX-KB5を使用して、複数のレコーダーを操作することもできます。接続および操作方法は、P.23ページおよびキーボードの取扱説明書をご覧ください。

■ いろいろな再生

◆ 静止画再生

本機は、ジョグ、シャトルやボタン操作による、いろいろな再生機能を備えています。

1 再生中に一時停止ボタンを押す。

- ・ 静止画再生になります。もう一度押すと、再生に戻ります。
- ・ 1画の静止画表示中にカメラ番号(1~16)ボタンを押すと、押した番号のカメラの映像を表示します。

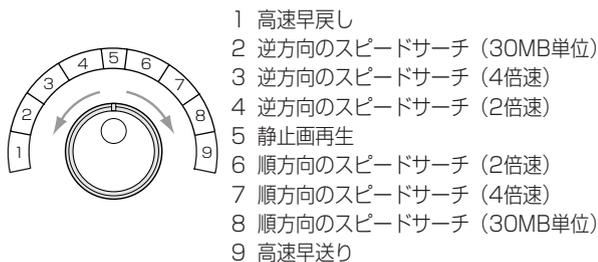
- ① 静止画再生中に1画面表示のためにカメラ番号ボタンを押すと、カメラによっては近傍に映像が記録されていない場合や、静止画表示したタイミングにより映像が表示されない場合があります。

◆ シャトル再生/ダイレクトシャトル再生

静止画再生中や再生/逆再生中にシャトルを回すと、再生速度を変えることができます。

1 静止画再生中(シャトル再生)、再生中または逆再生中(ダイレクトシャトル再生)にシャトルを回す。

- ・ 再生の速さは、シャトルを回す角度により異なります。
- ・ シャトルから手を離すと、シャトルが中央の位置に戻り、静止画再生に戻ります。



◆ シャトルホールド

シャトル再生中にシャトルから手を離しても、再生速度を保持することができます。

1 シャトル再生中に、シャトルをその角度で保持したまま、一時停止ボタンを押す。

2 シャトルから手を離す。

- ・ 再生速度を保持します。
- ・ シャトルホールドを解除するときは、一時停止ボタンを押すと静止画再生になります。

◆ コマ送り

1 静止画再生中に、ジョグを回す。

- ・ 右に回す：順方向のコマ送りになる。
- ・ 左に回す：逆方向のコマ送りになる。
- ・ 右に回し続ける：順方向の連続コマ送りになる。
- ・ 左に回し続ける：逆方向の連続コマ送りになる。
- ・ ジョグを回すのをやめる：静止画再生に戻る。

- ❗ 1画表示のコマ送りの場合は、表示しているカメラ番号の映像を検索しながらコマ送りするため、ジョグを早く回すとコマ送り動作が追いつかなくなることがあります。

◆ 逆再生

1 停止中に逆再生ボタンを押す。

- ・ 逆方向の再生になります。再生停止ボタンを押すと、停止します。

- ① フレーム記録された画像を逆再生する場合は、フィールド再生(記録された画像の片フィールドのみの再生)となります。

- ② 電源を入れたあと、最初に逆再生をした場合は、最後に記録した映像から逆再生を始めます。

◆ 高速早送り/早戻し再生

1 停止中にシャトルを1秒以上回し続ける。

- ・ 右に1秒以上回し続ける：高速早送り再生状態を保持します。
- ・ 左に1秒以上回し続ける：高速早戻し再生状態を保持します。
- ・ 再生停止ボタンを押す：停止します。

◆ 再生コマ数の変更

再生中または逆再生中は、記録時の記録コマ数と同じコマ数で再生されますが、本機では再生コマ数を変更することができます。動きの速い記録をゆっくりと連続再生したいとき、少ない記録コマ数で記録した映像をコマ飛ばしせず早く再生したいとき、などに便利です。

1-1 (少ない記録コマ数の記録映像を早く再生する場合)

再生中または逆再生中に、+ボタンを押す。

- ・ トータルのコマ数が120ppsの速度で再生または逆再生されます。

1-2 (再生速度を遅くする場合は・・・)

-ボタンを押す。

- ・ 押すたびに、再生速度が遅くなります(0.125ppsまで)。

2-1 (動きの速い記録映像をゆっくり再生する場合)

再生中または逆再生中に、-ボタンを押す。

- ・ 1カメラあたり0.125ppsの速度で再生または逆再生されます。

2-2 (再生速度を速くする場合は・・・)

+ボタンを押す。

- ・ 押すたびに、再生速度が早くなります(120ppsまで)。(120pps以上の速度で記録された映像は、+ボタンを押すと、再生速度が遅くなる場合があります。)

- ❗ 再生コマ数を変更すると、音声は再生されません。

- ❗ 一度再生コマ数を変更すると、もとの再生コマ数に戻しても音声は再生されません。音声を再生したい場合は、一度再生を停止したあと、再び再生を始めてください。

- ❗ 再生コマ数を変更して、少ない記録コマ数の映像を速く再生する場合、実際の記録時間に対し画面に表示される記録時間が同期しないときがあります。

その他の便利な機能(つづき)

◆ 記録中の同時再生

記録を続けながら、記録済みのデータを同時に再生することができます。

- ❗ 再生中の映像が、一時的に停止したり、音声が途切れたりすることがあります。
- ❗ シャトル再生中に、映像にノイズが出たりすることがあります。
- ➡ 分割表示は、記録/再生それぞれ独立して選択することができます。

◆ 最新映像の再生

1 停止中に一時停止(終了点サーチ)ボタンを押す。

- ・ 最新の記録部分の終端付近で静止画再生となります。記録コマ数によって、最新記録部分からの時間はばらつきがあります。

◆ ライブ中再生

カメラからの映像を表示中に、希望のカメラ番号の再生画像を挿入して見ることができます。

1 分割画面表示中に、ライブ中再生ボタンを押す。

- ・ 本機が、ライブ中再生モードに切り換わります。

2 1の操作後3秒以内に、再生画像を挿入したいカメラ番号のボタンを押す。

- ・ 選択されたカメラ番号の再生画像が表示されます。
- ・ 再生画像のカメラ番号を切り換える場合は、一旦再生を停止してから上記の手順1、2を行ってください。

3 再生をやめるときは、停止ボタンを押す。

- ❗ ライブ中再生は、出力AまたはBで行うことができます。
- ❗ 本機がライブ中再生モードに切り換わってから3秒以上カメラ番号ボタンが押されない場合は、ライブ中再生モードは解除されます。
- ❗ 分割画面に表示されていないカメラ番号の再生画像を表示することはできません。この場合、ライブ中再生モードは解除されます。
- ❗ ライブ中再生モードに切り換わってから、カメラ番号ボタン以外のボタンを押した場合は、ライブ中再生モードは解除されます。
- ❗ ライブ中再生中に違う種類の分割画面が表示されると、ライブ中再生モードは解除されます。(ライブ中再生しているカメラ番号の画像が、表示された分割画面に含まれている場合は、分割画面を変更しても、ライブ中再生は継続されます。)
- ❗ アラームディスプレイ表示機能がはたらいているときは、ライブ中再生は使用できません。また、ライブ中再生中にアラームディスプレイ表示機能がはたらいた場合、ライブ中再生は解除され、アラームディスプレイ表示が終了した後は、通常のカメラからの映像の表示となります。
- ❗ 再生を開始したデータに再生したいカメラの画像が含まれていない場合、青色の画面になります。
- ❗ ライブ中再生時に表示される画面上の時刻は、再生データの時刻となります。

■ 画像の登録

本機では、ブックマークボタンを使って、ブックマークを登録したり、表示されている画像をコピーしたりすることができます。

◆ ブックマークの登録

- 1 画再生中に一時停止ボタンを押す。
 - ・ 1画面の静止画再生になります。
 - 2 本機前面のブックマークボタンを押す。
 - 3 選択画面で、「ブックマーク登録」の「登録」を選択する。
 - 4 1～8を押すと、その番号に対応したブックマークが登録されます。
 - ・ 例えば、1を押すと、ブックマーク1が登録されます。
 - ・ ブックマークは、メインデバイス(ノーマル、アラームエリア)にのみ登録できます。パーティションを運用設定している場合は、ノーマル、アラームそれぞれで8カ所のブックマークを登録することができます。
- ➡ 分割画面が表示されている時は、ブックマークボタンははたらかしません。
 - ➡ 同じ位置に異なる番号のブックマークを重複して登録することができます。
 - ➡ すでに登録されているブックマーク番号に新しいブックマークを上書きすることはできませんが、消去することはできません。
 - ➡ ブックマークが記録されたデータが上書き記録されると、ブックマークは消去されます。

◆ ピクチャーコピー

- 1 上記「ブックマークの登録」の手順1、2を行う。
 - 2 「DVD/CDにコピーする」または「USBメモリにコピーする」の「コピー」を選択する。
 - ・ 画像がコピーされます。
- ➡ フレーム記録された画像の場合は、ODD側のみコピーします。
 - ➡ パーソナルコンピューターでの再生方法
ピクチャーコピーした画像は、パーソナルコンピューターでのみ再生が可能です。P.50ページに記載されている動作環境が整っているパーソナルコンピューターで、データを保存したメディアの中の「P_REC」フォルダ内にあるプログラムファイルをダブルクリックすると、画像が表示されます。

■ 停電時の機能

◆ 停電補償回路

本機は、停電補償回路を内蔵していますので、48時間以上の充電(フル充電時)を行えば非通電状態でも日付・時刻の設定、タイマー記録やメニュー画面の設定は約1ヶ月保たれます。

長い時間電源プラグがコンセントから外れていると、時刻精度が多少悪くなります。

このような状態が続いたときは、現在時刻設定を確認することをおすすめします。

◆ 停電復帰記録

記録中に停電しても、停電復帰後に再び記録を開始します。タイマー記録中に停電すると、設定時間内であれば停電復帰後に再び記録を開始します。アラーム記録中は、設定記録時間内でも記録を停止しません。

- ❗ 記録中に停電が発生した場合、停電直前から最大6MBの映像や音声は記録されません。プリアラームの記録時間を0秒以外に設定した場合は、最大32MBの映像や音声は記録されません。
- ➡ アラーム記録中、エマージェンシー記録中に停電が発生した場合、停電復帰後アラーム記録、エマージェンシー記録は解除されます。
- ➡ 記録を開始した場合、システムログリストに「REC ON」が登録されますが、停電復帰後の記録再開時には「REC ON」は登録されません。
- ➡ 停電復帰後に再び記録を開始したところは、再生映像が一部乱れたり、サーチ機能が正常にはたらかないことがあります。

◆ 後面部MAINスイッチOFF操作時の履歴の記録

停電発生ならびに、通電中の後面部のMAINスイッチOFF操作時の日時情報と障害履歴表示が、他の障害履歴と合わせて最大1000件まで、システムログリスト(P.81ページ<システムのログを表示する>)に登録されます。

■ RESETボタン

後面部のRESETボタンをボールペンなどで押すと、本機マイコンがリセットされ、電源が切れます。

- ➡ このとき、メニュー設定、現在時刻および映像データはそのまま取り消されず保持されます。

運用例

■ 運用例1

期間を指定して、連続レポート記録を行う運用例です。

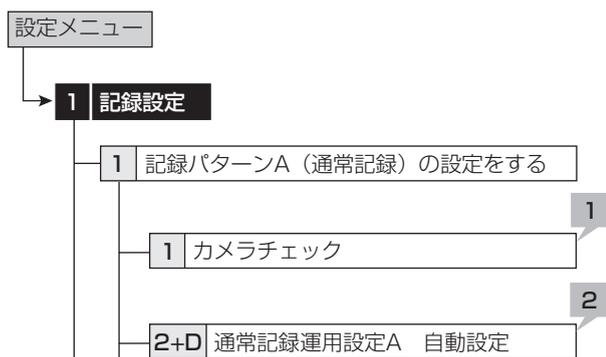
➡ カメラ映像の取り込みに関しては、[136ページ](#)「設定カメラ数・記録コマ数設定と記録動作の関係」をごらんください。

◆ 運用

- ・ 24時間連続記録を行い、1ヶ月(30日)でレポート記録を行う。
- ・ 記録データのバックアップも同時に行う。

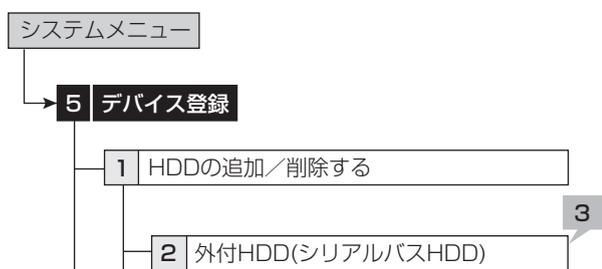
◆ 設定

● 記録設定([135～137ページ](#))



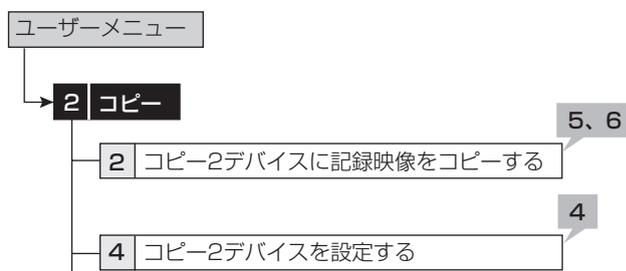
- 1 カメラチェックを実施して、映像のある接続カメラの自動検出を行う。
- 2 「自動」を使用して、「記録時間」を「30日」に、「記録時間/日」を「24時間」に設定する。

● コピーデバイスの設定([83,84ページ](#))



- 3 コピー2のシリアルバスグループに複数台のHDDを登録する。

● バックアップの設定([48,49ページ](#))



- 4 「->先 コピー2」を「シリアルバス」に、「レポート書込み」を「レポート」に、「上書き設定」を「追記」に設定する。

- 5 「コピーをする範囲の指定」を「続きから」に設定する。

- 6 「コピー実行」を選択する

➡ メインデバイスの全容量よりコピー2デバイスの全容量を大きく設定(デバイスの登録)をすることにより、メインデバイスの全ての記録データをコピー2デバイスへコピーすることができます。本運用の場合、コピー2デバイスに30日以上メインデバイスのデータを残すことができます。これにより、不意のメインデバイスのクラッシュに対して、記録データの喪失の心配を軽減することができます。

■ 運用例2

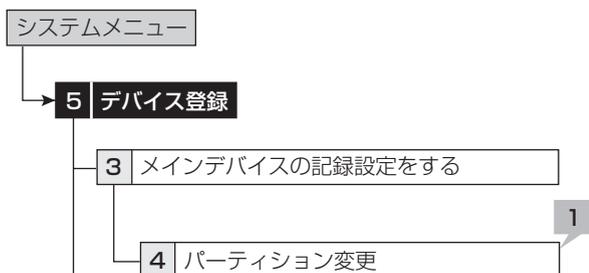
記録エリアを、通常記録とアラーム記録とで分けて記録を行う運用例です。

◆ 運用

- ・ 指定した記録コマ数でアラーム記録を行う。
- ・ 通常記録は、指定した記録コマ数でリピート記録する。
- ・ アラーム記録データと通常記録データを別のエリアに保存することで、アラーム記録データを長期間保存する。

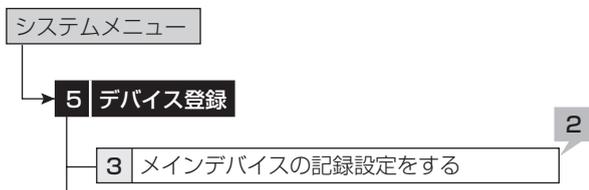
◆ 設定

● アラームエリアの設定 (☞ 85ページ)



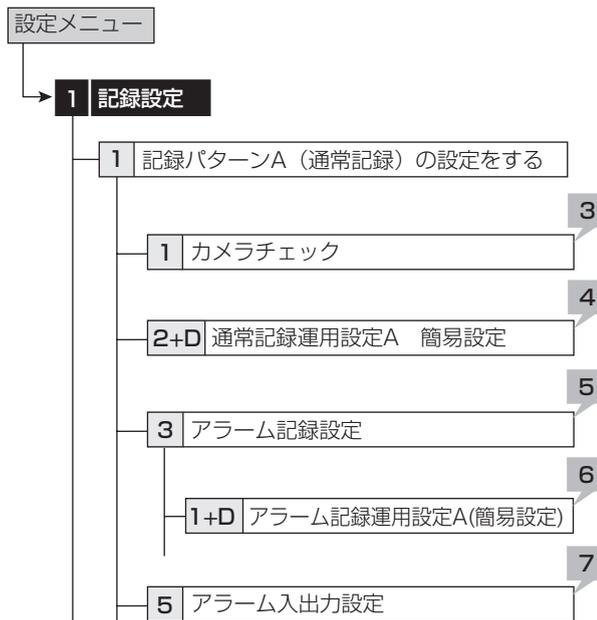
1 通常エリアとアラームエリアを設定する。

● リピート記録の設定 (☞ 85ページ)



2 通常記録エリアは「入」に、アラーム記録エリアは「切」に設定する。

● 記録設定 (☞ 55～57ページ)



3 カメラチェックを実施して、映像のある接続カメラの自動検出を行う。

4 希望の通常記録の記録コマ数を「簡易」を使用して設定する。

5 アラーム記録モードを「アラームCH」に設定する。

6 希望のアラーム記録の記録コマ数を「簡易設定」を使用して設定する。

7 「アラーム入出力設定」の「アラーム入力」を「端子」に設定する。

◆ パーティションの割合のめやす

アラーム記録領域を計算するときには、下記の例を参考にしてください。

(例)

アラーム記録の時間を15秒に設定する。

1日のアラーム記録の回数は80回とする。

アラーム記録データを3ヶ月保存する。

アラーム記録の画質はスーパー(35キロバイト)、記録コマ数は30ppsとする。

1) パーティション機能がオフ(アラーム領域の割合が0%)のときに、通常記録の画質スーパー、記録コマ数30pps、記録するカメラが1台の場合の連続記録可能時間は404時間である。(通常記録設定を「手動」で設定し、設定内容確認画面で連続記録可能時間を確認する。)

2) 1日のアラーム記録時間は、 $15\text{秒} \times 80\text{回} = 1200\text{秒}(20\text{分})$

3) 1ヶ月のアラーム記録時間は、 $20\text{分} \times 30\text{日} = 600\text{分}(10\text{時間})$

4) 連続記録可能時間は、404時間のため、 $10\text{時間} \div 404\text{時間} = 2.4\%$

5) 裕度を考えると、5%となる。

❗ 上記は、「アラーム記録モード」が「アラームCH」に設定されているときのめやすとなります。実際に運用を行い、パーティションの割合を調整してください。

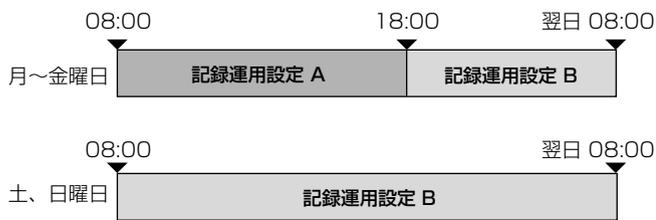
運用例(つづき)

■ 運用例3

タイマー予約で運用します(1)。タイマー記録運用を用いて、時間帯や曜日によって運用するカメラ台数、記録コマ数の切り換えを行う運用例です。

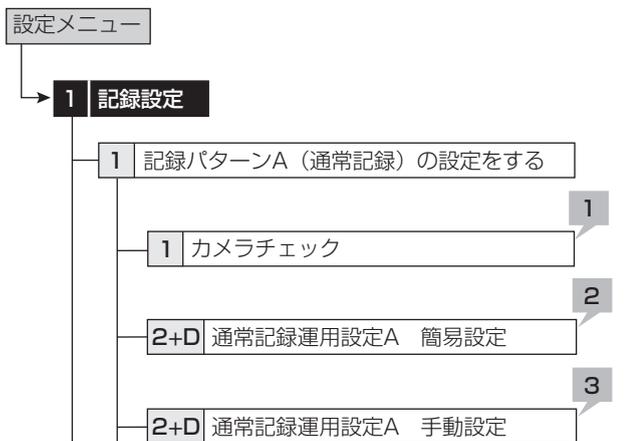
◆ 運用

- ・ 月～金曜の、08:00から18:00に<記録運用設定A>を使用する。
- ・ 月～金曜の、18:00から翌日08:00に<記録運用設定B>(アラーム記録運用:動き検知B記録)を使用する。
- ・ 週末の土・日曜日には、08:00から翌日08:00まで<記録運用設定B>を使用する。



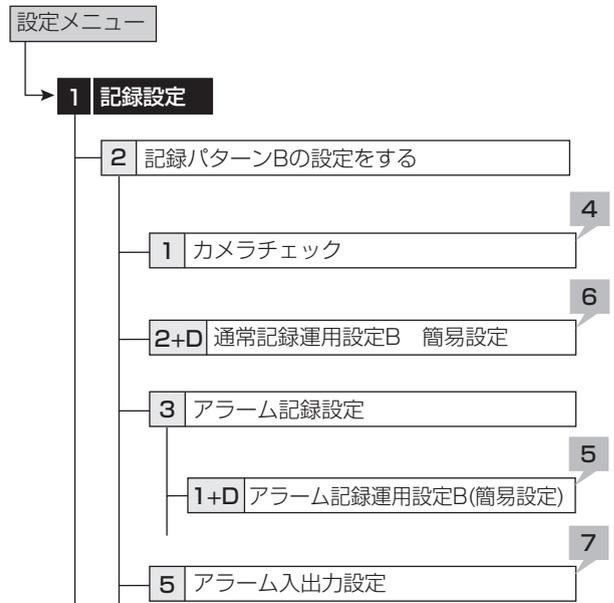
◆ 設定

● 記録設定A(☞55～57ページ)



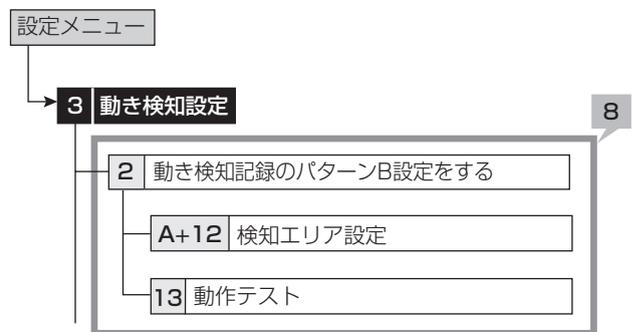
- 1 カメラチェックを実施して、映像のある接続カメラの自動検出を行う。
- 2 希望の通常記録の記録コマ数を「簡易」を使用して設定する。
- 3 「手動」を使用して、不要なカメラの記録コマ数を「-」に設定し、非記録設定とする。

● 記録設定B(☞55～57ページ)



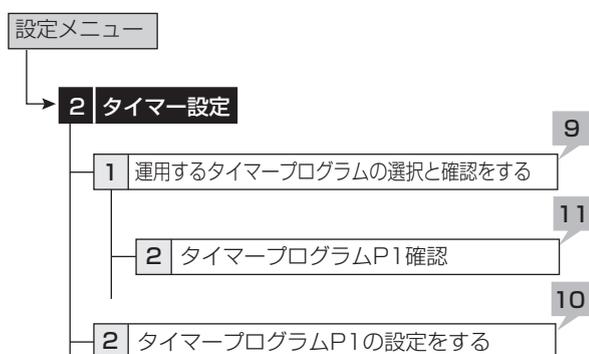
- 4 カメラチェックを実施して、映像のある接続カメラの自動検出を行う。
- 5 希望のアラーム記録の記録コマ数を「簡易」を使用して設定する。
- 6 通常記録の全カメラの記録コマ数を「簡易」を使用して「-」に設定する。
- 7 「アラーム入出力設定」の「アラーム入力」を「動き検知B」に設定する。

● 動き検知設定(☞62、63ページ)



- 8 動き検知Bの動き検知設定を行う。

● タイマー記録設定(☞60、61ページ)



9 タイマープログラム選択を「P1」に設定する。

10 下表のとおり、詳細設定を行う。

	曜日	時間	運用	動き検知	指定曜日
プログラム番号1	指定	08:00-18:00	運用設定A	切	月 - 金
プログラム番号2	指定	18:00-08:00	運用設定B	入	
プログラム番号3	土	08:00-08:00	運用設定B	入	
プログラム番号4	日	08:00-08:00	運用設定B	入	

11 <タイマープログラムP1確認>で、タイマー運用の確認と記録可能時間(可能日数)を確認する。

12 メニュー画面を消す。

13 本機前面部のタイマーボタンを押す。

運用例(つづき)

■ 運用例4

タイマー予約で運用します(2)。タイマー記録運用を用いて、時間帯や曜日によって運用するカメラ台数、記録コマ数の切り換えを行う運用例です。また、動き検知記録設定を行い、時間帯(昼と夜)や曜日によって動き検知条件を切り換えます。

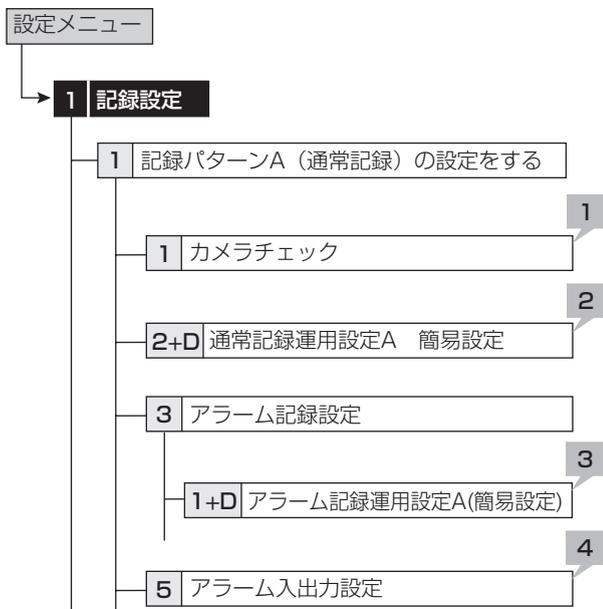
◆ 運用

- ・ 月～金曜の、08:00から18:00に<記録運用設定A>(アラーム記録運用:動き検知A)を使用する。
- ・ 月～金曜の、18:00から翌日08:00に<記録運用設定B>(アラーム記録運用:動き検知B)を使用する。
- ・ 週末の土・日曜日には、08:00から翌日08:00まで<記録運用設定B>を使用する。



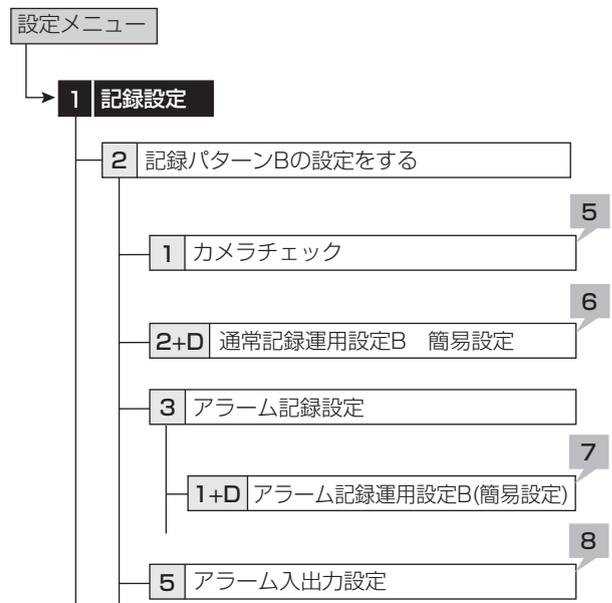
◆ 設定

● 記録設定A(☎55～57ページ)



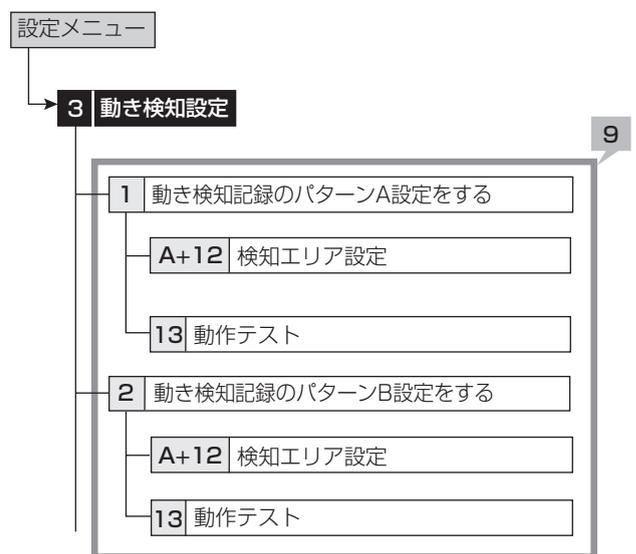
- 1 カメラチェックを実施して、映像のある接続カメラの自動検出を行う。
- 2 希望の通常記録の記録コマ数を「簡易」を使用して設定する。
- 3 希望のアラーム記録の記録コマ数を「簡易設定」を使用して設定する。
- 4 「アラーム入出力設定」の「アラーム入力」を「動き検知 A」に設定する。

● 記録設定B(☎55～57ページ)



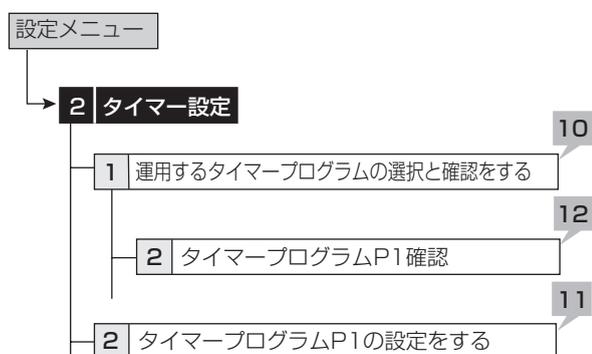
- 5 カメラチェックを実施して、映像のある接続カメラの自動検出を行う。
- 6 希望の通常記録の記録コマ数を「簡易」を使用して設定する。
- 7 希望のアラーム記録の記録コマ数を「簡易設定」を使用して設定する。
- 8 「アラーム入出力設定」の「アラーム入力」を「動き検知 B」に設定する。

● 動き検知設定(☎62、63ページ)



- 9 動き検知Aおよび動き検知Bの動き検知設定を行う。

● タイマー記録設定(☞60、61ページ)



10 タイマープログラム選択を「P1」に設定する。

11 下表のとおり、詳細設定を行う。

	曜日	時間	運用	動き検知	指定曜日
プログラム番号1	指定	08:00-18:00	運用設定A	入	月 - 金
プログラム番号2	指定	18:00-08:00	運用設定B	入	
プログラム番号3	土	08:00-08:00	運用設定B	入	
プログラム番号4	日	08:00-08:00	運用設定B	入	

12 <タイマープログラムP1確認>で、タイマー運用の確認と記録可能時間(可能日数)を確認する。

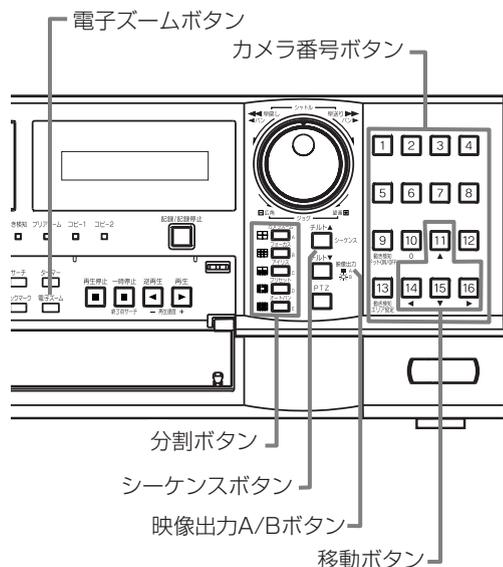
13 メニュー画面を消す。

14 本機前面部のタイマーボタンを押す。

基本機能

■ マルチプレクサ機能

本機前面部に配置されているボタンを使って、マルチプレクサ機能を操作することができます。



電子ズームボタン

1画表示中に拡大ボタンを押すと、1倍画面が表示され、拡大中心点(X)が表示されます。さらに押すと2倍、4倍と拡大表示されます。移動ボタンを押すことにより、中心点を、上下左右へ移動させることができます。(P.68ページ「電子ズームボタンの動作」)

拡大ボタンを押すことにより、カメラ番号ボタン11、14、15、16の機能が移動ボタンに切り換わります。

◆ マルチプレクサボタン

カメラ番号ボタン(1～16)

本機後面部のCAMERA IN端子1～16に接続されたカメラの映像を、画面に1画表示します。

- ➡ カメラ番号ボタンを押すことにより、接続されているカメラが記録運用に設定されていなくても、映像を表示することができます。

分割ボタン

以下の順番に、分割画面を表示します。

4分割ボタン(田)：4分割a→4分割b→4分割c→4分割d→4分割a→…

9分割ボタン(田田)：9分割a→9分割b→9分割a→…

10分割ボタン(田田田)：10分割a→10分割b→10分割a→…

13分割ボタン(田田田田)：13分割a→13分割b→13分割a→…

16分割ボタン(田田田田田)：16分割

シーケンスボタン

分割画面または1画表示のシーケンシャル画面を表示します。詳細設定は、<マルチプレクサの設定をする>(設定メニュー→システム設定→マルチプレクサの設定をする)で行います。再生中は、シーケンシャル表示はできません。

- ➡ シーケンシャル表示は、シーケンスボタンをもう一度押すか、異なったタイプの分割画面または1画表示を表示させると解除されます。
- ➡ 前面部の映像出力A/Bボタンを押すと、マルチプレクサ出力が切り換わります。出力Aが選択されると、ボタンが消灯します。出力Bを選択すると、ボタンが点灯し、カメラ番号ボタン、分割ボタンとシーケンスボタンはOUTPUT B端子に接続されたモニター画面の操作に使うことができます。もう一度映像出力A/Bボタンを押すと、マルチプレクサ出力は出力Aに切り換わります。

■ 基本的なマニュアル記録のしかた

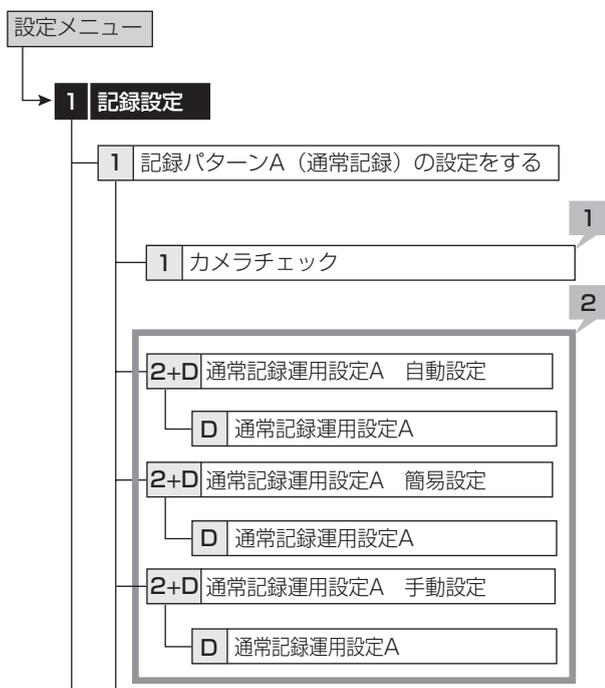
ここでは、マニュアル操作による通常記録のしかたを説明します。

記録を始める前に、＜メインデバイスの記録設定をする＞(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)で、レポート記録設定の確認が必要です。レポート記録設定を確認したあと、記録運用の設定を始めます。(P85ページ)

❗ マニュアル記録の設定は、＜記録パターンA(通常記録)の設定をする＞(設定メニュー→記録設定→記録パターンA(通常記録)の設定をする)で行ってください。

❗ マニュアル記録で使用できるのは、＜記録パターンA(通常記録)の設定をする＞のみです。＜記録パターンBの設定をする＞～＜記録パターンDの設定をする＞は、タイマー記録運用でのみ使用できます。＜記録パターンA(通常記録)の設定をする＞は、タイマー記録運用でも使用できます。

❗ この設定は、マニュアル記録のための設定です。タイマー記録運用は、＜タイマー設定＞メニュー上(設定メニュー→タイマー設定)で設定する必要があります。(P60、61ページ)



◆ 通常記録のための記録コマ数と記録画質を設定する

1 カメラチェックを行う。

・ 「実行」を選択すると、映像信号の入力のあるカメラ番号を自動的に検出します。ここでの設定は手順2の自動と簡易の両方に適用されます。

➡ カメラチェックを実施した場合、自動または簡易を使用して記録設定する場合は、画像のあるカメラのみ設定します。

2 記録設定方法とその詳細を設定する。

「自動」:運用周期と1日あたりの記録時間を設定して、自動的に記録画質と記録コマ数を設定します。希望の設定を選択して、「実行」を選択してください。

・ 「自動」設定が実行されると、プレビュー画面が自動的に表示されます。

「簡易」:全てのカメラ番号に、同じ通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質を設定します。すべてのカメラ番号で通常記録コマ数が「---」に設定されていると、通常記録は行われません。希望の設定を選択して、「実行」を選択してください。

・ 「簡易」設定が実行されると、プレビュー画面が自動的に表示されます。

「手動」:それぞれのカメラ番号に、個別に通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質を設定します。記録コマ数が「---」に設定されている場合、そのカメラ番号の記録は行われません。

・ 設定を確認するには、「確認」を選択して、プレビュー画面を表示してください。

➡ フレーム記録が設定されている場合、プレビュー画面の記録コマ数の表示が緑色に変わります。

➡ 記録コマ数の合計が240 pps以上になると、プレビュー画面の記録コマ数の表示が赤色に変わります。

＜記録見積もり時間＞について

・ 通常記録の記録コマ数、記録画質の設定によって連続で記録可能な時間が通常記録のプレビュー画面の下部に＜記録見積もり時間＞として表示されます。(アラーム記録の設定を変えても、時間は変わりません。)

・ パーティションを運用設定した場合、＜記録見積もり時間＞は、通常記録に記録可能な見積り時間の表示となります。

3 記録/記録停止ボタンを押す。

・ 記録/記録停止ボタンが点灯し、記録が始まります。

4 記録を停止するには、記録/記録停止ボタンを2秒以上押し続ける。

・ 記録が停止し、記録/記録停止ボタンが消灯します。

記録/記録停止



基本機能(つづき)

■ 基本的な再生のしかた

記録されたデータを再生します。本機では、記録した映像をいろいろな方法で再生することができます。ここでは、もっとも一般的な再生のしかたを説明します。

1 本機前面部のドア内部の再生ボタンを押す。

- 再生が始まります。
- 電源を入れたあとは、記録された最も古い映像から再生が始まります。それ以外は、前回再生を停止させたところから再生を始めます。



- 「リピート再生」(システムメニュー→デバイス登録→再生の設定をする)が「切」に設定されている場合、HDDの物理的な終端または記録部分の終端にいくと、再生を停止します。「リピート再生」が「入」に設定されている場合は、記録されている映像データを繰り返し再生します。(P.86ページ)

【再生デバイスを変更する場合】

2.1 再生デバイスと再生エリアを<再生/検索デバイスの設定をする>(ユーザーメニュー→検索→再生/検索デバイスの設定をする)で選択する。

「メイン」:メインデバイスの記録内容を再生します。

「通常」:通常記録エリア

「アラーム」:アラーム記録エリア

「LPA」:ロングブリアラーム記録エリア

「コピー1」:コピー1デバイスの記録内容を再生します。

「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」、

「USBメモリ」

「コピー2」:コピー2デバイスの記録内容を再生します。

「内蔵HDD」、「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、

「DVD/CD」

- 「アラーム」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

- 「LPA」は、「ロングブリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

2.2 再生ボタンを押す。

- 選択された再生デバイスのデータを再生します。

- 再生停止中に一時停止/終了点サーチボタンを押すと、最新の記録部分の終端付近で静止画再生となります。

3 再生を一時停止する場合は、一時停止ボタンを押す。

- 再生を開始する場合は、再び一時停止ボタンまたは再生ボタンを押してください。

4 再生をやめる場合は、再生停止ボタンを押す。

- 次に再生をするときは、前回再生を停止した位置から再生を始めます。

- 前面部の映像出力A/Bボタンを押すと、マルチプレクサ出力が切り換わります。出力Aが選択されると、ボタンが消灯します。出力Bを選択すると、ボタンが点灯し、再生に関連するボタンは、OUTPUT B端子に接続されたモニター画面の操作に使うことができます。もう一度映像出力A/Bボタンを押すと、マルチプレクサ出力は出力Aに切り換わります。

- 各カメラの再生速度は、記録条件により一定の速度にならない場合があります。

- 分割表示で再生した場合、記録したコマ数より再生コマ数が低くなる場合があります。

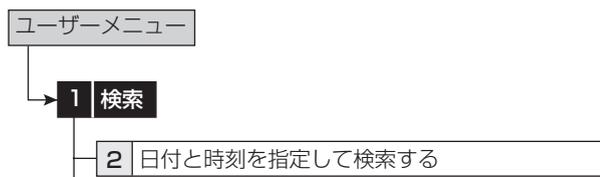
- 出力A、出力Bの両方で再生する場合、再生速度が遅くなる場合があります。

■ 基本的なサーチのしかた

この機能では、見たい映像を頭出しすることができます。本機は、5種類のサーチ機能を備えています(日付と時刻を指定して検索する、アラームリストから検索をする、映像が記録されたデバイスを特定する、ブックマークから検索をする、動きを検出して検索をする)。ここでは、基本的なサーチ機能である、<日付と時刻を指定して検索する>と<アラームリストから検索をする>について説明します。

◆ 日付と時刻を指定して検索する

この方法では、日、時、分、秒、任意のカメラ番号を指定してサーチすることができます。サーチ結果は静止画で表示されます。1台のカメラ番号を指定してサーチした場合、結果は1画表示されます。2台以上のカメラ番号を指定してサーチした場合は、16分割表示されます。



1 サーチしたい日時を手動で設定する場合は、「手動指定」を選択して年、月、日、時、分、秒を設定する。

- 記録の開始点または終了点をサーチしたい場合は、「開始指定」または「最新指定」をそれぞれ選択する。

2 カメラ番号を設定する。

3 「検索実行」を選択する。

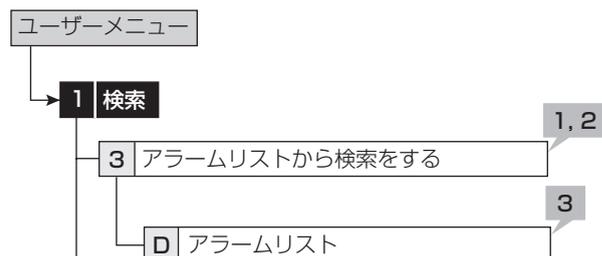
4 サーチした映像を再生するには、再生ボタンまたは一時停止ボタンを押す。

5 再生、静止画再生をやめる場合は、再生停止ボタンを押す。

- ❗ サーチするデバイスを変更するには、<再生/検索デバイスの設定をする>(ユーザーメニュー→検索→再生/検索デバイスの設定をする)で設定をしてください。(P.46ページ)
- ❗ サーチ結果を16分割表示から希望するカメラ番号の映像を選んで1画表示させるには、希望するカメラ番号を押してください。見たい映像が1画表示されます。
- 👉 設定した時刻の記録がない場合、同じカメラ番号で設定した日時に一番近い時刻の映像を静止画再生します。
- 👉 同日同時刻のデータが複数箇所ある場合は、検索を複数回実行し、目的の画像を検索してください。
- 👉 記録の状態によっては、正しく検索できない場合があります。
- 👉 静止画再生中に1画面表示から分割表示、分割表示から1画面表示に変更すると、カメラによっては、近傍に映像が記録されていない場合や、静止画表示したタイミングにより映像が表示されない場合があります。

◆ アラームリストから検索をする

本機では、アラーム記録やエマージェンシー記録が始まると、アラームリストにアラーム記録やエマージェンシー記録の開始時刻を登録します。このアラームリストに登録されたアラーム記録(エマージェンシー記録)開始時刻の中から、希望する時刻をサーチすることができます。サーチ結果は静止画で1画表示されます。



1 <アラームリストから検索をする>でサーチしたい年、月、日、時、分、秒、センサー番号を設定する。

「最新の映像」:最新の記録時刻を日時に表示します。

2 「検索実行」を選択する。

- 👉 アラームリストの登録件数が多い場合には、アラームリストの表示完了まで時間がかかることがあります。
- 👉 アラームリストは、入力した日、時、分、秒以前に開始したアラーム記録のリストで、入力した日、時、分、秒に一番近いものを表示します。

3 表示したいアラームリストを選択する。

- ❗ サーチするデバイスを変更するには、<再生/検索デバイスの設定をする>(ユーザーメニュー→検索→再生/検索デバイスの設定をする)で設定をしてください。(P.46ページ)
- 「アラーム記録エリア」と「ロングプリアラームエリア」が設定されているときにアラームリスト検索を行う場合は、再生/検索エリアをそれぞれ「アラーム」、「LPA」に設定してください。
- ❗ 「センサー」表示は、アラーム信号が入力されたセンサー番号を表します。
- ❗ 「通常記録エリアのレポート記録」または「アラーム記録エリアのレポート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)が「切」に設定され、HDDの終端でアラーム記録(エマージェンシー記録)が入った場合、その記録はアラームリストに登録されない場合があります。
- ❗ アラームセンサー番号に対応していないカメラの映像をコピーで外部メディアに記録した場合は、本体と同様のアラームリストは構築できません。
- 👉 動きの検出と後面のALARM IN端子の接地が同時に多数発生した場合、アラームリストにその開始時刻すべてを登録できない場合があります。その場合、一番若い番号のセンサーがアラームリストに登録されます。
- 👉 アラームリストのうち、後面部のALARM IN端子が接地された場合はオレンジ、動きを検出した場合は白、EMERGENCY端子が接地された場合は赤紫、通信経由でアラーム信号が入力された場合は緑で表示されます。
- 👉 アラームリストを消去するには、アラーム記録されたHDDのデータを消去してください。(システムメニュー→記録映像消去)
- データ消去すると、映像データを含むHDD内のすべてのデータが消去されますのでご注意ください。
- 👉 インデックス信号がない場合、アラームリストサーチは行われません。
- 👉 <アラームリスト>を表示中にアラーム記録(エマージェンシー記録)が始まった場合、一度<アラームリスト>を終了して、再び表示させてください。新しいリストが追加されます。このとき、検索する日、時、分、秒の再設定が必要になる場合があります。
- 👉 LPAエリアのアラームリストサーチでは、「最新へ」を選択するとメディアの先頭、「最古へ」を選択すると、メディアの最後尾からのリストを表示します。

Webブラウザによる通信

■ Webブラウザによる通信

本機に接続されているカメラのライブ画像や記録済み画像を、パーソナルコンピュータのWebブラウザにより取得できます。また、本機の設定の一部を、パーソナルコンピュータから行うことができます。

❗ Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。(Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。)その他、記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では“®”は明記していません。

- ・ Windows 98SEは、Microsoft Windows 98 Second Edition の略称として表記しています。
- ・ Windows 2000は、Microsoft Windows 2000 Professional の略称として表記しています。
- ・ Windows Meは、Microsoft Windows Millennium Edition の略称として表記しています。
- ・ Windows XPは、Microsoft Windows XP Home Edition/Professional の略称として表記しています。

◆ パーソナルコンピュータの動作環境

OS

Microsoft Windows 98SE、Windows 2000、Windows Me、またはWindows XP

CPU

Intel Pentiumシリーズの500MHz以上のCPUを搭載したIBM PC/AT互換機

RAM

256MB以上

HDD

200MB以上のシステムドライブ空き容量

Webブラウザソフト

Microsoft Internet Explorer 5.5以上

表示デバイス

XGA(1024pixel x 768pixel)以上

- ❗ 動作環境は、すべての環境で動作を保証するものではありません。
- ❗ Web機能はパーソナルコンピュータの周辺ドライバとの相性により、ごくまれに正常に動作しないことがあります。このようなときは、最新のInternet Explorerにバージョンアップして再びお試しください。

◆ 接続について

- ・ 本機とパーソナルコンピュータ(以下、PC)を直接つなぐ場合はクロスケーブルを、HUBを介して繋ぐ場合はストレートケーブルを使用してください。
- ・ PC側のWeb設定をする場合は、PCの取扱説明書をご覧ください。

■ ログイン

Microsoft Internet Explorerを立上げて、ログインします。

1 Microsoft Internet Explorer を立上げ、アドレス欄にレコーダーのIPアドレスを入力する。

- ・ 「[ログイン]」画面が表示されます。



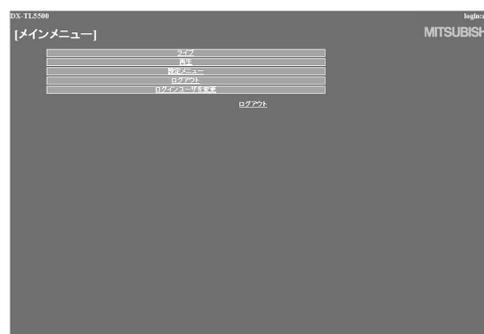
2-1 (ログインする場合は・・・)

「利用者ID」、「パスワード」を入力する。工場出荷状態では、全権ユーザーとして利用者IDが「root」、パスワードが「admin000」と、ライブユーザーとして利用者IDが「guest」、パスワードが「guest」として設定されています。

- ❗ 同じ利用者ID、パスワードで同時に複数人のログインが可能です。
- ❗ 権限によっては制約があります。同時に接続できる最大ユーザー数は10名です。

2-2 「ログイン」を選択し、左クリックまたはENTERを押す。

- ・ 「[メインメニュー]」画面が表示されます。



3-1 (利用者ID、パスワードを入力間違いした場合は・・・)

- ・「[注意]」画面が表示されます。

3-2 「ログイン」を選択し、左クリック、またはENTERを押す。

- ・「[ログイン]」画面が表示されます。

3-3 ステップ2-1に従い、正しい「利用者ID」、「パスワード」を入力する。

4-1 (ログインしない場合は・・・)

「ログインしない場合はこのメッセージをクリックしてログアウトしてください。」を選択し、左クリックする。

4-2 「セッションIDをレコーダーとブラウザから削除しました。ブラウザを閉じてください。」が表示されます。Webブラウザを終了してください。

5-1 (パスワードを変更する場合は・・・)

「[ログイン]」画面では、パスワードの変更権限を持っているユーザーのみ、パスワードを変更することができます。画面指示に従い、現在の「利用者ID」、「パスワード」を入力する。

5-2 「新しいパスワード」、「新しいパスワード(再入力)」に新しいパスワードを入力する。

- ❗ パスワードは、登録できる文字数が大文字小文字を区別したアルファベット、および数字で16文字までです。スペースは使用できません。

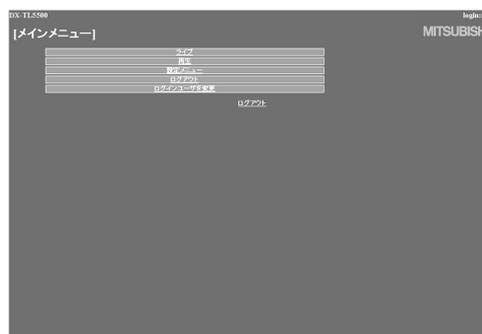
5-3 新しいパスワードに変更する場合は「変更」を選択し、左クリック またはENTERを押す。やめる場合は、「クリア」を選択し、左クリックまたはENTERを押す。

■ メインメニュー

この画面では、ライブ画像を取得し表示する「ライブ」、記録済み画像を取得し再生する「再生」、レコーダーの一部の設定を行う「設定メニュー」、作業を終了するための「ログアウト」、またはログインユーザーの変更を行う「ログインユーザを変更」を「メインメニュー」から選択します。

- ❗ ユーザーの権限によっては、選択できないメニューがあります。
- ❗ 通信時の転送レートは、通信環境および本機の負荷状況により一定ではありません。安定した通信を行うため、使用状態に応じた適正な画像転送速度でご使用ください。
- ❗ ユーザーのセッションID(接続情報)は、画像取得を含む最後の通信から5分で失われます。クライアントPCからのデータ要求が5分以上途絶えた場合、それ以降の操作ができませんので、Webブラウザを一旦終了して再びログインしなおしてください。
- ❗ 本機のMAINスイッチがOFFのときは、ライブ・記録画像を取得できません。

1 希望するメニューを「メインメニュー」から選択し、左クリックする。



Webブラウザによる通信(つづき)

◆ ライブ

ライブ画像を取得し、PC画面上に画像を表示します。

1 「ライブ」を選択し、左クリックする。

- ・「[ライブ]」画面が表示されます。



- ❗ PCのWebブラウザによりはじめて画像を取得しようとした場合、下図のようなメッセージが表示されます。“はい(Y)”をクリックしてください。



- ❗ 本機がフルレート(240 pps)で記録している時に、記録されていないカメラの映像は、更新されません。

<<機能説明>>

停止

画像の取得をやめます。

ライブ

画像の取得を開始(再開)します。

画面内表示

カメラ番号の表示・非表示を選択します。

画面レイアウト

12種類の表示パターンを選択します。(初期設定は「4(1-4)」)

表示カメラ

表示させたいカメラ番号を選択し、チェックします。

画像転送速度

画像取り込み速度を「ゆっくり」～「速い」の5段階で選択します。(初期設定は中央)

レイアウト保存

画面表示のレイアウトを「PC」へ登録します。

【メインメニュー】

「【メインメニュー】」画面へ戻ります。

【ログアウト】

ログアウトします。

- ❗ 「画像転送速度」を「速い」に設定すると、ご使用中のPCの性能によっては動作に支障をきたすことがあります。各PCに適切な画像取得速度を見極めてご使用ください。
- ❗ ネットワークの容量や負荷状況によっては、転送レートが上がらない場合があります。
- ❗ フレーム記録設定しているカメラの画像をライブ表示すると、画像が縦ゆれすることがあります。

◆ 再生

レコーダーの記録済み画像を取得し、再生、サーチを行います。

1 「再生」を選択し、左クリックする。

- ・「[再生]」画面が表示されます。



2 ▶ボタンを押すと、再生を始める。

<<機能説明>>

- ▶ 押すと、再生を始めます。
- ▶▶ 押すと、x2、x4、x8、x16の順方向スピードサーチを始めます。
- ▶ 押すと、順方向のコマ送り再生になります。
- ◀ 押すと、逆再生を始めます。
- ◀◀ 押すと、x2、x4、x8、x16の逆方向スピードサーチを始めます。
- ◀ 押すと、逆方向のコマ送り再生になります。
- 再生中、サーチ中に押すと、静止画再生になります。

再生デバイス

再生、サーチをするHDDを選択します。（初期設定は「ノーマル」）

- 🕒 「画像情報」には取得した画像の日時、カメラ番号を表示します。「画像保存」をクリックすると静止画表示した画像をビットマップ形式でPCへ保存できます。
- 🕒 1画面表示のときは、以下のような検索ができます。



- ❗ 記録画像データの各種検索は、「再生」画面で1画面表示を選択し、再生停止中にできます。画像再生中はこの機能は動作しません。はじめに再生を停止させてください。

● 時刻検索

日時を選択し、「検索」をクリックしてください。

● アラームリスト検索

「アラーム検索」をクリックすると、「アラームリスト検索」画面が子画面で表示されます。



1 希望する日時と取得したいアラームリスト項目を設定し、「更新」をクリックする。

- ・「更新」をクリックしないとアラームリストは取得できません。
- ・取得したいアラームリストの件数を「取得アラーム数」に入力します。記録状態によっては、「取得アラーム数」の数値を大きくすると、取得までに時間がかかったり、希望する件数を取得できないことがあります。

2 希望する「番号」を選択し、「検索」をクリックする。

- ・「前(数字)件」をクリックすると逆方向のサーチを、「次(数字)件」をクリックすると順方向のサーチを行います。

「更新」をもう一度クリックすると、「アラームリスト」を再取得し、「閉じる」をクリックすると「アラームリスト検索」画面を隠します。

センサー：アラームリスト項目を取得したいセンサー番号にチェックを入れてください。

● 画像検索

▲をクリックすると、次のアラームリスト項目の画像が表示されます。

▼をクリックすると、前のアラームリスト項目の画像が表示されます。

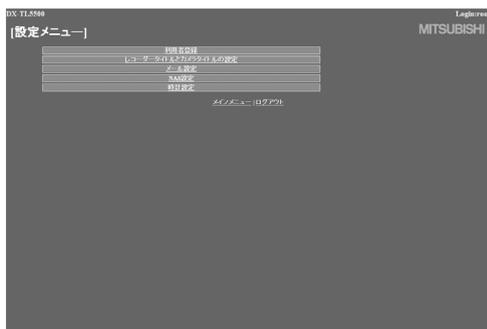
Webブラウザによる通信(つづき)

◆ 設定メニュー

レコーダーの一部の設定をします。

1 「[メインメニュー]」画面の「設定メニュー」を選択し、左クリックする。

- ・ 「[設定メニュー]」画面が表示されます。



2 希望する「設定メニュー」を選択し、左クリックする。

● 利用者登録

この画面では、登録済み利用者の権限に関する設定変更や、登録削除を行います。また、新規利用者の登録も行うことができます。

1 「利用者登録」を選択し、左クリックする。

- ・ 「[利用者登録]」画面が表示されます。



2-1 (登録済み利用者の変更する場合は・・・)

「利用者の設定変更」設定で、設定変更する利用者IDを選択する。

- ・ 変更したい項目を選択してください。

<<権限について>>

ライブ

ライブ画像を取得できます。登録される必須ランクです。

再生

記録画像を取得できます。

オールカメラ

すべてのカメラの画像を取得できます。(カメラ表示設定(設定72ページ)で、表示を「切」に設定したカメラの映像も取得できます。)

パスワード変更

ユーザーのパスワードを変更できます。

設定

ユーザー登録情報を閲覧、編集できます。

- ❗ ユーザーの権限によっては、選択できない項目があります。
- ❗ 「設定」権限は、1人のユーザーしか行使できません。先にログインしたユーザーがログアウトして権限を解放するまで、他のユーザーは「設定」権限を持たないユーザーとしてログインすることになります。
- ❗ 「再生」権限は、1人のユーザーしか行使できません。先にログインしたユーザーがログアウトして権限を解放するまでは、他は「再生」権限を持たないユーザーとしてログインすることになります。

2-2 (設定を変更する場合は・・・)

「変更」を選択し、左クリックする。

- ・ 「[利用者設定変更確認]」画面が表示されます。

2-3 変更する場合は「変更」、やめる場合は「キャンセル」を左クリックする。

2-4 (「変更」を選択した場合は・・・)

「[完了]」画面で、「利用者登録」を左クリックする。

- ・ 「[利用者登録]」画面に戻ります。

2-5 (「キャンセル」を選択した場合は・・・)

- ・ 「[利用者登録]」画面に戻ります。

3-1 (登録済みユーザーを削除する場合は・・・)

「利用者の設定変更」で削除したい利用者IDの「削除」を左クリックする。

- ・ 「[利用者削除確認]」画面が表示されます。

3-2 削除する場合は「削除」、やめる場合は「キャンセル」を左クリックする。

3-3 (「削除」を選択した場合は・・・)

「[完了]」画面で、「利用者登録」を左クリックする。

- ・ 「[利用者登録]」画面に戻ります。

3-4 (「キャンセル」を選択した場合は・・・)

- ・ 「[利用者登録]」画面に戻ります。

4.1 (新規利用者を登録する場合は・・・)

「利用者の追加」で新規利用者IDと新規パスワードを入力する。

4.2 ステップ2-1を参考にして希望する「権限」を選択し、チェックを入れる。

- ❗ 同名の利用者IDは、登録できません。パスワードは、登録できる文字数が大文字小文字を区別したアルファベット、および数字で16文字までです。スペースは使用できません。

4.3 新規登録する場合は「登録」、やめる場合は「クリア」を左クリックする。

4.4 (「登録」を選択した場合は・・・)

- ・ 「利用者の設定変更」に追記されます。

4.5 (「クリア」を選択した場合は・・・)

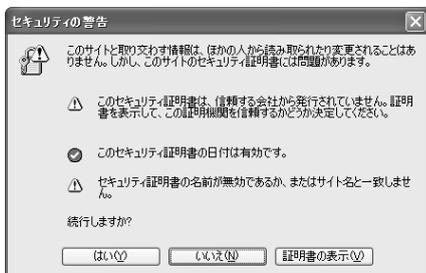
- ・ 設定した内容が消去されます。

5-1 (「接続方式の設定」を変更する場合は・・・)

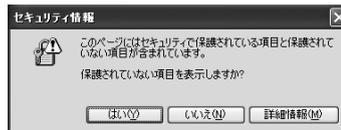
「接続方式の設定」の中の、変更したい項目を選択する。

- ・ Webアクセス時のSSL使用:
暗号化機能(SSL)のレベルを設定します。
「SSLを使用しない」：暗号化機能を使用しません。
「メニューのみ」：メニューにのみ暗号化機能を使用します。
「メニューと画像」：メニュー及び映像に暗号化機能を使用します。
- ・ SSLポート番号:
SSL通信で使用するポート番号を設定します。
- ・ 帯域制御:
通信のバンド幅を制御します。

- ❗ SSLでの通信を選択すると、下のようなメッセージが表示されます。「はい」を選択して、続きを行ってください。



- ❗ SSLレベルを「メニューのみ」に設定している場合、ライブ、再生のページを開く際に下のようなメッセージが表示されます。「はい」を選択してページを開いてください。この場合、ブラウザの暗号化通信を表す鍵型アイコンは表示されなくなりますが、実際には暗号化されて通信を行っています。



- 5-2 「新しい設定」に希望する設定を入力して、「変更」を左クリックする。

Webブラウザによる通信(つづき)

● レコーダータイトルとカメラタイトルの設定

この画面では、レコーダーやカメラのタイトルを設定または変更することができます。

1 「レコーダータイトルとカメラタイトルの設定」を選択し、左クリックする。

- ・「[レコーダータイトルとカメラタイトルの設定]」画面が表示されます。



2 「新しい設定」に、希望するタイトルを入力する。

- ・現在設定されているレコーダーまたはカメラタイトルは、「現在の設定」に表示されます。

3 「変更」を選択し、左クリックする。

● メール設定

この画面では、メールを送信するためのメールサーバーまたは発信者に関連する情報の設定と、受信者のメールアドレスの設定を行います。

1 「メール設定」を選択し、左クリックする。

- ・「[メール設定]」画面が表示されます。



2 (メール送信のための設定をする場合は…)

「SMTPサーバー」、「POPサーバー」、「POP利用者ID」、「POP利用者パスワード」、「DNSサーバー1アドレス」、「DNSサーバー2アドレス」、「From:」、「レコーダID」に希望する設定を入力する。

- ・現在の設定は、「現在の設定」に表示されます。

3 テストメールを送信するには、「Fromアドレスのテスト(テストメール送信)」を選択し、左クリックする。

4 (e-mail画像添付機能の設定をする場合は…)

「画像添付」チェックボックスにチェックマークをつける。

- ・マークをつけたユーザーへアラーム記録発生時の画像1枚を添付したメールを送信します。メールに添付される画像データファイルの拡張子は、「.aap」となります。
- ・「添付画像ディレイ時間」は、添付する画像をキャプチャするタイミングを設定します。アラーム発生から画像キャプチャまでの時間を最大10秒まで設定することができます。

❗ アラーム記録がない場合には、画像添付はできません。

❗ 添付される画像は、アラーム信号が入力された後面ALARM IN端子に対応するカメラのアラーム記録画像のうちの1枚となります。

❗ 画像添付をするには、「センサー入力」にチェックマークをつけてください。

❗ 同時に複数の発報が重なった場合、通知が遅れたり、すべての項目が発報できないことがあります。

❗ アラーム記録時間が添付画像ディレイ時間の設定値より短い場合は、画像を添付することはできません。

❗ 同時に複数のアラーム入力を検知した場合は、最も若い番号のセンサーに対応するカメラの映像のみをメールに添付します。

➡ 添付された画像を見るときは、
DX-PC55(Ver2.1以降)をインストールしたPCの場合：
ファイルをクリックまたはダブルクリックしてください。
DX-PC55をインストールしていないPCの場合：
付属のCD内の「MPicViewer.exe」にファイルをドラッグアンドドロップして表示させてください。

➡ 表示した画像は、一般画像フォーマットでの保存や印刷が可能です。

5-1 (受信者のアドレスを設定する場合は…)

「新しい設定」に希望するアドレスを入力する。

5-2レコーダーからPCへ送信する内容を設定する。

- ・「残量」、「高温/ファン停止」、「再起動」、「通常記録」、「アラーム記録」、「センサー入力」を設定することができます。(P.78ページ)

5-3 設定したメールアドレスを有効にするかを選択する。

- ・「有効・無効」の欄にチェックマークを入れると、選択されたメールアドレスが有効になります。

5-4「設定」を選択し、左クリックする。

5-5「送信」を選択し、テストメールを送信する。

❗ e-mail発報やIP発報の頻度が高いとレコーダーの動作が不安定になることがありますのでご注意ください。

● NAS設定

この画面では、NASサーバーを接続するための情報の設定と、NASサーバーのマウント・アンマウントを行います。

❗ 設定前にNASの情報を確認してください。(P.79ページ)

1 「NAS設定」を選択し、左クリックする。

- ・「[NAS設定]」画面が表示されます。



2 「IPアドレス」、「ディレクトリ」に希望する設定を入力する。

3 「設定」を選択し、左クリックする。

4 (NASサーバーをアンマウントする場合は…)

「削除」を選択し、左クリックする。

5 (NASサーバーのマウントテストを行う場合は…)

「テスト」を選択し、左クリックする。

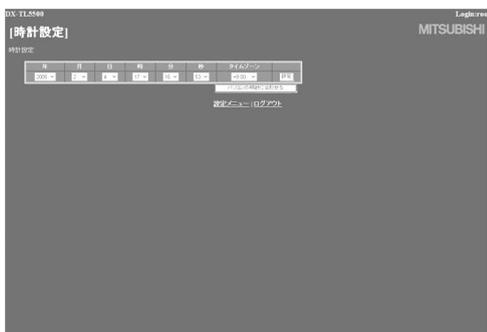
❗ レコーダーがコピー1、コピー2、リストアなどの動作を行っている場合、NAS設定を操作することができません。レコーダーのそれらの動作を止めてから、NAS設定を操作してください。

● 時計設定

この画面では、PCからレコーダーの時刻を設定します。

1 「時計設定」を選択し、左クリックする。

- ・「[時計設定]」画面が表示されます。



2-1 現在の「年」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」、「タイムゾーン」を入力する。

2-2 「設定」を選択し、左クリックする。

3 (「パソコンの時計に合わせる」を使って時刻設定をする場合は…)

レコーダーの時刻設定を、PCの時刻と同期させる場合は、「パソコンの時計に合わせる」を選択し、左クリックする。

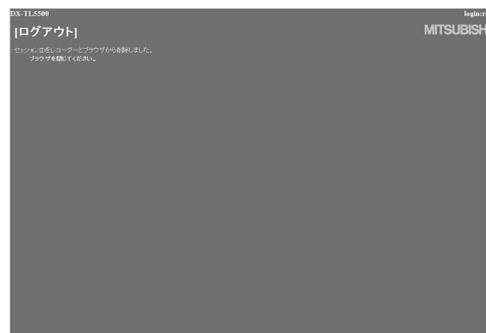
- ・レコーダーの時刻設定が、PCの時刻設定と同じ時刻に設定されます。
- ・年/月/日超え、時/分超えなどのタイミングで操作するときは、設定後に再確認してください。

◆ ログアウト

この画面が表示されると、正しく「ログアウト」できたこととなります。

1 「ログアウト」を選択し、左クリックする。

- ・「[ログアウト]」画面が表示されます。



2 Webブラウザを終了します。

❗ 正しくログアウトの操作をせずにブラウザを終了した場合、ユーザーのセッションIDが5分間保持されてしまいます。5分以内に同じ利用者IDでログインしようとする、操作制限がかかることがあります。

◆ ログインユーザーを変更

この画面では、ログインしているユーザーの変更を行いません。

1 「ログインユーザーを変更」を選択し、左クリックする。

- ・「[ログイン]」画面が表示されます。



2-1 (ログインしているユーザーを変更する場合は…)

「ログイン(ログインユーザーの変更):」設定で「 ログイン」のステップ2-1、2-2を実行し、ログインしているユーザーを変更する。

- ・ログインしているユーザーが変更され、「[メインメニュー]」画面が表示されます。

2-2 (ユーザーを変更しないでログインする場合は…)

ブラウザの「戻る」を選択し、左クリックする。

2-3 (ログアウトする場合は…)

「ログインしない場合はこのメッセージをクリックしてログアウトしてください。」を選択し、左クリックする。

記録時間表

■ 連続記録可能時間表

およその記録時間(内部の400GBハードディスクに記録する場合)を表示しています。

❗ この記録時間表は、記録に設定している全カメラのトータルのコマ数です。

音声記録設定を「切」に設定した場合

画質	全記録コマ数/秒								
	240	120	80	60	48	32	30	16	13
スーパー	0日12時間	1日1時間	1日14時間	2日2時間	2日15時間	3日23時間	4日5時間	7日22時間	9日18時間
ファイン	0日14時間	1日5時間	1日20時間	2日11時間	3日2時間	4日15時間	4日22時間	9日6時間	11日9時間
ハイ	0日17時間	1日11時間	2日5時間	2日23時間	3日16時間	5日13時間	5日22時間	11日2時間	13日16時間
スタンダード	0日22時間	1日20時間	2日18時間	3日17時間	4日15時間	6日23時間	7日10時間	13日22時間	17日3時間
ベーシック	1日5時間	2日11時間	3日17時間	4日22時間	6日4時間	9日6時間	9日21時間	18日13時間	22日20時間
ロング	1日20時間	3日17時間	5日13時間	7日10時間	9日7時間	13日22時間	14日21時間	27日21時間	34日8時間

画質	全記録コマ数/秒									記録枚数
	10	8	4	2	1	0.5	0.25	0.125		
スーパー	12日16時間	15日20時間	31日16時間	63日9時間	126日19時間	253日14時間	507日4時間	1014日8時間		10,953,000枚
ファイン	14日19時間	18日12時間	37日	74日1時間	148日2時間	296日5時間	592日10時間	1184日20時間		12,794,000枚
ハイ	17日19時間	22日5時間	44日11時間	88日23時間	177日22時間	355日21時間	711日19時間	1423日14時間		15,373,000枚
スタンダード	22日6時間	27日20時間	55日16時間	111日8時間	222日17時間	445日10時間	890日20時間	1781日16時間		19,242,000枚
ベーシック	29日17時間	37日3時間	74日7時間	148日15時間	297日7時間	594日15時間	1189日6時間	2378日12時間		25,687,000枚
ロング	44日15時間	55日19時間	111日15時間	223日6時間	446日12時間	893日1時間	1786日2時間	3572日4時間		38,578,000枚

音声記録設定を「入」に設定した場合 <PCM方式12.8 kHzセンササンプリングで音声記録が可能です。>

画質	全記録コマ数/秒	240	120	80	60	48	32	30	16	13
スーパー	音声1チャンネル記録	0日12時間	1日1時間	1日13時間	2日2時間	2日14時間	3日22時間	4日4時間	7日18時間	9日11時間
	音声2チャンネル記録	0日12時間	1日1時間	1日13時間	2日2時間	2日14時間	3日21時間	4日3時間	7日14時間	9日5時間
	音声3チャンネル記録	0日12時間	1日1時間	1日13時間	2日1時間	2日14時間	3日20時間	4日1時間	7日10時間	9日
	音声4チャンネル記録	0日12時間	1日1時間	1日13時間	2日1時間	2日13時間	3日19時間	4日	7日6時間	8日18時間
ファイン	音声1チャンネル記録	0日14時間	1日5時間	1日20時間	2日10時間	3日1時間	4日13時間	4日20時間	9日	11日
	音声2チャンネル記録	0日14時間	1日5時間	1日19時間	2日10時間	3日	4日12時間	4日19時間	8日19時間	10日16時間
	音声3チャンネル記録	0日14時間	1日5時間	1日19時間	2日10時間	3日	4日10時間	4日17時間	8日14時間	10日9時間
	音声4チャンネル記録	0日14時間	1日5時間	1日19時間	2日9時間	2日23時間	4日9時間	4日16時間	8日9時間	10日2時間
ハイ	音声1チャンネル記録	0日17時間	1日11時間	2日5時間	2日22時間	3日16時間	5日11時間	5日20時間	10日18時間	13日4時間
	音声2チャンネル記録	0日17時間	1日11時間	2日4時間	2日22時間	3日15時間	5日9時間	5日17時間	10日11時間	12日17時間
	音声3チャンネル記録	0日17時間	1日11時間	2日4時間	2日21時間	3日14時間	5日7時間	5日15時間	10日4時間	12日6時間
	音声4チャンネル記録	0日17時間	1日11時間	2日4時間	2日20時間	3日13時間	5日5時間	5日13時間	9日21時間	11日20時間
スタンダード	音声1チャンネル記録	0日22時間	1日20時間	2日18時間	3日16時間	4日13時間	6日19時間	7日6時間	13日9時間	16日8時間
	音声2チャンネル記録	0日22時間	1日20時間	2日17時間	3日15時間	4日12時間	6日16時間	7日3時間	12日21時間	15日15時間
	音声3チャンネル記録	0日22時間	1日19時間	2日17時間	3日14時間	4日11時間	6日13時間	6日23時間	12日11時間	14日23時間
	音声4チャンネル記録	0日22時間	1日19時間	2日16時間	3日13時間	4日9時間	6日10時間	6日20時間	12日	14日8時間
ベーシック	音声1チャンネル記録	1日5時間	2日11時間	3日16時間	4日21時間	6日2時間	9日1時間	9日15時間	17日15時間	21日11時間
	音声2チャンネル記録	1日5時間	2日10時間	3日15時間	4日19時間	5日23時間	8日19時間	9日9時間	16日19時間	20日6時間
	音声3チャンネル記録	1日5時間	2日10時間	3日14時間	4日18時間	5日21時間	8日14時間	9日3時間	16日1時間	19日4時間
	音声4チャンネル記録	1日5時間	2日9時間	3日13時間	4日16時間	5日19時間	8日9時間	8日22時間	15日9時間	18日4時間
ロング	音声1チャンネル記録	1日20時間	3日16時間	5日11時間	7日6時間	9日1時間	13日10時間	14日6時間	25日21時間	31日8時間
	音声2チャンネル記録	1日20時間	3日15時間	5日9時間	7日3時間	8日20時間	12日22時間	13日17時間	24日3時間	28日19時間
	音声3チャンネル記録	1日19時間	3日14時間	5日7時間	7日	8日15時間	12日11時間	13日5時間	22日14時間	26日15時間
	音声4チャンネル記録	1日19時間	3日13時間	5日6時間	6日20時間	8日10時間	12日1時間	12日18時間	21日6時間	24日19時間

画質	全記録コマ数/秒	10	8	4	2	1	0.5	0.25	0.125
スーパー	音声1チャンネル記録	12日5時間	15日4時間	29日2時間	53日18時間	93日10時間	147日22時間	208日20時間	262日23時間
	音声2チャンネル記録	11日20時間	14日13時間	26日21時間	46日17時間	73日23時間	104日10時間	131日11時間	151日1時間
	音声3チャンネル記録	11日10時間	13日23時間	25日	41日6時間	61日5時間	80日16時間	95日22時間	105日23時間
	音声4チャンネル記録	11日2時間	13日10時間	23日8時間	36日23時間	52日5時間	65日17時間	75日12時間	81日14時間
ファイン	音声1チャンネル記録	14日5時間	17日14時間	33日12時間	61日6時間	104日13時間	161日13時間	222日3時間	273日10時間
	音声2チャンネル記録	13日16時間	16日18時間	30日15時間	52日6時間	80日18時間	111日1時間	136日17時間	154日13時間
	音声3チャンネル記録	13日3時間	16日	28日5時間	45日13時間	65日19時間	84日15時間	98日17時間	107日17時間
	音声4チャンネル記録	12日16時間	15日7時間	26日3時間	40日9時間	55日12時間	68日8時間	77日6時間	82日15時間
ハイ	音声1チャンネル記録	16日22時間	20日22時間	39日13時間	71日4時間	118日15時間	177日22時間	237日6時間	284日17時間
	音声2チャンネル記録	16日4時間	19日18時間	35日14時間	59日7時間	88日23時間	118日15時間	142日8時間	158日4時間
	音声3チャンネル記録	15日11時間	18日17時間	32日8時間	50日20時間	71日4時間	88日23時間	101日16時間	109日12時間
	音声4チャンネル記録	14日19時間	17日19時間	29日15時間	44日11時間	59日7時間	71日4時間	79日2時間	83日17時間
スタンダード	音声1チャンネル記録	20日23時間	25日19時間	48日3時間	84日20時間	137日1時間	197日23時間	254日12時間	296日22時間
	音声2チャンネル記録	19日19時間	24日1時間	42日10時間	68日12時間	98日23時間	127日6時間	148日11時間	161日23時間
	音声3チャンネル記録	18日18時間	22日13時間	37日21時間	57日11時間	77日11時間	93日18時間	104日19時間	111日8時間
	音声4チャンネル記録	17日19時間	21日5時間	34日6時間	49日11時間	63日15時間	74日5時間	80日23時間	84日20時間
ベーシック	音声1チャンネル記録	27日10時間	33日15時間	61日12時間	104日22時間	162日4時間	222日23時間	274日10時間	310日5時間
	音声2チャンネル記録	25日11時間	30日18時間	52日11時間	81日2時間	111日11時間	137日5時間	155日2時間	165日22時間
	音声3チャンネル記録	23日18時間	28日7時間	45日17時間	66日1時間	84日22時間	99日2時間	108日2時間	113日6時間
	音声4チャンネル記録	22日7時間	26日5時間	40日13時間	55日17時間	68日14時間	77日13時間	82日23時間	85日23時間
ロング	音声1チャンネル記録	39日16時間	48日6時間	85日1時間	137日9時間	198日10時間	255日3時間	297日16時間	324日17時間
	音声2チャンネル記録	35日17時間	42日12時間	68日16時間	99日5時間	127日13時間	148日20時間	162日8時間	170日2時間
	音声3チャンネル記録	32日11時間	38日	57日14時間	77日15時間	94日	105日1時間	111日15時間	115日5時間
	音声4チャンネル記録	29日18時間	34日8時間	49日14時間	63日18時間	74日10時間	81日4時間	85日1時間	87日3時間

ⓘ 上記記載の連続記録可能時間とメニュー画面に表示される見積り時間は、機能動作上の連続記録可能時間であり、製品保証期間ではありません。また、使用部品の動作信頼性を保証する期間でもありません。

「故障かな」と思う前に

下記の内容をお調べになったあと、それでも不都合がある場合は、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてからお買い上げの販売店にご連絡ください。

こんな症状が出たら		ここをお調べください	参照ページ
設 置	本機の電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源プラグがコンセントからはずれていませんか? ● ロックインジケータが点灯していませんか? ● タイマーインジケータが点灯していませんか? ● 後面部のMAINスイッチが「OFF」になっていませんか? 	— 16,66,67 16 19
	電源が入っているのに動かない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ロックインジケータが点灯していませんか? ● 電源インジケータが点滅していませんか? 点滅中は、操作を受け付けません。 ● 安全装置がはたらいている可能性があります。後面部のRESETボタンをボールペンなどで押してから、電源を入れなおしてください。 	16,66,67 16 20,91
	モニターに映像が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● モニターやカメラが正しく接続されていますか? ● 選択されたカメラ番号にカメラ信号が入力されていますか? 16分割表示にして、確認してください。 	21 68
	モニターの映像が不鮮明である。	<ul style="list-style-type: none"> ● 接続コードの接続不良はありませんか? ● カメラのピントは正しく調整されていますか? 	— —
記 録	記録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「通常記録エリアのレポート記録」、「アラーム記録エリアのレポート記録」、「ロングプリアラームエリアのレポート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)が、「切」に設定されていませんか? ● 記録は、設定した記録コマ数の時間が経過したあとに始まります。設定した記録コマ数の時間以内に、停止させませんでしたか? 	85 99
	記録を停止することができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ロックインジケータが点灯していませんか? ● 通常記録、アラーム記録、エマージェンシー記録の記録中は、記録/記録停止ボタンを2秒以上連続で押してください。 ● タイマー記録の記録中ではありませんか? タイマー記録を解除したいときは、もう一度タイマーボタンを2秒以上連続で押してください。 	16,66,67 16 18
	レポート記録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「通常記録エリアのレポート記録」、「アラーム記録エリアのレポート記録」、「ロングプリアラームエリアのレポート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)を、「入」に設定していますか? 	85
	タイマー記録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 日付・現在時刻は正確に設定しましたか? ● 記録開始時刻、終了時刻、記録コマ数を正しく設定しましたか? ● 「通常記録エリアのレポート記録」、「アラーム記録エリアのレポート記録」、「ロングプリアラームエリアのレポート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)が、「切」に設定されていませんか? 	64 60,61 85
	アラーム記録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● アラーム記録のコマ数が「—」に設定されていませんか? ● 記録容量が無くなっていませんか? ● タイマー記録の待機中ではありませんか? (タイマーインジケータが点灯していませんか?) ● 外部のセンサーなどが正しく接続されていますか? 	56 — 16 21
再 生	再生ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ロックインジケータが点灯していませんか? ● データが消去されていませんか? ● 再生デバイスの選択は合っていますか? 	16,66,67 87 46

	こんな症状が出たら	ここをお調べください	参照ページ
外部記録機器	コピー機器/バックアップ機器の操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● メディアが正しく挿入されていますか？ ● 本機がメディアを認識動作中ではないですか？ ● 再生デバイスの選択は合っていますか？ ● メディアがライトプロテクトされていませんか？ ● 外部記録機器の電源は入っていますか？ ● 外部記録機器のターミネーションは正しく設定されていますか？(SCSIデバイスのみ) ● コピーデバイスが<HDDの追加/削除する>または<DVD/CDデバイスの追加/削除をする>(システムメニュー→デバイス登録)に登録されていますか？ 	— — 46,100 — — — 83,84
	本機を通してカメラが制御できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 制御するカメラは正しく接続されていますか？ ● <PTZ設定>は正しく設定されていますか？ 	21 80
その他の	動き検知機能が働かない。	<ul style="list-style-type: none"> ● アラーム記録の画面で動き検知機能を働かせたいカメラ番号のアラーム入力が「端子」になっていませんか？ ● 記録コマ数設定画面で動き検知機能を働かせたいカメラ番号のアラーム記録コマ数が「—」になっていませんか？ ● <動き検知設定>画面の「記録開始ドット数」の数値が「検知エリア設定」の数値より大きくなっていませんか？ ● 検知エリアは正しく設定されていますか？ 	57 56 62,63 62,63
	パーソナルコンピューターで制御できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● <通信設定>メニューは正しく設定されていますか？ ● 正しく接続されていますか？ ● 接続ケーブルに接続不良はありませんか？ ● 接続ケーブルの種類は合っていますか？ 	77,78 21 — 102
	分割表示のときに、青の画面が表示されるカメラ番号がある。	<ul style="list-style-type: none"> ● 運用設定をしていても、映像信号の入力がないカメラ番号の画面は、青で表示されます。 	69
	ボタン操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源インジケータが点滅していませんか？ 点滅中は、操作を受け付けません。 ● ロックインジケータが点灯していませんか？ 	16 16,66,67
	カメラ番号ボタンでカメラの切り換え操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面が表示されていませんか？ メニュー画面を表示中は、カメラ番号ボタンは使用できません。 	—
	メニューの設定ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力Bが選択されていませんか？ 出力Bが選択されているときは、マウスのカーソルは表示されますが、メニューは表示されず、設定できません。メニューは、出力Aが選択されているときのみ設定することができます。 	—
	以下の操作ができない ・コピー1 ・コピー1デバイスのデータ消去 ・メニューの保存・読み出し ・リストア ・ピクチャーコピー	<ul style="list-style-type: none"> ● LAN経由で記録データの区間ダウンロードを行っていませんか？ 区間ダウンロード中は、左記の動作をすることはできません。 	—

警告表示とCALL OUT信号の出力

■ 警告表示とその対処法

※1 CALL OUT信号の出力について

選択:メニュー画面でCALL OUT信号の出力の入/切が設定できる。

共通:メニュー画面の設定にかかわらず、CALL OUT端子からCALL OUT信号を出力する。

なし:CALL OUT信号は出力しないが、画面上に警告表示をする。

- ⑧ 画面表示に「注意」が表示されているときにヘルプボタンを押すと、警告表示が表示されます。「注意」の内容は、過去16件のみ保存し、表示させることができます。それ以前の内容は消去され、CALL OUT信号の出力は解除されます。CALL OUT信号の出力は、前面部のEボタンを押すか、「警告消去」をクリックすることによりとめることができます。

警告表示	対処	警告表示の解除方法	コード	CALL OUT信号の出力※1	参照ページ
メインデバイスの通常記録エリアの残量が**%以下になりました※2	•必要に応じてコピーを行う。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG1200	選択	65
メインデバイスのアラーム記録エリアの残量が**%以下になりました※2			LOG1201		
メインデバイスのロングブリアラームの残量が**%以下になりました※2			LOG1202		
コピー2の残量が**%以下になりました※2			LOG7200		
メインデバイスの通常記録エリアの残量が0%になりました	•警告を解除することにより、最も古い記録の部分から上書き記録に移行する。 •必要に応じてコピーを行う。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG1100※3	選択 なし 選択 なし 選択	85
メインデバイスのアラーム記録エリアの残量が0%になりました			LOG4100※4		
メインデバイスのロングブリアラームの残量が0%になりました			LOG1101※3 LOG4101※4		
コピー1の残量が0%になりました	•必要に応じて新しいメディアと交換する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3100	なし 選択	48,49
コピー2の残量が0%になりました			LOG7100		
コピーサイズエラー	•コピー/リストアする範囲を再設定する。 •新しいメディアと交換する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3701※5	なし	48,49
コピー元のデータ範囲かコピーメディアの空き容量を確認してください。			LOG4701※4		
コピーサイズエラー			LOG7701※6		
コピー範囲かコピーメディアの空き容量を確認してください。	•記録機器のメディアを確認する。(メディアが入っていないときは、メディアを挿入する。) •メディアのライトプロテクトがかかっていないか確認する。かかっていれば、解除する。 •外部記録機器、本機共に電源を切ったのち、外部記録機器、本機の順で再起動する。 •外部記録機器、本機共に電源を切ったのち、ケーブル、ターミネーター(SCSIデバイスのみ)の確認を行う。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3702※5	なし	48,49
コピーメディアエラー			LOG4702※4		
コピーできません コピー機器・コピーメディアを確認してください			LOG7702※6		
コピーメディアエラー					
データコピーができません コピー機器を確認してください	•ディスクを挿入する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3703※5	なし	83,84
ディスクがありません			LOG4703※4		
ディスクが挿入されていないか 使用できません 使用可能なディスクを挿入してください			LOG7703※6		
ディスクがありません					
ディスクが入っていないか 使用できないディスクです 使用可能なディスクに交換してください	•ディスクを交換する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3704※5	なし	48,49
コピー1の残量が0%になりました ドライブに新しいディスクを挿入してください			LOG7704※6		
コピー2の残量が0%になりました ドライブに新しいディスクを挿入してください					

警告表示	対処	警告表示の解除方法	コード	CALL OUT 信号の出力 ※1	参照 ページ
入力信号がありません カメラからの入力信号がありません カメラと信号ケーブルを確認してください	<ul style="list-style-type: none"> 本機とカメラが正しく接続されているか、電源が入っているか確認する。 カメラから所定の映像信号が出力されているか確認する。 映像信号の入力がないカメラを運用設定していないか確認する。 	記録を停止する。 映像信号を出力させる。 「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG54□□※7	共通	21 — 55-57, 99
軽微なエラーが発生しましたが、そのまま使用できます	<ul style="list-style-type: none"> 異常がなければ、継続して使用する。 エラーが続く場合は、HDD、メディア、ケーブル、ターミネーションを確認し、再起動する。 	—	LOG13□□※8 LOG23□□※8 LOG33□□※8 LOG43□□※8 LOG73□□※8	なし	—
動作が不安定となった為システムを一時停止し記録を再開しました HDD***は切り離されました 動作が不安定となった為システムを停止しました 再度操作を開始してください	<ul style="list-style-type: none"> 再起動する。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG14□□※8 LOG24□□※8 LOG34□□※8 LOG44□□※8 LOG74□□※8	共通 なし	—
変更データを検知しました	—	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG55□□※7	なし	86
デバイスに問題を検出しました	—	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG6200	共通	—
再起動しました、そのまま使用可能です レコーダーの確認をしてください	<ul style="list-style-type: none"> 本機の確認をする。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG5100	共通	—
レコーダーが高温になっています 換気を確認してください	<ul style="list-style-type: none"> 電源を切り、設置状態を変える。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG5200	共通	—
レコーダーが高温になっています 動作を止めてください	<ul style="list-style-type: none"> 電源を切り、設置状態を変える。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す 温度を下げる。	LOG5201	共通	—
ファンが止まりました、確認してください	<ul style="list-style-type: none"> 電源を切り、使用を中止する。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す ファンを回転させる	LOG5300	共通	—
記録がコピー中のデータを上書きしました コピーを中止しました	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコピー/バックアップを行う場合は、HDD記録を停止する。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG3500※5 LOG7500※6	なし	48,49
記録がコピー中のデータを上書きしようとしています コピーを続けるならば、記録をとめてください	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコピー/バックアップを行う場合は、HDD記録を停止する。 引き続きHDD記録を行う場合は、コピー/バックアップを停止する。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG3600※5 LOG7600※6	なし	48,49
(なし)	ウォッチドック動作により再起動した。	—	LOG5101	—	—

※2：数値は、設定によって変わります。

※3：記録用のコード

※4：リストア用のコード

※5：コピー1用のコード

※6：コピー2用のコード

※7：(□□)には、下記の番号が入ります。)

01：CH 1 07：CH 7 13：CH 13

02：CH 2 08：CH 8 14：CH 14

03：CH 3 09：CH 9 15：CH 15

04：CH 4 10：CH 10 16：CH 16

05：CH 5 11：CH 11

06：CH 6 12：CH 12

※8：

14 □□：記録 24 □□：再生 34 □□：コピー1

44 □□：リストア 74 □□：コピー2

(□□)には、下記の番号が入ります。)

00：A (内蔵) 01：B (内蔵) 02：C (内蔵) 03：D (内蔵)

10～25：USB (外部) 30～35：SCSI (外部) 40～47：NAS (外部)

※LOG1400について：記録中に表示されます。一度システムを停止し、再度記録を開始します。(エラーとなったHDDは、自動的に記録デバイスの登録から削除されます。登録されているHDDの最後の1台まで記録を継続します。)

※LOG24～74について：コピー中・再生中に表示されます。一度システムを停止するため、再生・コピー動作は停止します。再度再生・コピーを行ってください。

※LOG54□□について：記録中に、記録しているカメラ画像の信号が2秒以上なくなった場合に表示されます。2秒以下の記録の場合は、表示されないことがあります。

設定リスト

設定を行ったメニューの項目を、記録しておくためのリストです。メニューを設定するときに、ご使用ください。

色のついている値が、工場出荷時の設定です。※マークのついている項目は、<クイック設定>メニューで読み出し／保存されるメニューです。<クイック設定>メニューでは、※マークのついている項目以外に、以下の項目も読み出し／保存されます。

- ・ 検索／コピー／リストメニューの年・月・日・時・分・秒の設定
- ・ コピー／リストアのコピーデバイスの設定のメニュー情報
- ・ E-mail、IP発報の各種設定

■ 設定メニュー (200 000 000)

◆ ① 記録設定

● ① 記録パターンA(通常記録)の設定をする ※

② 通常記録設定																					
フル/フル		記録コマ数										記録画質									
フィールド	フレーム	30	15	10	7.5	6	5	3	2	—	0.5	0.25	0.125	—	スーパー	ファイン	ハイ	スタンダード	ベーシック	ロング	
カメラ番号1																					
カメラ番号2																					
カメラ番号3																					
カメラ番号4																					
カメラ番号5																					
カメラ番号6																					
カメラ番号7																					
カメラ番号8																					
カメラ番号9																					
カメラ番号10																					
カメラ番号11																					
カメラ番号12																					
カメラ番号13																					
カメラ番号14																					
カメラ番号15																					
カメラ番号16																					

③ アラーム記録設定																					
フル/フル		記録コマ数										記録画質									
フィールド	フレーム	30	15	10	7.5	6	5	3	2	—	0.5	0.25	0.125	—	スーパー	ファイン	ハイ	スタンダード	ベーシック	ロング	
カメラ番号1																					
カメラ番号2																					
カメラ番号3																					
カメラ番号4																					
カメラ番号5																					
カメラ番号6																					
カメラ番号7																					
カメラ番号8																					
カメラ番号9																					
カメラ番号10																					
カメラ番号11																					
カメラ番号12																					
カメラ番号13																					
カメラ番号14																					
カメラ番号15																					
カメラ番号16																					

設定リスト(つづき)

● ② 記録パターンBの設定をする ※

② 通常記録設定																			
カメラ/カメラポート		記録コマ数										記録画質							
カメラ	ポート	30	15	10	7.5	6	5	3	2	1	0.5	0.25	0.125	スーパー	ファイン	ハイ	スタンダード	ベーシック	ロング
カメラ番号1																			
カメラ番号2																			
カメラ番号3																			
カメラ番号4																			
カメラ番号5																			
カメラ番号6																			
カメラ番号7																			
カメラ番号8																			
カメラ番号9																			
カメラ番号10																			
カメラ番号11																			
カメラ番号12																			
カメラ番号13																			
カメラ番号14																			
カメラ番号15																			
カメラ番号16																			

③ アラーム記録設定																			
カメラ/カメラポート		記録コマ数										記録画質							
カメラ	ポート	30	15	10	7.5	6	5	3	2	1	0.5	0.25	0.125	スーパー	ファイン	ハイ	スタンダード	ベーシック	ロング
カメラ番号1																			
カメラ番号2																			
カメラ番号3																			
カメラ番号4																			
カメラ番号5																			
カメラ番号6																			
カメラ番号7																			
カメラ番号8																			
カメラ番号9																			
カメラ番号10																			
カメラ番号11																			
カメラ番号12																			
カメラ番号13																			
カメラ番号14																			
カメラ番号15																			
カメラ番号16																			

設定リスト(つづき)

● ③ 記録パターンCの設定をする ※

② 通常記録設定																			
カメラ/カメラ		記録コマ数										記録画質							
フィールド	フレーム	30	15	10	7.5	6	5	3	2	1	0.5	0.25	0.125	スーパー	ファイン	ハイ	スタンダード	ベーシック	ロング
カメラ番号1																			
カメラ番号2																			
カメラ番号3																			
カメラ番号4																			
カメラ番号5																			
カメラ番号6																			
カメラ番号7																			
カメラ番号8																			
カメラ番号9																			
カメラ番号10																			
カメラ番号11																			
カメラ番号12																			
カメラ番号13																			
カメラ番号14																			
カメラ番号15																			
カメラ番号16																			

③ アラーム記録設定																				
カメラ/カメラ		記録コマ数										記録画質								
フィールド	フレーム	30	15	10	7.5	6	5	3	2	1	0.5	0.25	0.125	スーパー	ファイン	ハイ	スタンダード	ベーシック	ロング	
カメラ番号1																				
カメラ番号2																				
カメラ番号3																				
カメラ番号4																				
カメラ番号5																				
カメラ番号6																				
カメラ番号7																				
カメラ番号8																				
カメラ番号9																				
カメラ番号10																				
カメラ番号11																				
カメラ番号12																				
カメラ番号13																				
カメラ番号14																				
カメラ番号15																				
カメラ番号16																				

設定リスト(つづき)

● 4 記録パターンDの設定をする ※

② 通常記録設定																			
カメラ/カメラポート		記録コマ数										記録画質							
カメラ	ポート	30	15	10	7.5	6	5	3	2	1	0.5	0.25	0.125	スーパー	ファイン	ハイ	スタンダード	ベーシック	ロング
カメラ番号1																			
カメラ番号2																			
カメラ番号3																			
カメラ番号4																			
カメラ番号5																			
カメラ番号6																			
カメラ番号7																			
カメラ番号8																			
カメラ番号9																			
カメラ番号10																			
カメラ番号11																			
カメラ番号12																			
カメラ番号13																			
カメラ番号14																			
カメラ番号15																			
カメラ番号16																			

③ アラーム記録設定																				
カメラ/カメラポート		記録コマ数										記録画質								
カメラ	ポート	30	15	10	7.5	6	5	3	2	1	0.5	0.25	0.125	スーパー	ファイン	ハイ	スタンダード	ベーシック	ロング	
カメラ番号1																				
カメラ番号2																				
カメラ番号3																				
カメラ番号4																				
カメラ番号5																				
カメラ番号6																				
カメラ番号7																				
カメラ番号8																				
カメラ番号9																				
カメラ番号10																				
カメラ番号11																				
カメラ番号12																				
カメラ番号13																				
カメラ番号14																				
カメラ番号15																				
カメラ番号16																				

設定リスト(つづき)

● **5** エマージェンシー記録の設定をする ※

フレーム/ フィールド	プリアラーム記録時間												アラーム記録時間													
	フレーム	0分	1分	2分	3分	4分	5分	10分	15分	20分	30分	40分	50分	60分	1分	2分	3分	4分	5分	10分	15分	20分	30分	40分	50分	60分

最大記録コマ数				カメラ設定																							
フレーム選択時	60	120	180	240																							
	30	60	90	120	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16							

● **6** 音声記録の設定をする ※

音声記録設定

	記録無	記録有
入力1		
入力2		
入力3		
入力4		

音声記録モード

通常記録

アラーム記録

◆ **2** タイマー設定

● **2** タイマープログラムP1の設定をする ※

	曜日							開始終了時刻		運用設定				動き検知		指定曜日			
	日	月	火	水	木	金	土	毎日	指定	休日	開始	終了	運用設定A	運用設定B	運用設定C		運用設定D	コピー2	スキップ
1										[:]	[:]								
2										[:]	[:]								
3										[:]	[:]								
4										[:]	[:]								
5										[:]	[:]								
6										[:]	[:]								
7										[:]	[:]								
8										[:]	[:]								

● **3** タイマープログラムP2の設定をする ※

	曜日							開始終了時刻		運用設定				動き検知		指定曜日			
	日	月	火	水	木	金	土	毎日指定	休日	開始	終了	運用設定A	運用設定B	運用設定C	運用設定D		コピー2	スキップ	入切
1										[:]	[:]								[] []
2										[:]	[:]								
3										[:]	[:]								
4										[:]	[:]								
5										[:]	[:]								
6										[:]	[:]								
7										[:]	[:]								
8										[:]	[:]								

● **4** 休日の設定をする ※

<input type="text"/> / <input type="text"/>					
(月/日)					
<input type="text"/> / <input type="text"/>					
<input type="text"/> / <input type="text"/>					
<input type="text"/> / <input type="text"/>	<input type="text"/> / <input type="text"/>				

◆ **3** 動き検知設定 ※

	① 動き検知 A 設定					② 動き検知 B 設定						
	検知感度			記録開始 ドット数 (1~418) (工場出荷時の 設定は5)	検知間隔		検知感度			記録開始 ドット数 (1~418) (工場出荷時の 設定は5)	検知間隔	
	低	中	高		0.5秒	1秒	低	中	高		0.5秒	1秒
カメラ番号1				[]					[]			
カメラ番号2				[]					[]			
カメラ番号3				[]					[]			
カメラ番号4				[]					[]			
カメラ番号5				[]					[]			
カメラ番号6				[]					[]			
カメラ番号7				[]					[]			
カメラ番号8				[]					[]			
カメラ番号9				[]					[]			
カメラ番号10				[]					[]			
カメラ番号11				[]					[]			
カメラ番号12				[]					[]			
カメラ番号13				[]					[]			
カメラ番号14				[]					[]			
カメラ番号15				[]					[]			
カメラ番号16				[]					[]			

設定リスト(つづき)

◆ 4 システム設定

● 2 使用言語の選択をする ※

日本語 ENGLISH

● 3 背面端子の設定をする ※

① モードアウト設定																								
モードアウト1~4										残量設定														
トリガ					極性変更					デバイス					残量									
切	記録中	再生中	残量	パワ	アラーム	LAN	ク	オ	切	メ	メ	メ	コ	2	4	6	8	10	15	20	30	40	50	
				ON	記録		ローズ	ープン		イン	イン	イン	ピー	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
モードアウト1																								
モードアウト2																								
モードアウト3																								
モードアウト4																								

② コールアウト設定										③ ボディ音		④ ブザー							
切	0	2	4	6	8	10	15	20	30	40	50	入	切	切	残量	ワー	アラ	LAN	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%				量	ニング	ーム		
通常記録エリア																			
アラーム記録エリア																			
ロングブリアラーム																			
コピー2																			

● 4 パスワードの設定をする

操作制限パスワード			ディスク管理 パスワード
レベル1	レベル2	レベル3	
[]	[]	[]	[]

● [5] マルチプレクサの設定をする ※

① 出力A設定											
4分割表示								9分割表示			
4a		4b		4c		4d		9a		9b	
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]

① 出力A設定(つづき)											
10分割表示				13分割表示				16分割表示			
10a		10b		13a		13b		16a		16b	
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]

① 出力A設定(つづき)															
シーケンス表示 単画面表示								シーケンス表示		分割表示					
								4分割		9分割		10分割		13分割	
								a	b	a	a	a	a	a	a
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]				
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]				

① 出力A設定(つづき)											
切替時間											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒

設定リスト(つづき)

● [5] マルチプレクサの設定をする(つづき) ※

② 出力B設定											
4分割表示								9分割表示			
4a		4b		4c		4d		9a		9b	
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]

② 出力B設定(つづき)											
10分割表示				13分割表示				16分割表示			
10a		10b		13a		13b		16a		16b	
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]

② 出力B設定(つづき)											
シーケンス表示 単画面表示	シーケンス表示				分割表示						
	4分割				9分割		10分割		13分割		
	a	b	c	d	a	b	a	a	a	b	a
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	

② 出力B設定(つづき)											
切替時間											
1秒	2秒	3秒	4秒	5秒	6秒	7秒	8秒	9秒	10秒	11秒	12秒

[4] アラームディスプレイ ※

出力設定 切 出力A 出力B

	④ アラームディスプレイ															
	出力A															
	カメラ1	カメラ2	カメラ3	カメラ4	カメラ5	カメラ6	カメラ7	カメラ8	カメラ9	カメラ10	カメラ11	カメラ12	カメラ13	カメラ14	カメラ15	カメラ16
センサー1																
センサー2																
センサー3																
センサー4																
センサー5																
センサー6																
センサー7																
センサー8																
センサー9																
センサー10																
センサー11																
センサー12																
センサー13																
センサー14																
センサー15																
センサー16																

④ アラームディスプレイ 出力B

	カメラ1	カメラ2	カメラ3	カメラ4	カメラ5	カメラ6	カメラ7	カメラ8	カメラ9	カメラ10	カメラ11	カメラ12	カメラ13	カメラ14	カメラ15	カメラ16	分割4a	分割4b	分割4c	分割4d	分割9a	分割9b	分割10a	分割10b	分割13a	分割13b	分割16	
センサー1																												
センサー2																												
センサー3																												
センサー4																												
センサー5																												
センサー6																												
センサー7																												
センサー8																												
センサー9																												
センサー10																												
センサー11																												
センサー12																												
センサー13																												
センサー14																												
センサー15																												
センサー16																												

⑤ カメラ表示設定 ※

	入	切
CH 1		
CH 2		
CH 3		
CH 4		
CH 5		
CH 6		
CH 7		
CH 8		
CH 9		
CH 10		
CH 11		
CH 12		
CH 13		
CH 14		
CH 15		
CH 16		

設定リスト(つづき)

● ⑥ 画面に表示する情報を設定する ※

① 画面表示																
時刻表示				状態表示				カメラ表示								
表示モード		表示位置		表示モード		表示位置		表示モード		表示位置						
モード1	モード2	モード3		モード1	モード2	モード3	モード4	モード5		番号	タイトル	無				

② カメラタイトル設定	
カメラ番号1	[]
カメラ番号2	[]
カメラ番号3	[]
カメラ番号4	[]
カメラ番号5	[]
カメラ番号6	[]
カメラ番号7	[]
カメラ番号8	[]
カメラ番号9	[]
カメラ番号10	[]
カメラ番号11	[]
カメラ番号12	[]
カメラ番号13	[]
カメラ番号14	[]
カメラ番号15	[]
カメラ番号16	[]

④ レコーダータイトル設定	
タイトル表示	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
レコーダータイトル	[]

⑤ モニター出力調整					
スクリーンモード	透かしのレベル設定				
	メニュー	情報表示			
オーバースキキャン	アンダースキャン				
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル3

● ⑦ 音声切換えの設定をする ※

	単画面表示				
	Channel 1	Channel 2	Channel 3	Channel 4	切
カメラ1					
カメラ2					
カメラ3					
カメラ4					
カメラ5					
カメラ6					
カメラ7					
カメラ8					
カメラ9					
カメラ10					
カメラ11					
カメラ12					
カメラ13					
カメラ14					
カメラ15					
カメラ16					

	分割画面表示				
	Channel 1	Channel 2	Channel 3	Channel 4	切
4分割a					
4分割b					
4分割c					
4分割d					
9分割a					
9分割b					
10分割a					
10分割b					
13分割a					
13分割b					
16分割					

◆ 6 オプション設定

● 1 XGA出力の画面設定 ※

表示形式					表示画質			
表示1	表示2	表示3	表示4	表示5	強	中	弱	切

■ システムメニュー (300 000 000)

◆ 1 通信設定

● 1 RS-232C通信の設定をする ※

RS-232C運用		RS-232C設定															
		転送速度					データビット長		パリティ		ストップビット		CR/CR・LF				
リモートA	リモートB	リモートC	切	1200 bps	2400 bps	4800 bps	9600 bps	19200 bps	8 bit	7 bit	無	奇数	偶数	1 bit	2 bit	CR	CR・LF

● 2 RS-485カスケード接続の設定をする ※

カスケード接続		カスケードアドレス																
無	有	マスタ	スレーブ1	スレーブ2	スレーブ3	スレーブ4	スレーブ5	スレーブ6	スレーブ7	スレーブ8	スレーブ9	スレーブ10	スレーブ11	スレーブ12	スレーブ13	スレーブ14	スレーブ15	スレーブ16
		ID.01	ID.01	ID.02	ID.03	ID.04	ID.05	ID.06	ID.07	ID.08	ID.09	ID.10	ID.11	ID.12	ID.13	ID.14	ID.15	ID.16

● 3 LAN B Web/専用アプリケーションの通信設定をする ※

IPアドレス	192.168.000.100
サブネットマスク	255.255.255.000
ゲートウェイ	000.000.000.000
Web	00080
User Access	53705
Super User	53706

● 4 LAN A NASハードディスクの通信設定をする ※

IPアドレス	192.168.001.100
サブネットマスク	255.255.255.000
ゲートウェイ	000.000.000.000

設定リスト(つづき)

◆ ② PTZ設定

● ① PTZカメラの設定をする ※

	カメラ名	ポート		カメラID	パン反転		チルト反転	
		RS-485	RS-232C		切	入	切	入
カメラ番号1	[]			[]				
カメラ番号2	[]			[]				
カメラ番号3	[]			[]				
カメラ番号4	[]			[]				
カメラ番号5	[]			[]				
カメラ番号6	[]			[]				
カメラ番号7	[]			[]				
カメラ番号8	[]			[]				
カメラ番号9	[]			[]				
カメラ番号10	[]			[]				
カメラ番号11	[]			[]				
カメラ番号12	[]			[]				
カメラ番号13	[]			[]				
カメラ番号14	[]			[]				
カメラ番号15	[]			[]				
カメラ番号16	[]			[]				

◆ 5 デバイス登録

● 1 HDDの追加／削除する

メインデバイス

1 内蔵HDD	
[]	
[]	
[]	
[]	
2 外付HDD(シリアルバスHDD)	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
3 外付HDD(SCSI HDD)	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	
[]	

コピー1デバイス

シリアルバス グループ	[]	NASグループ	[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]	SCSIグループ	[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
[]	DVD/CD	[]	
[]	USBメモリ	[]	

設定リスト(つづき)

● ① HDDの追加／削除する(つづき)

コピー2デバイス

内蔵HDD グループ	[]	NASグループ	[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
シリアルバス グループ	[]	SCSIグループ	[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]	DVD/CD	[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]		[]
	[]	[]	
	[]	[]	
	[]	[]	
	[]	[]	
[]	[]		
[]	[]		
[]	[]		
[]	[]		

● ② DVD／CDデバイスの追加／削除をする

コピー1/コピー2の切り換え コピー1 コピー2

● [3] メインデバイスの記録設定をする

メインデバイスの設定

- 通常記録エリアのレポート記録 入 切
 アラーム記録エリアのレポート記録 入 切
 LPA(ロングブリアラーム)エリアのレポート記録 入 切

④ パーティション変更																			
通常記録エリア																			
																	100%		
5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%	55%	60%	65%	70%	75%	80%	85%	90%	95%	100%

④ パーティション変更(つづき)																				
アラーム記録エリア																				
0%	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%	55%	60%	65%	70%	75%	80%	85%	90%	95%	

④ パーティション変更(つづき)																				
ロングブリアラームエリア																				
0%	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%	55%	60%	65%	70%	75%	80%	85%	90%	95%	

● [4] 再生の設定をする

レポート再生 ※

改変確認再生

データ保存期間設定 ※																				
入	切	切	入	切	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	14日	21日	30日	60日	90日	120日	150日	180日	365日

用語集／設定カメラ数・記録コマ数設定と記録動作の関係

■ 用語集

オートパン

カメラをこのモードに設定すると、自動的に、あらかじめ設定した2点間を水平に回転します。この機能が使用できるかどうかは、接続したカメラの仕様によって異なります。

NAS (Network Attached Storage)

ネットワークに直接接続して使用するファイルサーバー専用機です。サーバーを中心としたシステムのサーバーが持っているような、Eメール、認証、ファイルマネジメントなどの機能は持っていません。NASはメンテナンスやアップグレードのためにすでに動いているサーバーを停止させずにネットワークに追加するためのハードディスク容量のスペースを多く持っています。NASデバイスは、記録はサーバーの内蔵部では行いません。代わりに、この記録中心の設計の中で、サーバーが全てのデータ処理を行い、NASデバイスはそのデータをユーザーに伝達します。NASデバイスはサーバーの中に置く必要はなく、LANのどこかに置くことができます。また複数のネットワークにつながったNASデバイスを作ることもできます。

シリアルバス

このインターフェースは、USB2.0インターフェースを持つマウス、USBメモリ、外付けハードディスクドライブに接続するために使用します。市販されているデバイスの中には、本機と互換性のないものもあります。

エマージェンシー記録

本機に接続した外部スイッチを使用して、緊急事態が発生したときなどに優先的に記録を行う機能です。画像は最高の画質と設定したコマ数で記録されます。(記録カメラの数により異なります。)

ブックマークサーチ

ブックマーク機能によりあらかじめ登録されたブックマークを使用して、希望の画像をサーチする機能です。

カスケード接続

カスケード接続すると、マスターレコーダーを操作するだけで、複数のレコーダーの画像を見たり音声を聞いたりすることができます。

PTZ

PTZはパン(Pan)、チルト(Tilt)、ズーム(Zoom)を意味します。PTZカメラは、外部からのコントロールによって方向を変える機能を持っています。

タイマー記録

タイムスケジュールによって画像を記録する機能です。記録するカメラの数、それぞれのカメラの画質や記録コマ数、動き検知のオン/オフなどをスケジュールごとに設定することができます。

動き検知再生検索

設定した範囲の中で動きを検知することによって記録画像を自動的にサーチする機能です。この機能を使用する前に、あらかじめサーチする検知範囲を設定しておく必要があります。

DVD (Digital Versatile Disk)

高画質、高音質で映画を再生したり、データを記録するために使用される光ディスク記録メディアです。DVDの外観はCDに似ています。

LPA (Long Pre-Alarm)

エマージェンシー記録が始まる最高60分前からの画像を記録する機能です。

CALL OUT

単独の出力端子で、システムに問題が発生したり、状態の情報を持っているときに信号を出力します。

MODE OUT

接触出力端子で、本機の動作モードを出力します。この端子の状態は通信で管理することができます。

ライブ中再生

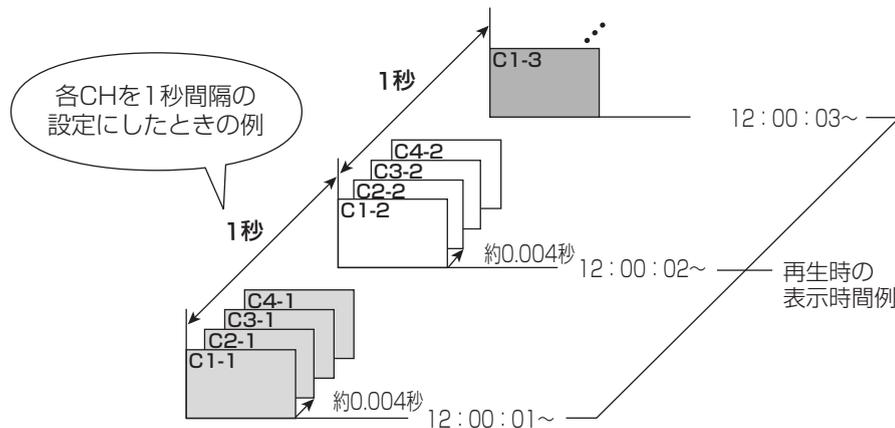
記録を中断することなく、1台のモニター上で分割画面表示することにより、カメラからの映像と再生画像を同時に表示することができます。

カメラ表示設定

慎重を期する範囲に設置されたカメラの画像や許可された人間だけが見るべき画像を隠すことができます。<マルチプレクサの設定をする>で設定を切り換えることができます。

■ 設定カメラ数・記録コマ数設定と記録動作の関係

本機での映像の取り込み(記録)は、下図のようなタイミングで行われます。映像は、設定された全カメラから連続して(通常記録で約0.004秒間隔)取り込まれます。



仕様

一般		
電源	AC100V±10% 50/60Hz	
定格電流	1.2A	
信号方式	NTSC方式	
許容周囲温度	5~40℃	
許容相対湿度	最大80%	
許容高度	2000m以下	
外形寸法	42.5(幅)×18.5(高さ)×39.0(奥行)cm	
質量	15.9kg	
記録方式	JPEG2000方式圧縮によるデジタル記録方式	
サンプリング	13.5MHz	
データ圧縮方式	JPEG2000	
映像圧縮単位	フレーム、フィールド	
音声記録方式	PCM方式	
記録画素数	720×480、720×240	
記憶媒体	ハードディスクドライブ	
入力	16入力BNCコネクター 1.0V(p-p) 75Ω	
モニター出力	S(Y/C)コネクター Y(輝度信号): 1.0V(p-p) 75Ω、C(色信号): 0.286V(p-p) 75Ω	
	BNCコネクター 1.0V(p-p) 75Ω (2系統)	
	RCAピン 1.0V(p-p) 75Ω	
スルー出力	16出力BNCコネクター 1.0V(p-p) 75Ω	
オーディオ入力	RCAピン 308mV(rms) 50kΩ (4系統)	
オーディオ出力	RCAピン 308mV(rms) 1kΩ	
カスケード映像入力	BNCコネクター 1.0V(p-p) 75Ω	
カスケード映像出力	BNCコネクター 1.0V(p-p) 75Ω	
カスケード音声入力	RCAピン 308mV(rms) 50kΩ	
カスケード音声出力	RCAピン 308mV(rms) 1kΩ	
外部記録用端子	シリアルバス(1~6) 当社推奨品のみ接続可	
時刻精度	±20秒/月以内(電源供給時、常温)	
タイマープログラム		
プログラム数	完全独立8プログラム×2セット	
曜日設定	月~日、毎日および任意曜日間設定	
時間設定	タイマーONおよびOFF時間設定	
バッテリー		
バックアップ	約1カ月(フル充電時)	
制御端子		
ALARM IN	アラーム記録開始信号入力	動作時: GND端子に短絡または「L」レベル電圧印加、 非動作時: オープン
ALARM OUT	アラーム記録開始信号出力	動作時: 「L」レベル電圧出力 最大電流7mA DC 非動作時: オープン 最大電圧+24V DC
CLOCK ADJ IN	時計正時合わせ入力	動作時: GND端子に短絡または「L」レベル電圧印加、 非動作時: オープン
CLOCK ADJ OUT	時計正時合わせ出力	動作時: ショート 最大電流7mA DC、 非動作時: オープン 最大電圧+24V DC
CALL OUT -	(CLOCK ADJ OUTは、CLOCK ADJ INのスルー出力です。)	
REC START IN	記録指令信号入力	同上
REC STOP IN	記録停止信号入力	同上
EMERGENCY	エマージェンシー記録信号入力	同上
MODE OUT +/- 1~4	動作モード信号出力(リレー出力)	動作時: ショート 最大電流500mA DC、 非動作時: オープン 最大電圧+24V DC
CALL OUT +	ワーニング警報信号(フォトカプラ出力)	動作時: ショート 最大電流7mA DC、 非動作時: オープン 最大電圧+24V DC
CALL OUT -		
DC 12V OUT	DC12V 出力	電源ON時: 出力 最大電流350mA
GND	グラウンド	
RS-232C/RS-422	複合一体型カメラのPTZコントロール用	
RS-485	入出力端子 RJ-11	
RS-232C	パーソナルコンピューター接続用、RS-232C規格準拠(D-sub9ピンコネクタ)	
LAN (A, B)	コネクタ形状 RJ-45	
	物理インターフェース 10BASE-T/100BASE-TX	
オプションボード用カードスロット	PCIスロット(ロープロファイル)当社推奨オプション品のみ接続可	

付属品	
●電源コード	1本
●BNCコード	1本
●取扱説明書(工事業者向け) (本書)	1冊
●取扱説明書(ユーザー向け)	1冊
●操作早見表	1冊
●保証書	1通
●CD	1枚
●クランプ用バンド	2本

DVD-R/RW、CD-R/RWへの記録フォーマット 当社独自フォーマット

JIS C 61000-3-2適合品

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

はじめに

接続・基本操作

メニュー一覧

運用

基本機能

通信

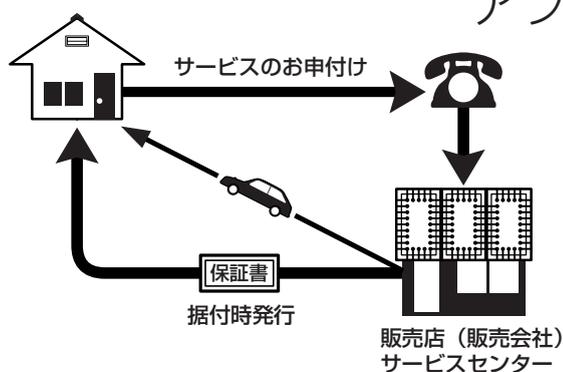
記録時間表

故障かな?

設定リスト

用語集・仕様

アフターサービス



デジタルレコーダーを末長くご愛用いただくために、定期点検を受けられることをおすすめします。点検については販売店にご相談ください。

1. 保証書—内容のご確認と保存のお願い

必ず販売店名・保証期間をご確認のうえ、よくお読みになって、大切に保存してください。

2. 保証期間—1年

正常なご使用状態で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書記載事項に基づき販売店で修理いたします(消耗部品を除く)。保証期間内でも原則として有料にさせていただきます。詳細は、保証書記載事項をごらんください。

3. 修理を依頼される前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、「故障かな」と思う前にの項を点検していただき、なお異常のあるときは保証書をお示しのうえ、販売店にお申し出ください。

4. その他ご不明の点は

販売店にご相談ください。

本機は日本国内専用です。放送方式、電源電圧の異なる海外では使用できません。また、海外でのアフターサービスもできません。

This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

愛情点検

●長年ご使用のデジタルレコーダーの点検をぜひ！

(熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。)



このような
症状は
ありませんか

- 電源コード、プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、映像が出ない。
- その他の異常・故障がある。

ご使用
中 止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

デジタルレコーダーの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

ご購入店などをメモしておく、あとで役に立ちます。

形 名	DX-TL5500	お買上げの 販売店	
お買上げ日		(電話番号)	() -



DX-TL5500

三菱電機株式会社

京都製作所 〒617-8550 京都府長岡京市馬場岡所1番地